

北秋田市中心市街地活性化ビジョン

北 秋 田 市

平成24年3月

<目 次>

1. 北秋田市の中心市街地の現状と課題	1
(1) 北秋田市の概況	1
(2) 北秋田市及び中心市街地の現状把握	4
(3) 地域住民ニーズに関する把握・分析	28
(4) まちづくりの上位計画・関連計画	45
(5) 中心市街地活性化の課題の整理	49
2. 北秋田市の中心市街地活性化の基本方針	55
(1) 北秋田市中心市街地の将来像	55
(2) 中心市街地の位置及び区域	56
(3) 中心市街地活性化の効果を図る指標	57
(4) 中心市街地活性化に向けた各主体の役割分担	61
3. 北秋田市の中心市街地活性化の方策	62
(1) 活性化施策の基本方針	62
(2) 中心市街地活性化の施策	64
(3) 施策の内容	65
(4) 施策の位置図	70
4. 中心市街地活性化の実現に向けて	71

1. 北秋田市の中心市街地の現状と課題

(1) 北秋田市の概況

① 位置・地勢・気候

北秋田市は、秋田県の北部中央に位置しており、南側を秋田市、東を大館市、鹿角市、仙北市、西側を上小阿仁村、能代市、藤里町と接している。平成 17 年 3 月に鷹巣町、合川町、森吉町、阿仁町が合併し、総面積 1,152.5km²の現在の市域となった。県内で由利本荘市について、2番目に広い市域を有しているものの、可住地面積は全体の約 16% で大半は山林となっている。

市北部には、奥羽山脈の中岳を水源とした秋田県第 2 位の流域面積を有する米代川が西流し、その支川である阿仁川・小阿仁川が南から北に縦走している。米代川中流域に拓けた鷹巣盆地（標高 30～60m）を中心として、阿仁川・小阿仁川等の河川流域（標高 30～200m）に優れた農地が広がり、さらに市街地や集落を形成し、社会、経済、文化の基盤をなしている。また、阿仁川の源流域にあたり県立自然公園に指定される森吉山（標高 1,454m）が市南東部に位置している。

国道 7 号が東西に走り、南北には国道 105 号、国道 285 号が整備されている。また、J R 奥羽本線や秋田内陸縦貫鉄道が公共交通機関として整備され、日本海沿岸東北自動車道の延伸により大館能代空港と高速道路がつながる計画が進められており、交通体系は着実に整備されつつある。

米代川中流部の鷹巣盆地を中心に阿仁川の流域に農地を形成、市街地が点在し、稲作を中心とした農業が盛んである。空港の開港により、文化交流が一層活発化され、臨空港型産業の集積やフライト農業、各種情報の受発信機能など、空港利活用による様々な波及効果をもたらしている。

気象をみると、平均気温 10.3℃、最高気温 34.8℃、最低気温が-11.4℃であり、降水量は年間 2,010.0mm となっている。年間の気温変化が大きい典型的な内陸性盆地型気候となっている。冬季は低温で山間部では積雪量が非常に多く、森吉地区や阿仁地区は、特別豪雪地帯に指定されている。

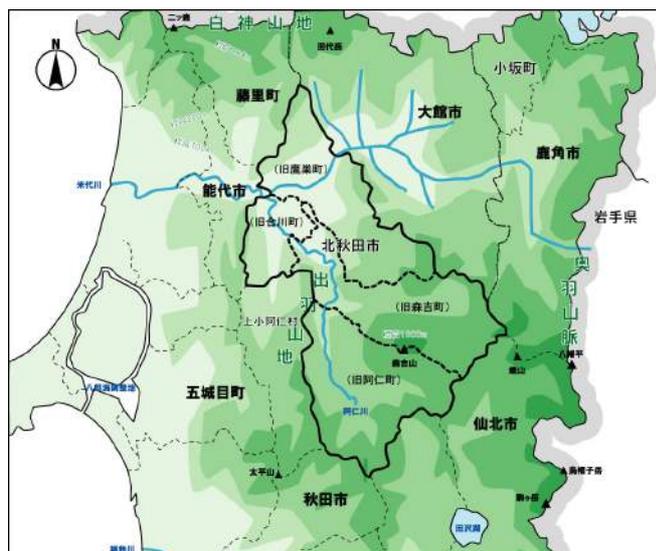


図 1-1-1 北秋田市の位置

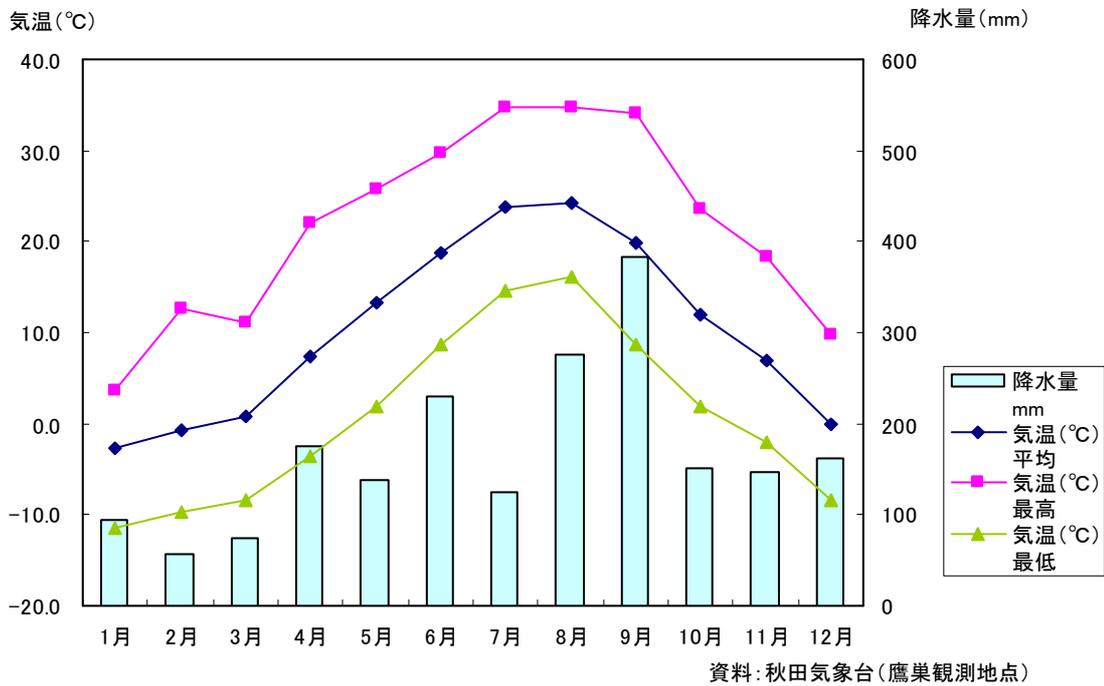


図 1-1-2 北秋田市の気象(平成 22 年)

表 1-1-1 北秋田市の気象

	気温(°C)			降水量 mm	平均風速 m/s	日照時間 h
	平均	最高	最低			
1月	-2.8	3.6	-11.4	95.0	2.3	47.9
2月	-0.7	12.7	-9.6	56.0	1.7	105.1
3月	0.9	11.2	-8.3	74.0	1.9	104.3
4月	7.4	22.1	-3.5	176.0	2.5	117.5
5月	13.2	25.7	1.9	137.5	2.3	146.1
6月	18.7	29.8	8.7	229.0	1.9	152.3
7月	23.8	34.8	14.7	124.5	2.1	186.2
8月	24.2	34.8	16.1	275.5	1.6	175.2
9月	19.8	34.0	8.6	383.5	1.6	104.3
10月	12.0	23.5	1.8	150.5	1.7	116.5
11月	7.0	18.3	-2.0	146.5	1.8	72.6
12月	-0.1	9.7	-8.3	162.0	2.3	40.4
全年	10.3	34.8	-11.4	2,010.0	2.0	1,368.4

資料：秋田気象台（鷹巣観測地点）

② 北秋田市中心市街地の成り立ち

北秋田市は江戸時代、阿仁鉱山と旧二ツ井町を結ぶ阿仁街道の脇街道の宿場町として、また、米代川の川港町として発展してきた地域である。

鷹巣地区は明治12年に郡役所が置かれ、旧北秋田郡の中心都市としての役割を担ってきた。明治33年に奥羽本線大館～鷹巣間開通、35年には青森～秋田間が開通した。その後、昭和11年に鷹ノ巣駅を起点とする「阿仁合線」が全線開通し、交通の要所と郡都として商業活動も盛んになってきた。

かつては、現在の県道鷹巣川井堂川線沿線の大町や元町が栄えていた。昭和25年の大火によって鷹巣中心部の2/3にあたる約700戸が焼失し、火災復旧都市計画区域の指定を受け、土地区画整理事業が進められ、昭和32年に現在の街並みが整った。このとき、官公署や北秋中央病院、銀行などの公共公益施設も復旧新設されるとともに、鷹ノ巣駅前幅員18mの道路が整備され、沿道に商店街が形成されていった。昭和40年代にはアーケードが整備されるなど、商業環境の向上が図られ、北秋田郡内から多くの人を訪れ、賑わっていた。



出典：鷹巣町史第1巻 PP600

図 1-1-3 大正六年頃の鷹巣町

(2) 北秋田市及び中心市街地の現状把握

北秋田市及び中心市街地の現状について以下に示す。ここでの中心市街地とは、「2. 中心市街地の位置及び区域」において定めた範囲とする。

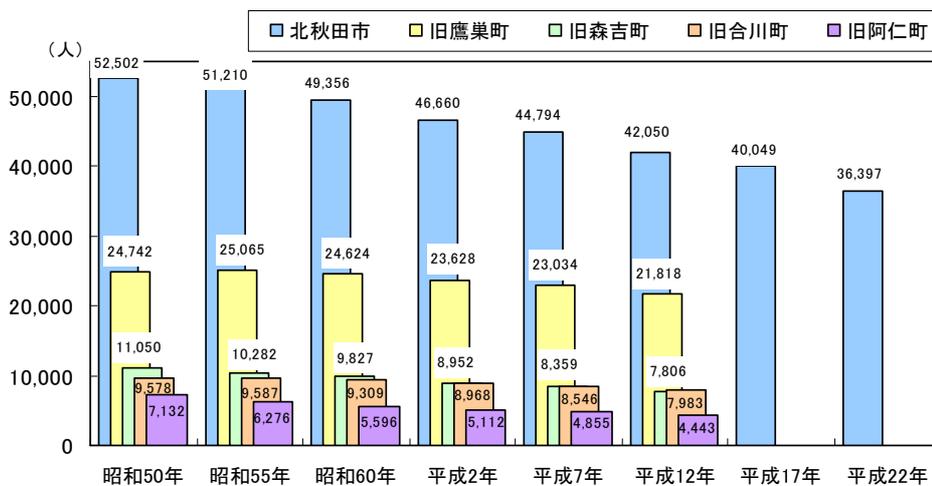
1)人口

① 北秋田市と中心市街地の人口推移

平成 22 年現在の北秋田市の人口は 36,397 人（国勢調査）となっている。人口の推移を見ると平成 17 年から平成 22 年の 5 年間で 9.1%減少している。これは秋田県の減少率 5.2%を大幅に上回っており、人口減少は急速に進んでいるといえる。年齢 3 区分人口構成は、年少人口（15 歳未満）10%、生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）54%、老年人口（65 歳以上）36%であり、昭和 50 年と比較すると、年少人口と生産年齢人口が減少し、老年人口の増加が顕著になっている。

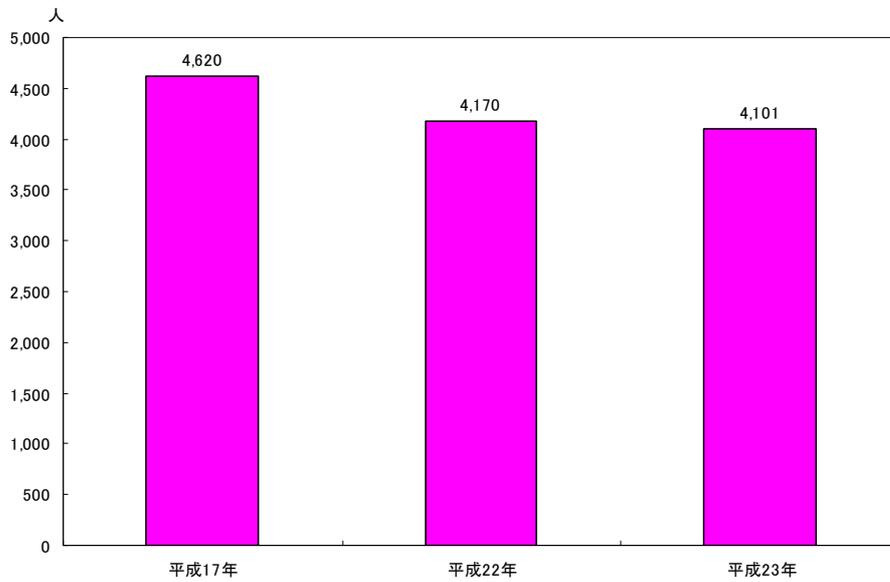
住居表示区域内の人口は、平成 23 年現在 4,101 人となっている。平成 17 年から平成 22 年までの減少率は 9.7%と北秋田市全体の減少率(9.1%)に比べても大きくなっている。また平成 23 年現在 65 歳以上の老年人口比率が 36%となっている。

人口減少・少子高齢化の進行が著しい北秋田市だが、中心市街地でも傾向は同様で、これに対応したまちづくりや消費者ニーズの変化に対応した商業環境づくりが求められている。



資料：各年国勢調査

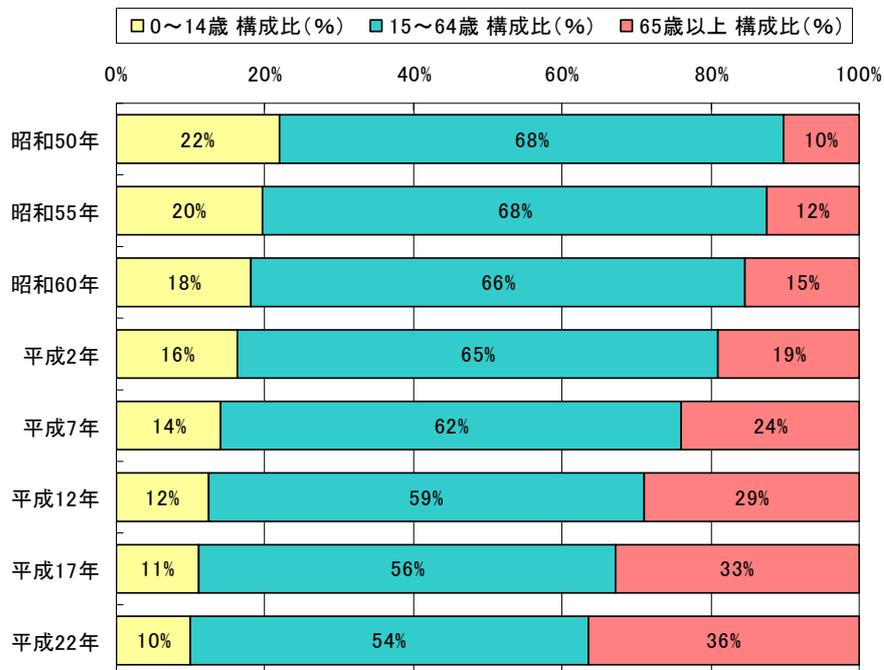
図 1-2-1 北秋田市の人口推移



資料：住民基本台帳 各年 10月1日現在

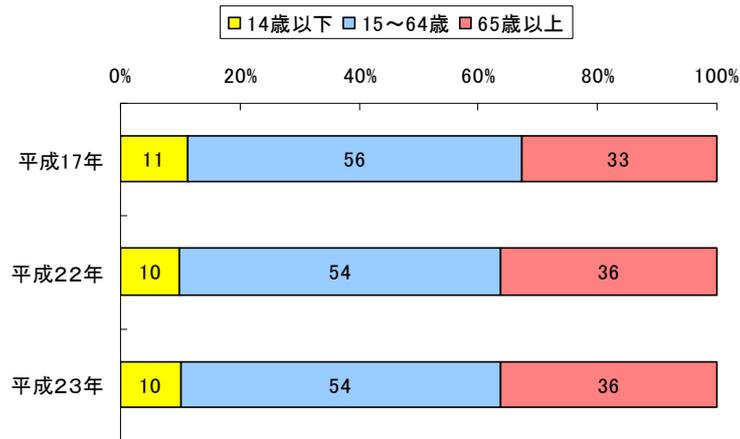
住居表示区域内の人口：元町、大町、米代町、住吉町、松葉町、材木町、花園町、東横町、宮前町、旭町、伊勢町の合計値

図 1-2-2 住居表示区域内の人口推移



資料：各年国勢調査

図 1-2-3 北秋田市の年齢3区分人口の推移



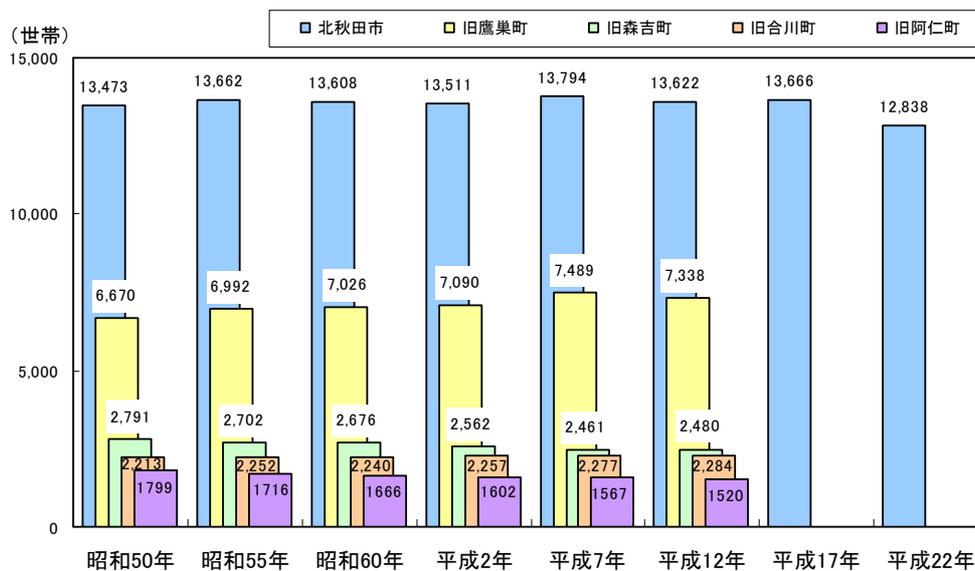
資料：住民基本台帳 各年10月1日現在

住居表示区域内の人口：元町、大町、米代町、住吉町、松葉町、材木町、花園町、東横町、宮前町、旭町、伊勢町の合計値

図 1-2-4 住居表示区域内の年齢別3区分人口の推移

② 世帯数

世帯数は13,000世帯前後で推移しており、30年間ほぼ同じ水準となっている。人口が減少しているなかで、世帯数の大きな変化が無いことから、核家族化・高齢者世帯等の増加が予想される。



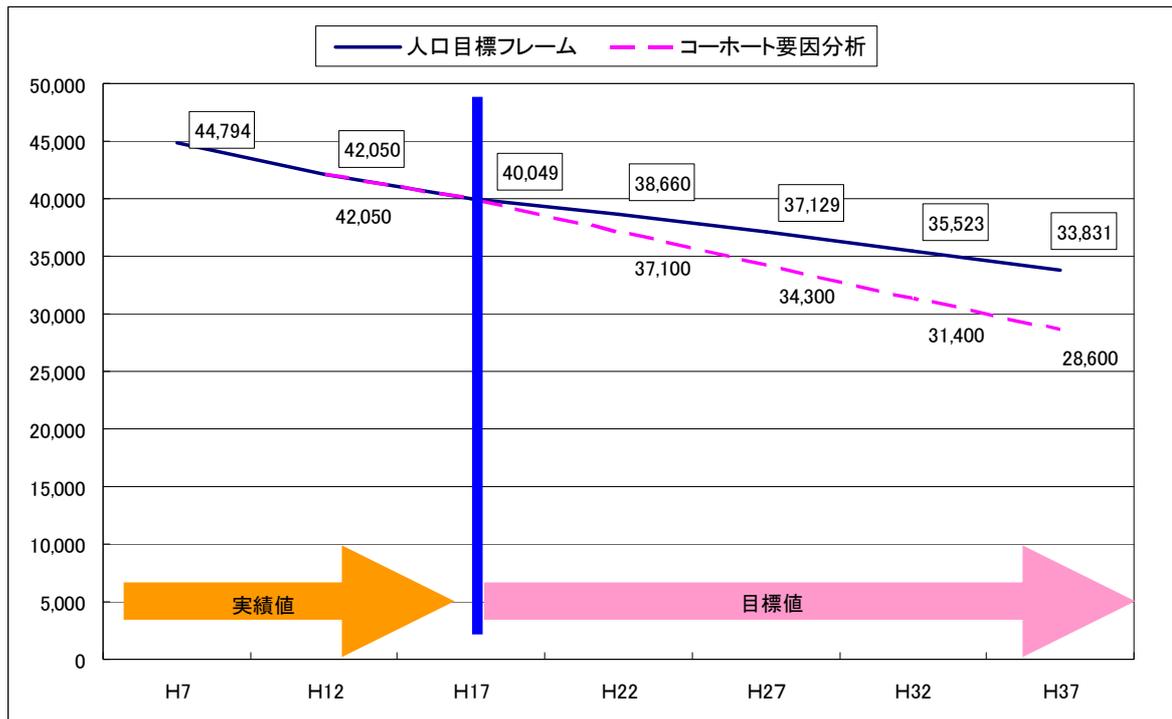
資料：各年国勢調査

図 1-2-5 北秋田市の世帯数の推移

③ 将来の人口推計

北秋田市の人口は今後も減少傾向が進み、平成 37 年には約 28,600 人まで減少すると予測されているが、新規雇用対策や子育て支援策により約 34,000 人の維持を目標としている。

(北秋田市総合計画より)



出典：北秋田市総合計画

図 1-2-6 北秋田市の人口推計

④人口集中地区の推移

人口集中地区（DID）は、昭和55年において面積1.6km²、人口密度5,031人/km²であったものの、平成17年においては、DID面積1.65km²、人口密度3,783人/km²となっており、面積が微増している一方で、人口密度が大きく減少しており、低密度化が進んでいる。

表 1-2-1 北秋田市における DID の面積、人口の推移

	DID 面積(km ²)	DID 人口(人)	人口密度 (人/km ²)
昭和 55 年	1.60	8,050	5,031.25
昭和 60 年	1.60	7,566	4,728.75
平成 2 年	1.50	6,895	4,596.67
平成 7 年	1.60	7,111	4,444.38
平成 12 年	1.61	6,437	3,998.14
平成 17 年	1.65	6,243	3,783.64

資料：平成17年国勢調査、都市計画基礎調査

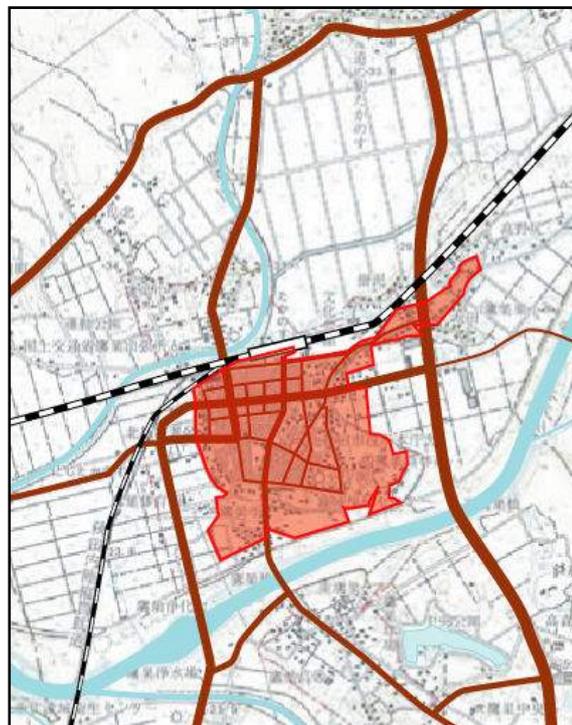
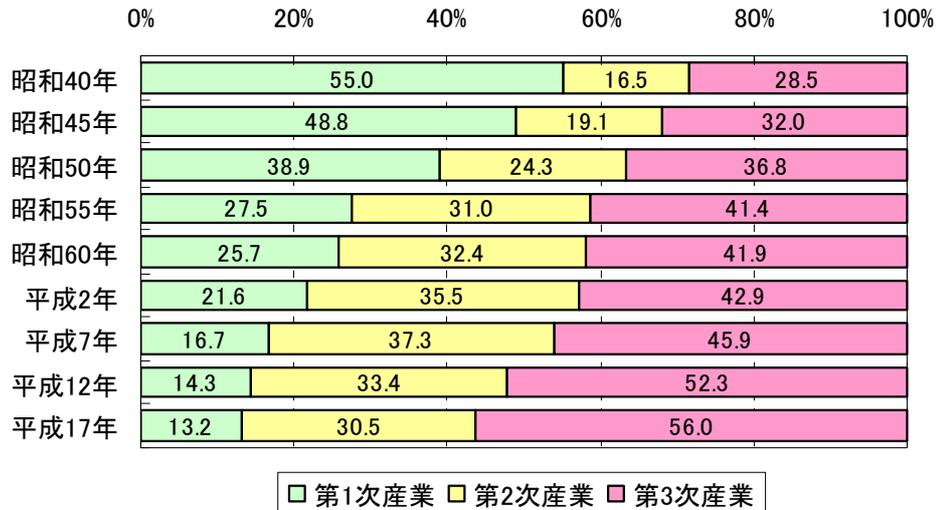


図 1-2-7 DID地区の位置(平成17年)

⑤ 就業人口

北秋田市の産業は、稲作を中心とした第1次産業が基幹産業として位置づけられているが、その就業者数は年々減少しており、近年はサービス業などの第3次産業就業者数が増加傾向を示している。



資料：各年国勢調査

図 1-2-8 産業別就労人口の推移

2)交通の状況

北秋田市は江戸時代、羽州街道と阿仁・大覚野・五城目街道が交わる要所であった。さらに明治33年に奥羽本線鷹ノ巣駅が開業。後に秋田内陸縦貫鉄道となる阿仁合線が昭和9年に開業してからは、道路網・鉄道網の集結する交通の要所となっている。平成10年には大館能代空港が開港し、東京との広域的な交通基盤が整備された。近年は日本海沿岸自動車道と大館能代空港を結節するための整備が進められており、高速交通体系が整いつつある。

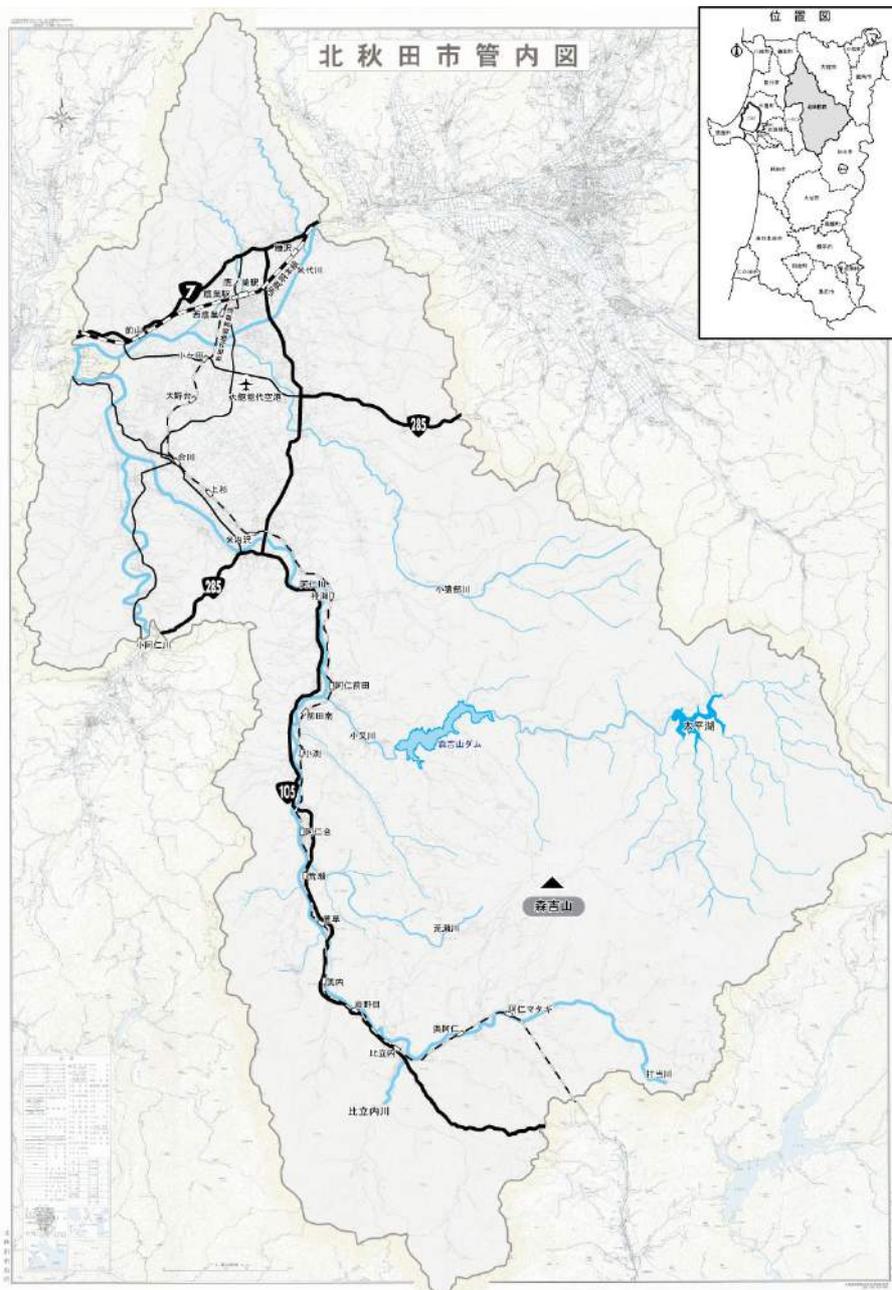


図 1-2-9 交通体系図

① 鉄道

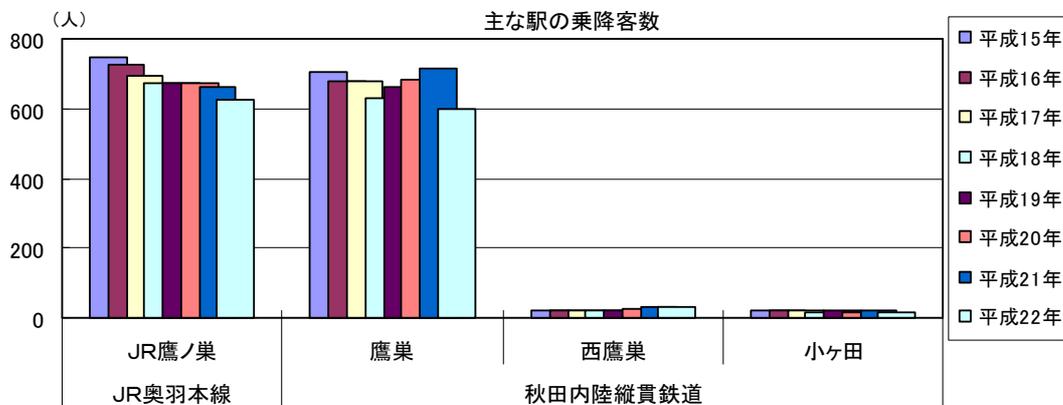
北秋田市の北部に位置する鷹巣地区は、東西にJR奥羽本線、南に秋田内陸縦貫鉄道が縦貫している。

JR鷹ノ巣駅の一日平均乗降者数は平成22年現在で624人となっており、平成15年の749人に比べ100人以上減少している。また、鷹巣地区を起点に合川地区、森吉地区、阿仁地区の旧町中心地を縦貫している秋田内陸縦貫鉄道では、最も利用者の多い鷹巣駅で一日平均乗降車数が平成22年現在で597人であり、平成15年の702人に比べ約100人減少している。

表 1-2-2 主な駅の一日常乗降者数の推移

路線名	駅名	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
JR奥羽本線	JR鷹ノ巣	749	726	694	673	671	674	663	624
秋田内陸線	鷹巣	702	676	676	630	660	681	714	597
	西鷹巣	20	21	23	22	22	25	31	31
	小ヶ田	23	19	20	18	20	18	19	14

資料：東日本旅客鉄道（株）、秋田内陸縦貫鉄道（株）



資料：東日本旅客鉄道（株）、秋田内陸縦貫鉄道（株）

図 1-2-10 主な駅の一日常乗降客数

②バス

鷹巣地区を走行する一般乗合バスは平成 23 年現在 14 系統あり、大館能代空港へのリムジンバス、鷹巣―東京間を結ぶ高速バスも運行されている。本地区内を走行するバス路線輸送人員は、平成 13 年に 100 万人以上であったが、平成 23 年には約 37.6 万人まで減少している。同時に平成 13 年には 22 系統あったバス路線も、路線の廃止統合が行われており、利便性の低下が懸念される。

表 1-2-3 バス路線の運行人員数の推移

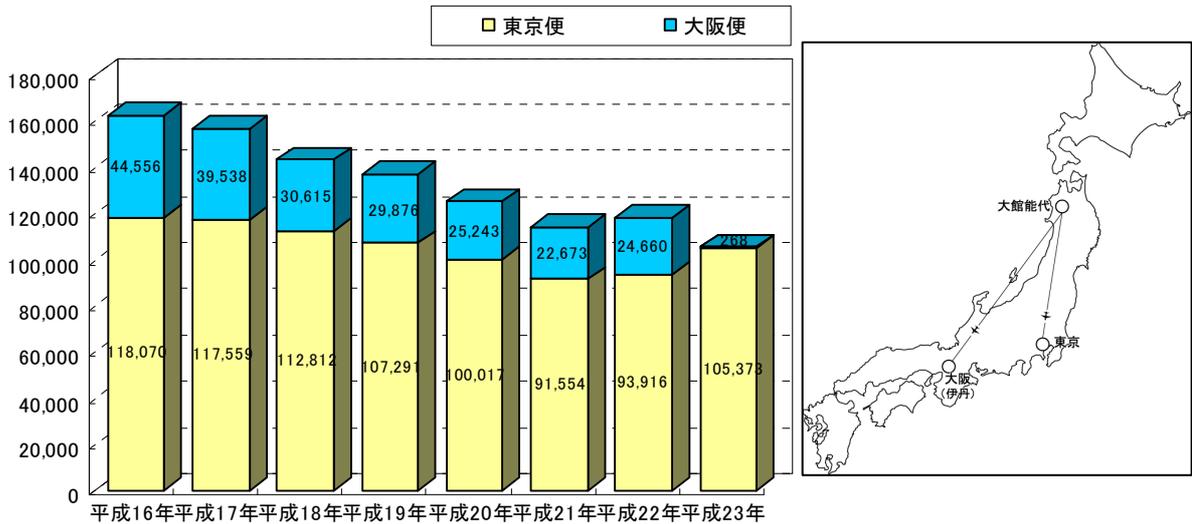
系統名	起点	起点市町村	経由地	終点	終点市町村	輸送人員(人)			備考
						平成13年	平成18年	平成23年	
大館・鷹巣線	鳳鳴高校前	大館市	早口駅前	鷹巣駅前	北秋田市	163,772	114,454	58,665	
南沢(2)線	ダム入口	上小阿仁村	五反沢三叉路	鷹巣駅前	北秋田市	8,824	97,280	79,953	
合川(3)線	マックスバリュ鷹巣	北秋田市	市民病院前・五反沢三叉路	沖田面	上小阿仁村	4,557	26,015	53,244	平成13年起点「鷹巣営業所」平成18年起点「鷹巣駅前」平成13・18年の経由地「金沢」
(普)米内沢・大館線	米内沢営業所	北秋田市	鷹巣	鳳鳴高校前	大館市	35,500	81,826	77,418	
大館・鷹巣(2)線	鳳鳴高校前	大館市	団地前	鷹巣駅前	北秋田市	46,958	27,984	38,603	平成13・18年の系統名「鷹巣(2)線」
鷹巣線	米内沢営業所	北秋田市	七日市	鷹巣駅前	北秋田市	1,932	5,116	3,555	
明利又(1)線	鷹巣駅前	北秋田市	三の渡	明利又	北秋田市	1,654	10,967	4,333	
明利又(2)線	鷹巣駅前	北秋田市	菅谷地	明利又	北秋田市	12,187	24,553	8,613	
七座(2)線	鷹巣駅前	北秋田市	自動車学校前	薬師山スキー場	北秋田市	8,048	48,024	27,401	
糠沢線	鷹巣駅前	北秋田市	綴子	糠沢	北秋田市	47,798	1,760	1,425	
小森・湯の岱線	マックスバリュ鷹巣	北秋田市	ケアタウン前・小森	長寿の湯前	北秋田市	10,415	11,199	12,089	平成13年起点「鷹巣営業所」平成18年起点「鷹巣駅前」平成13・18年の経由地「新小森」、終点「湯ノ岱」
葛黒線	鷹巣駅前	北秋田市	脇神	上葛黒	北秋田市	17,019	1,918	390	平成13・18年の終点「葛黒」
ショッピングセンター線	鷹巣駅前	北秋田市	いとく	マックスバリュ鷹巣	北秋田市	—	—	6,457	
鷹巣高校(1)線	鷹巣駅前	北秋田市	舟場	鷹巣高校前	北秋田市	489,261	10,345	4,249	
(普)米内沢・大館(2)線	米内沢操車場	北秋田市	団地前	鳳鳴高校前	大館市	1,154	2,430	—	
南沢(1)線	鷹巣営業所	北秋田市	米内沢・沖田面	ダム入口	上小阿仁村	8,651	—	—	
沖田面(1)線	鷹巣営業所	北秋田市	米内沢操車場	沖田面	上小阿仁村	2,718	—	—	
沖田面(2)線	鷹巣営業所	北秋田市	上仏社	沖田面	上小阿仁村	10,415	—	—	
沖田面(4)線	鷹巣営業所	北秋田市	仏社入口	沖田面	上小阿仁村	4,555	—	—	
美栄線	鷹巣営業所	北秋田市	美栄	合川駅前	北秋田市	7,894	—	—	
前山線	鷹巣営業所	北秋田市	自動車学校	前山駅前	北秋田市	6,178	—	—	
岩谷線	鷹巣営業所	北秋田市	糠沢	岩谷	北秋田市	81,186	—	—	
合川(2)線	鷹巣営業所	北秋田市	鷹巣高校	沖田面	上小阿仁村	75,847	—	—	
合計						1,046,523	463,871	376,391	

※現在鷹巣営業所は北秋田市役所前停留所に変更

資料：秋北バス(株)

③大館能代空港

平成 10 年に開港した大館能代空港利用者は年々減少傾向にあり、平成 23 年には年間 10.5 万人で、平成 16 年の 16.2 万人から、6 万人程度減少している。平成 23 年 1 月に大阪便が廃止され、現在の運行は東京往復一日 2 便となっている。



※大阪便は平成 23 年 1 月で廃止

資料：大館能代空港管理事務所

図 1-2-11 大館能代空港利用者の推移

表 1-2-4 大館能代空港利用者の推移

単位：人

	東京便	大阪便	合計	搭乗率	累計
平成16年	118,070	44,556	162,626	57.2%	1,027,880
平成17年	117,559	39,538	157,097	56.3%	1,184,977
平成18年	112,812	30,615	143,427	58.9%	1,328,404
平成19年	107,294	29,876	137,170	58.7%	1,465,574
平成20年	100,017	25,243	125,260	52.8%	1,590,834
平成21年	91,554	22,673	114,227	48.4%	1,705,061
平成22年	93,916	24,660	118,576	49.9%	1,823,637
平成23年	105,373	268	105,641	56.80%	1,929,278

資料：大館能代空港管理事務所

④自動車保有台数

自動車保有台数は、ほぼ一世帯に 2 台程度となっており、広大な市域での暮らしを実現するために、自家用車に対する依存度が高くなっている。

表 1-2-5 北秋田市自動車保有台数

	乗用(台)	軽自動車(台)	合計台数	世帯数(世帯)	台/世帯(台)
平成17年	13,584	10,881	24,465	13,666	1.79
平成22年	12,210	11,640	23,850	12,838	1.86

資料：国土交通省東北運輸局

3)歩行者通行状況

中心市街地における歩行者交通量の推移をみると、平成23年現在で鷹巣駅前商店街に位置するナリタヤ前が平日で570人、休日で468人、鷹巣銀座通商店街に位置する佐々木電気前では、平日で1,212人、休日で570人通行している。休日に比べ平日の通行者が多く、日常的な暮らしの中で来訪されている状況がうかがえる。

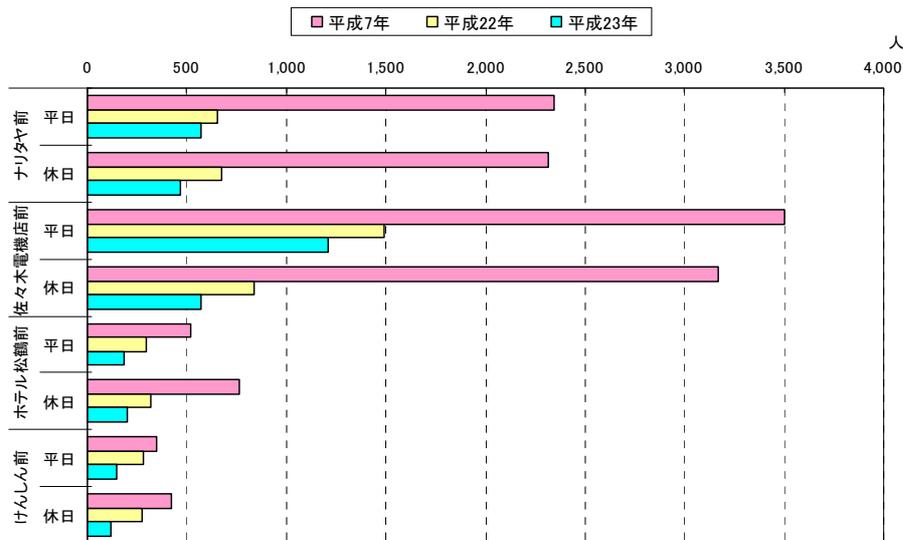
観測時間は異なっているため参考値として平成7年と比較すると佐々木電気店前及びナリタヤ前ともに7割程度減少しており、商店街の通行量が激減している状況がうかがえる。

表 1-2-6 中心市街地の交通量(歩行者・自転車数)

単位：人

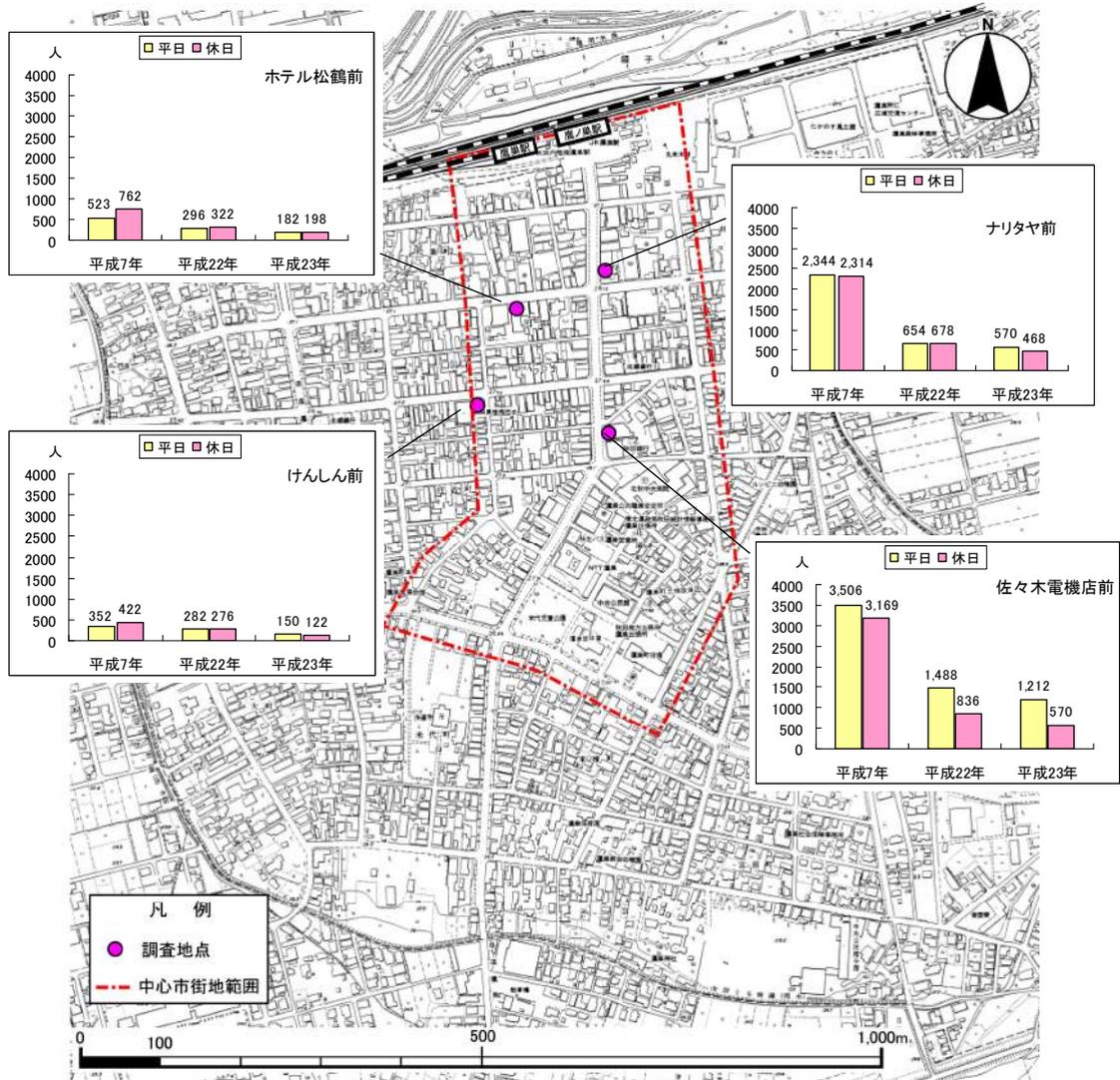
	①ナリタヤ前		②佐々木電機店前		③ホテル松鶴前		④けんしん前		調査時間
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	
平成7年	2,344	2,314	3,506	3,169	523	762	352	422	6:00~19:00(13時間)
平成22年	654	678	1,488	836	296	322	282	276	7:30~18:30(11時間)
平成23年	570	468	1,212	570	182	198	150	122	7:30~18:30(11時間)
増減率(7年、23年比較)	△76%	△80%	△65%	△82%	△65%	△74%	△57%	△71%	

資料：北秋田市商工会通行量調査報告書



資料：北秋田市商工会通行量調査報告書

図 1-2-12 中心市街地の交通量の推移(歩行者・自転車数)



資料：北秋田市商工会通行量調査報告書

図 1-2-13 通行量の観測位置と通行量の推移

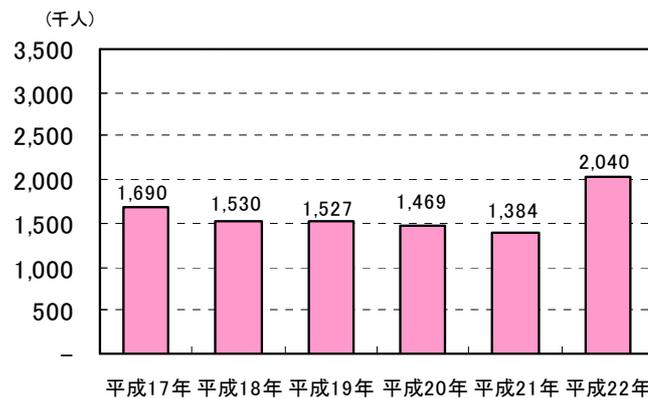
4)観光・行事イベントに関する状況

① 北秋田市の観光動向

北秋田市は、ギネスにも登録されている世界一の大太鼓をはじめ、自然体験が可能で癒しを体感できる森吉山県立自然公園や太平湖まつり、阿仁根子番楽やマタギ、先祖供養の合川万灯火や森吉山麓七夕火まつり等、施設、伝統芸能などの固有文化や、自然公園、温泉施設等の優れた観光資源がある。

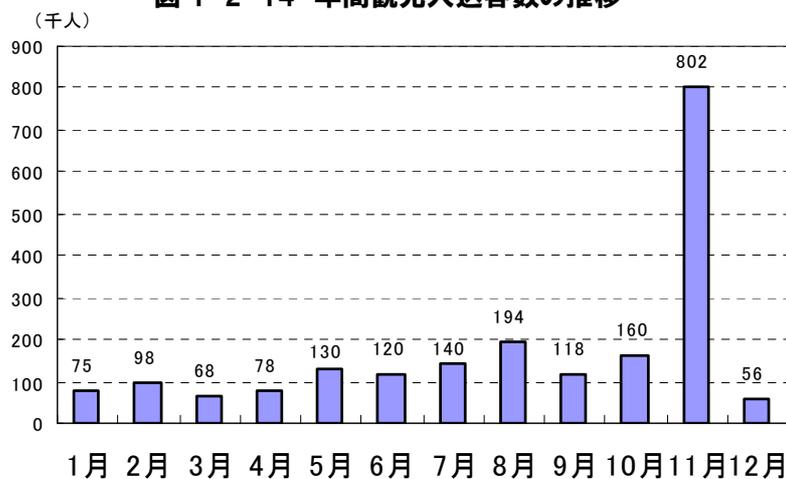
年間観光入込客数は平成22年度で約204万人となっており、「大太鼓の里ぶっさん館」が約23万人と当市では最も多く、平成17年から平成22年までをみるとほぼ横ばいながら安定的な入込客数を維持している。平成22年11月には、種苗交換会が北秋田市で開催されたことから、観光客数が大きく上昇している。

また、平成22年の月別観光客数をみると、種苗交換会が開催された11月を除くと8月が最も多く、次いで10月、5月、7月となっている。



資料：秋田県観光統計

図 1-2-14 年間観光入込客数の推移



資料：北秋田市調べ

図 1-2-15 平成22年 月間観光入込客数

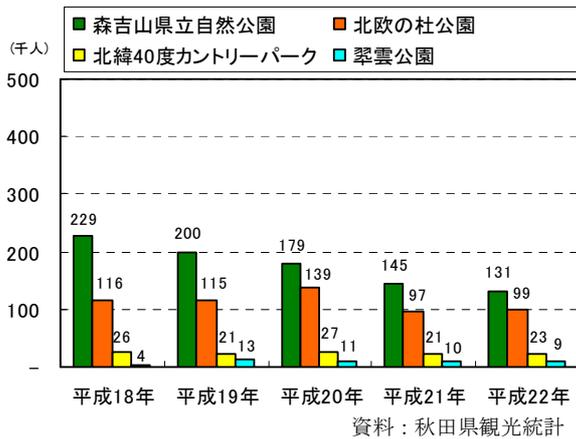


図 1-2-16 自然公園等の観光入込客数

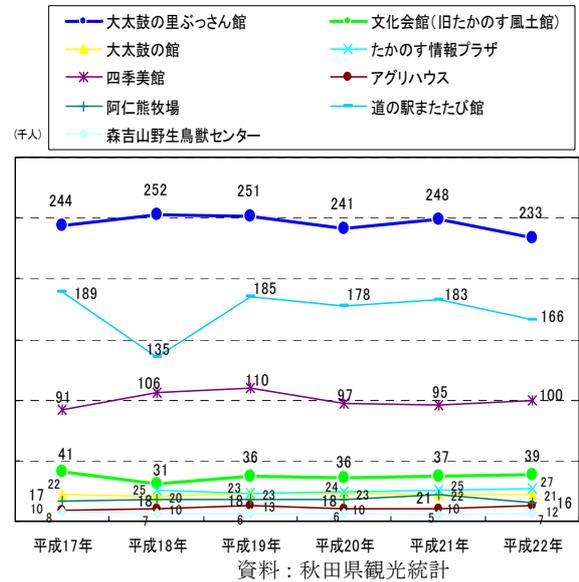


図 1-2-17 施設等の観光入込客数

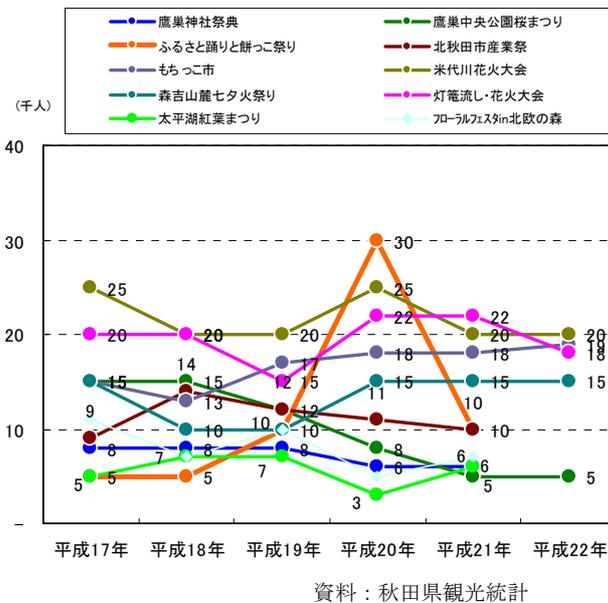


図 1-2-18 祭・行事等の観光入込客数

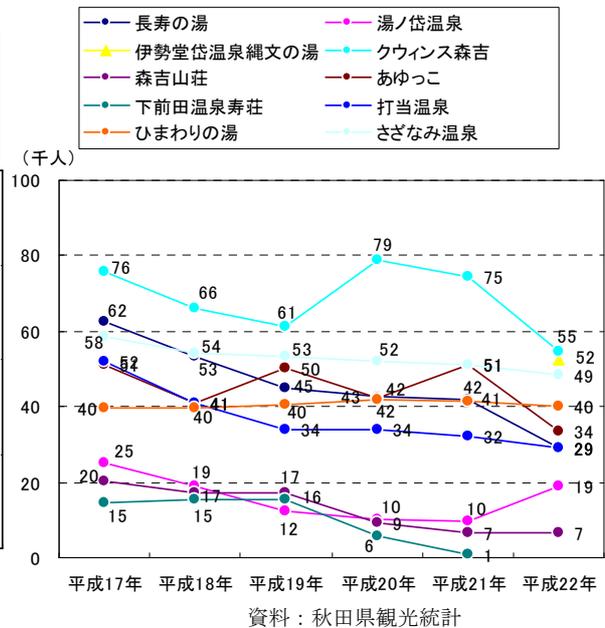


図 1-2-19 主な温泉施設の利用者数

②中心市街地での行事イベント

北秋田市中心市街地周辺では、年間を通じてイベント等が開催されている。

毎年 5000 人を超える観光客が訪れる「ふるさと踊りと餅っこまつり」は、昭和 59 年に鷹巣町婦人団体連絡協議会が鷹巣町婦人会総会フェスティバルとして実施した「通り踊り」や米代児童公園での餅の販売がはじまりであり、翌 60 年から町商工会や J A、各地区婦人会などの協力で現在の名称で開催され、平成 23 年度で 27 回目となる。

また、きらきらフェスティバルや軽トラ市、大綱引き大会など中心市街地の活性化に向けたイベントも実施され、来訪者拡大に効果をもたらしている。

表 1-2-7 中心市街地周辺で開催される行事・イベント

開催月	行事・イベント
1月	元旦マラソン
4月下旬～5月初旬	鷹巣中央公園桜まつり
5月～11月に4回	軽トラ市
6月第1日曜日	ふるさと踊りと餅っこ祭り
6月	大綱引き大会
7月第2土曜日	米代川花火大会
7月24日・25日	鷹巣神社祭典
8月14日・15日	北秋田市民盆踊り
9月	100キロマラソン
10月	北秋田市産業祭・文化祭
12月上旬～2月中旬	きらきらフェスティバル

表 1-2-8 中心市街地における行祭事観光客数の推移

単位：人

	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
鷹巣神社祭典	8,000	8,000	8,000	6,000	6,000	4,000	3,000
ふるさと踊りと 餅っこまつり	5,000	5,000	10,000	30,000	10,000	12,000	10,000

資料 秋田県観光統計
平成 23 年は北秋田市調べ



ふるさと踊りと餅っこまつり



軽トラ市



100キロチャレンジマラソン



大綱引き大会



市民盆踊り



鷹巣神社祭典

5)北秋田市中心市街地の公共公益施設

北秋田市の中心市街地及びその周辺には、北秋田市役所、中央公民館のほか、秋田県や東北農政局等の出先機関、鷹巣地域福祉センターなどの福祉施設が立地している。

平成22年4月に市内にある3つの公立病院（北秋中央病院・公立米内沢総合病院・北秋田市立阿仁病院）の機能を再編統合し、北秋田市の郊外にある合川地区下杉に北秋田市民病院を開院するなど、公共施設の郊外化も見られる。同時に、中心市街地に広大な病院跡地が残り、賑わい再生につながる利活用が期待されている。

なお、平成23年4月には、市内の4つの高校（県立鷹巣農林高等学校、県立鷹巣高等学校、県立米内沢高等学校、公立合川高等学校）を統合した県立秋田北鷹高等学校が開校されている。

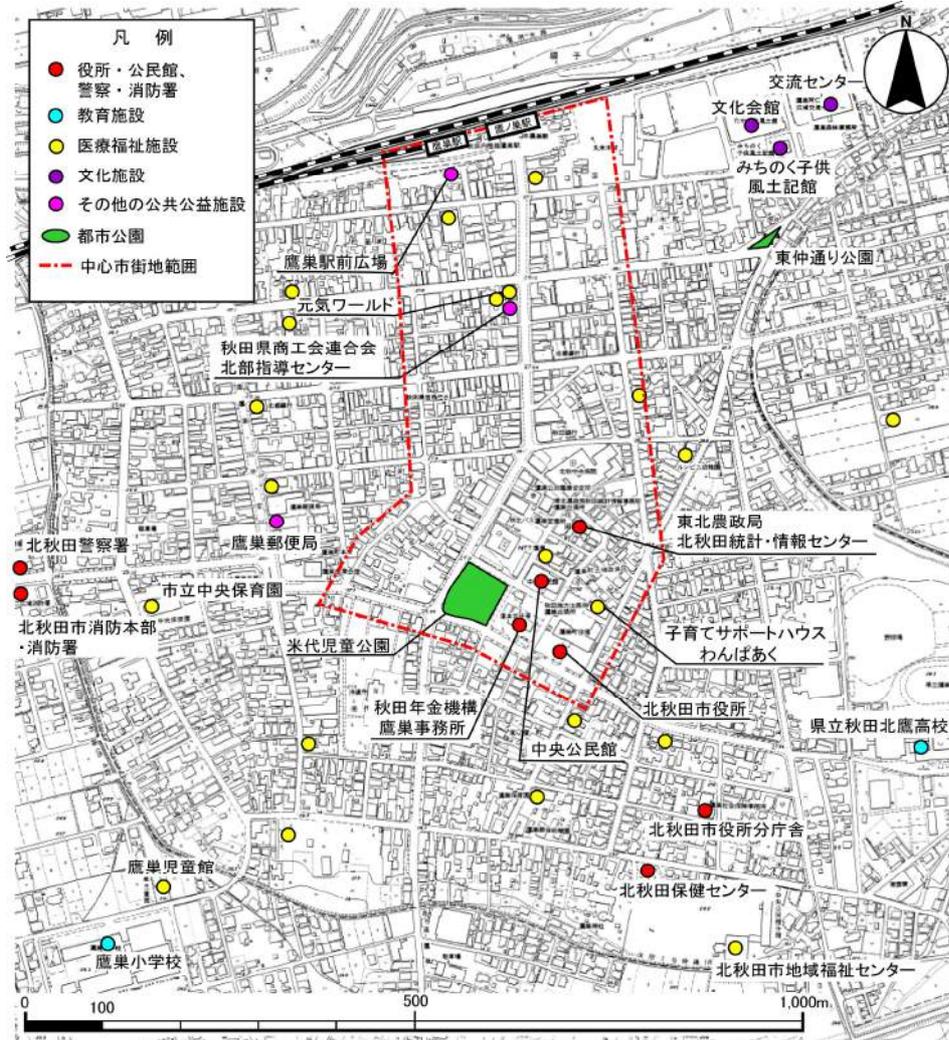


図 1-2-20 中心市街地周辺の公共公益施設

6)地価動向

北秋田市の地価動向は、過去10年間で調査地点すべてが下落、もしくは横ばいになっている。特に中心市街地に位置する材木町は、市内で最も大きな地価下落となっており、平成12年121,000円/㎡であったものが、平成22年には33,000円/㎡と10年間で88,000円/㎡下がっている。

表 1-2-9 北秋田市の地価動向

	所在 (旧市町)	標準地 用途	周辺地利用現況	地価(¥/㎡)			
				平成12年	平成17年	平成22年	平成22年- 平成12年
鷹巣①	宮前町105番	住宅地	中規模の一般住宅が多い住宅地域	36,000	32,000	25,000	-11,000
鷹巣②	鷹巣字南中家下34番3	住宅地	中規模の一般住宅が多い公共施設に近い住宅地域	28,000	25,500	20,200	-7,800
鷹巣③	七日市字根木屋敷岱146番2	住宅地	農家住宅、一般住宅等が混在する古くからの住宅地域	6,700	6,200	5,200	-1,500
鷹巣④	鷹巣字小中岱95番1	住宅見込地	周辺で宅地化が進んでいる地域	11,800	9,000	4,500	-7,300
鷹巣⑤	材木町181番	商業地	店舗、事務所等が建ち並ぶ駅に近い中心商業地域	121,000	68,000	33,000	-88,000
鷹巣⑥	綴子字田中家前241番1	準工業地	工場、事務所等が見られる県道沿いの地域		20,500	14,500	-
森吉①	小又字下川原147番	住宅地	一般住宅、店舗併用住宅等が見られる駅に近い住宅地域	12,200	10,000	7,200	-5,000
森吉②	米内沢字柳原14番3	住宅地	幹線道路背後の空地も見られる住宅地域	14,300	13,000	10,300	-4,000
森吉③	米内沢字伊勢ノ森26番1	住宅地	空地が見られる新興住宅地域	12,500	11,000	8,500	-4,000
森吉④	米内沢字薬師下60番	商業地	小売店舗等が建ち並ぶ国道沿いの商業地域		17,000	14,900	-
阿仁①	阿仁比立内字前田表6番4	住宅地	農家住宅が多い住宅地域	4,800	4,100	3,600	-1,200
阿仁②	阿仁銀山字上新町48番2	住宅地	中規模の一般住宅が多い住宅地域	8,800	7,800	6,300	-2,500
阿仁③	阿仁銀山字下新町119番32	商業地	小売店舗等に一般住宅も見られる商業地域	12,100	11,200	9,600	-2,500
合川①	川井字五郎工門田ノ沢8番5	住宅地	中規模の一般住宅が多い住宅地域	10,500	9,500	7,700	-2,800
合川②	川井字松石殿1番115	住宅地	一般住宅の中に空地が見られる区画整然とした住宅地域	9,300	8,000	5,600	-3,700
合川③	木戸石字オノ神岱230番	住宅地	農家住宅に農地が混在する農家集落地域	3,800	3,500	3,100	-700

資料：秋田県地価調査

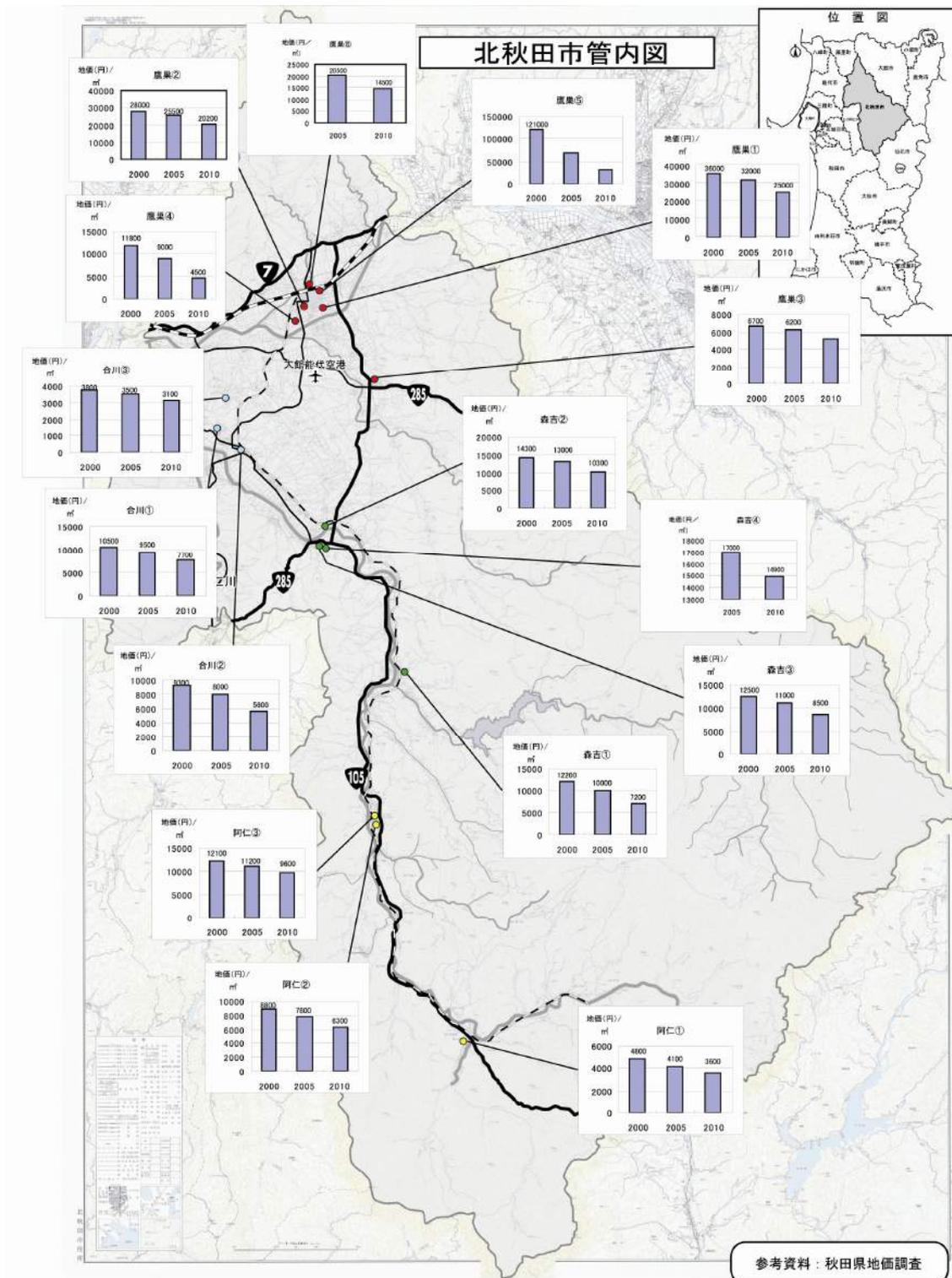


図 1-2-21 北秋田市の地価動向

7) 商業の動向

① 北秋田市の商業の動向

北秋田市の商業についてみると、商店数及び従業員数ともに平成6年以降減少しており、年間商品販売額も平成9年に比べ2分の1以下に落ち込んでいる。平成6年と平成19年を比べると、商店数で279店、従業員数で729人減少しており、なかでも飲食料点小売業において減少が著しくなっている。

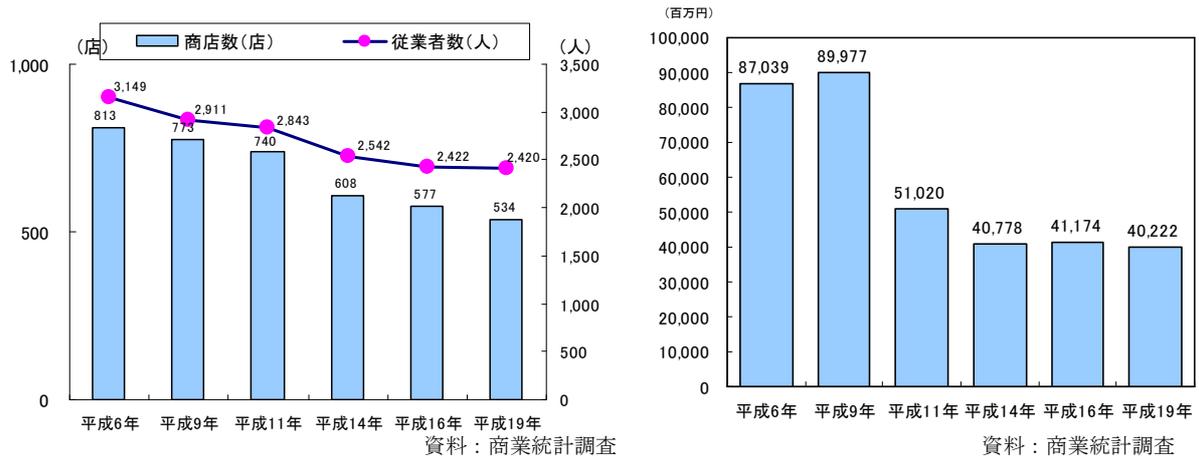


図 1-2-22 北秋田市商店数・従業員数推移

図 1-2-23 北秋田市年間商品販売額

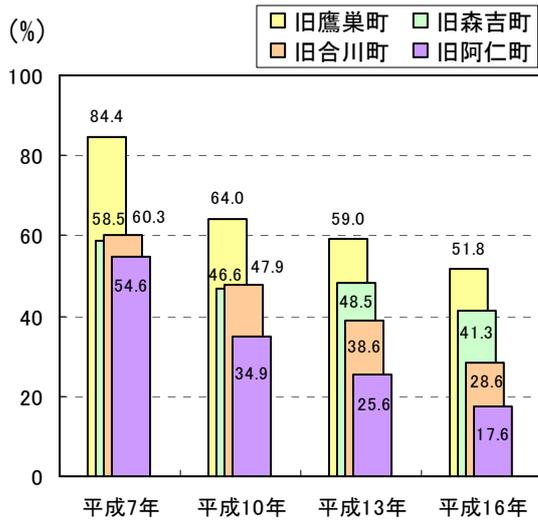
表 1-2-10 北秋田市の商業現状(平成6年/平成19年)

	北秋田市			旧鷹巣町			旧森吉町			旧阿仁町			旧合川町		
	商店数(店)	従業員数(人)	年間商品販売額(万円)												
卸売業計	71	454	4,419,522	58	409	4,308,584	4	12	24,217	3	X	X	6	33	85,721
各種商品卸売業	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
繊維・衣服等卸売業	3	19	86,000	3	19	86,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飲食料品卸売業	31	213	3,698,091	25	213	3,698,091	2	X	X	2	X	X	2	X	X
建築材料・鉱物・金属材料等卸売業	16	80	237,442	12	80	237,442	1	X	X	1	X	X	2	X	X
機械器具卸売業	11	61	197,121	11	61	197,121	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の卸売業	10	36	90,930	7	36	90,930	1	X	X	-	-	-	2	X	X
小売業計	742	2,455	3,975,255	393	1,652	2,766,624	141	436	681,539	96	X	X	112	367	527,092
各種商品小売業	1	0	0	-	-	-	1	X	X	-	-	-	-	-	-
繊維・衣服・身の回り品小売業	86	246	367,868	54	214	333,818	16	X	X	7	10	9,657	9	22	24,393
飲食料品小売業	329	1,066	1,632,788	155	597	923,790	57	177	285,058	59	134	163,239	58	158	260,701
自動車・自転車小売業	43	181	338,127	26	149	305,435	8	16	13,604	2	X	X	7	16	19,088
家具・じゅう器・家庭用機械器具小売業	66	192	269,320	36	113	174,551	13	30	37,433	7	20	16,487	10	29	40,849
その他の小売業	217	953	1,617,909	122	579	1,029,030	46	166	291,952	21	66	114,866	28	142	182,061
合 計	813	3,149	8,703,938	451	2,061	7,076,208	145	448	705,756	99	240	309,161	118	400	612,813
卸売業計	57	267	708,462												
各種商品卸売業	1	7	X												
繊維・衣服等卸売業	3	12	X												
飲食料品卸売業	20	92	335,734												
建築材料・鉱物・金属材料等卸売業	16	96	229,244												
機械器具卸売業	6	21	49,722												
その他の卸売業	11	39	44,862												
小売業計	477	2,153	3,313,719												
各種商品小売業	-	-	-												
繊維・衣服・身の回り品小売業	52	159	156,438												
飲食料品小売業	196	965	1,443,234												
自動車・自転車小売業	21	93	145,111												
家具・建具・じゅう器・家庭用機械器具小売業	48	127	125,804												
その他の小売業	160	809	1,443,132												
合 計	534	2,420	4,022,181												

※ X：統計法による秘匿、平成6年は、旧4町の計 資料：商業統計調

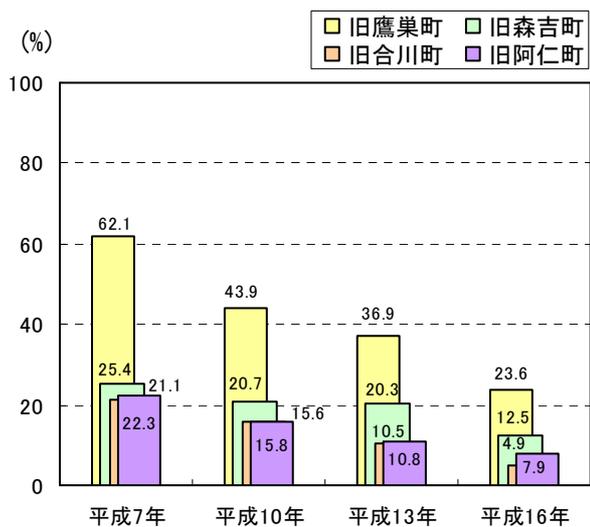
②北秋田市の消費購買動向

平成16年度の消費購買率をみると、商圏の拠点形成している旧鷹巣町において最寄品が平成7年の84.4%から51.8%、買回品が62.1%から23.6%へと、ともに大きく減少している。北秋田市以外の購買先では、最寄品、買回品ともに大館市への依存が高いほか、弘前市や秋田市、能代市などと広域になっている。



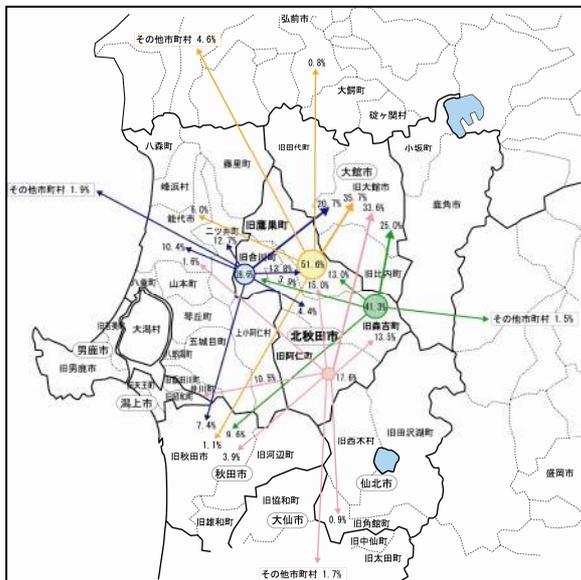
資料：消費購買動向調査報告書

図 1-2-24 地元購買率の推移 (最寄品)



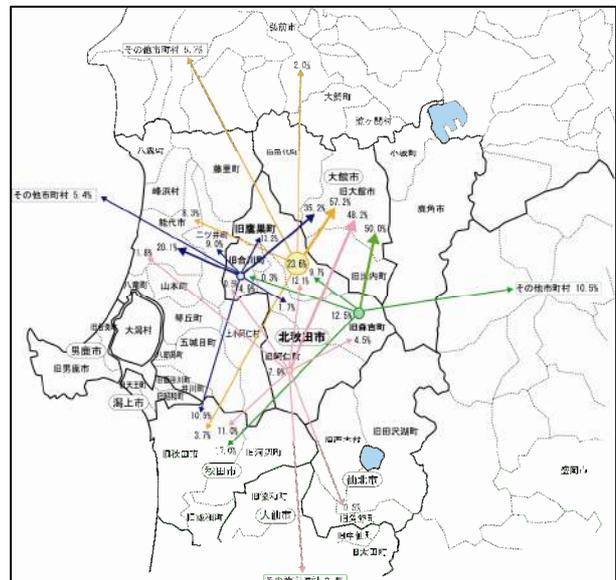
資料：消費購買動向調査報告書

図 1-2-25 地元購買率の推移 (買回品)



資料：消費購買動向調査報告書

図 1-2-26 最寄品の購買先 (平成16年)



資料：消費購買動向調査報告書

図 1-2-27 買回品の購買先 (平成16年)

③ 商店街の現況

中心市街地には、鷹巣駅前商店街と鷹巣銀座通商店街の2つの商店街がある。中心市街地に核店舗は無く、個人商店が連なり商店街を形成している。現在総店舗数は67店舗であり、平成元年度から比べて19店舗減少し、空き店舗が増加している。

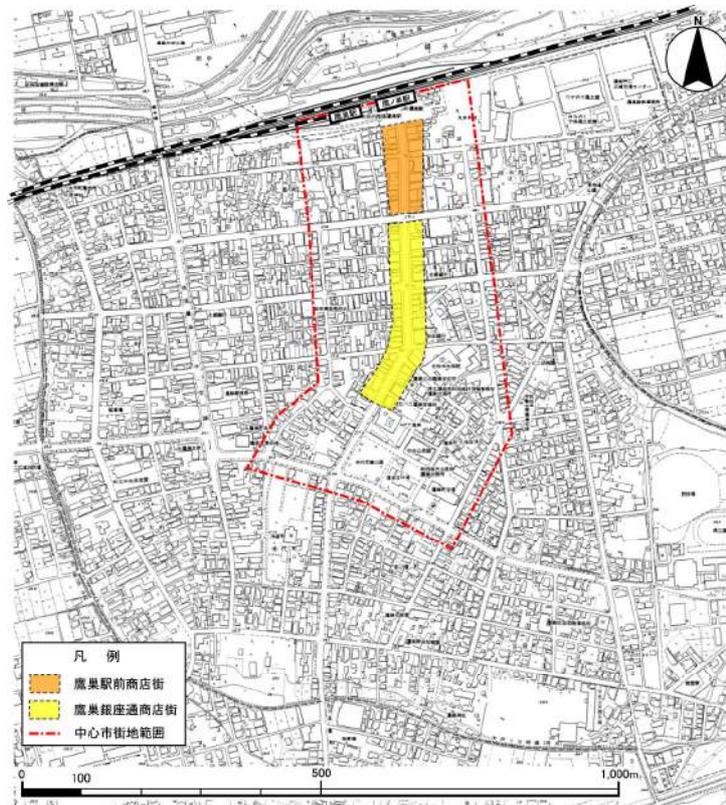


図 1-2-28 中心市街地の商店街の位置

表 1-2-11 鷹巣駅前商店街・鷹巣銀座通商店街状況

	総店舗数	空き店舗数
平成元年度	86	1
平成 23 年度	67	15

資料：平成元年 商工会地域商業実態調査報告書(北秋田市版)
平成 23 年 北秋田市調べ

表 1-2-12 中心市街地及び商店街の店舗状況

※（ ）内は商店街店舗数（内数）

分類	店舗数	分類	店舗数
飲食店	43 (12)	デザイン、装飾店	1 (1)
飲食料品店	14 (4)	テント店	1 (0)
菓子店	2 (1)	自転車・バイク店	1 (0)
製あん	1 (0)	民芸品店	1 (1)
ファーストフード店	1 (1)	手芸品店	1 (1)
茶舗	1 (0)	リサイクル店	1 (1)
衣料品店	13 (9)	ダイビング用品店	1 (0)
靴・履物店	4 (4)	美容・美容店	20 (1)
時計・眼鏡店	3 (2)	くすり・化粧品店	7 (4)
カバン店	1 (1)	クリーニング店	3 (2)
寝具店	2 (0)	カラオケ店	1 (0)
電気店	3 (2)	インターネットカフェ	1 (1)
ミシン店	1 (0)	石工店	1 (0)
カメラ店	1 (1)	コンクリート製品販売店	1 (0)
書店	2 (2)	パチンコ店	1 (0)
文房具・事務用品店	2 (0)	ギャラリー	2 (0)
印鑑店	1 (0)	旅館・ホテル業	2 (1)
仏具店	1 (0)	旅行業	2 (1)
生花店	2 (2)	コンピュータ関連業	3 (3)
コンビニ	3 (1)	医療・福祉	10 (1)
雑貨店	3 (1)	金融・保険業	6 (2)
塗料店	1 (0)	学術研究専門技術サービス業	6 (2)
陶磁器店	1 (0)	その他	2 (2)
		合計	181 (67)

資料：北秋田市調べ

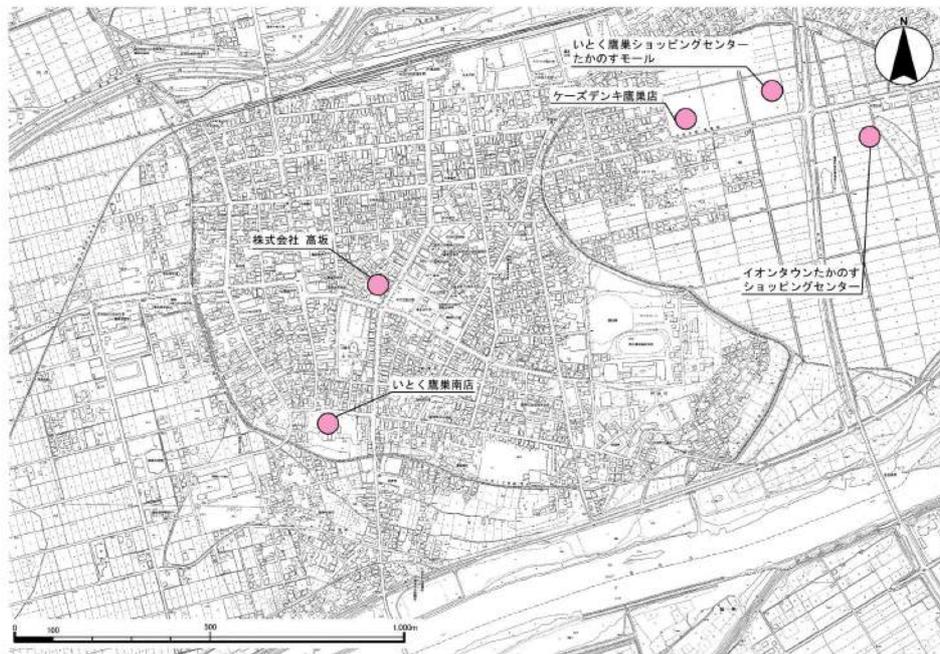
④ 中心市街地周辺の大型小売店舗

北秋田市の店舗面積 1,000 m²以上の大型店は5店舗ある。このうち、平成 20 年に中心市街地近郊の栄地区（国道 105 号、一般県道大館鷹巣線交差点）に、イオンタウンたかのすショッピングモール（売り場面積 14,133m²）、いとく鷹巣ショッピングセンターたかのすモール（売り場面積 8,163m²）、ケーズデンキ鷹巣店（売り場面積 2,020m²）が立地し、商業環境が大きく変化している。

表 1-2-13 中心市街地周辺の大型小売店舗(1,000m²以上)

名称	種類	設置年	面積 (m ²)
株式会社 高坂	専門店	昭和 47 年	1,047
いとく鷹巣南店	スーパー	平成 12 年	2,301
イオンタウンたかのすショッピングセンター	スーパー	平成 20 年 5 月	14,133
いとく鷹巣ショッピングセンターたかのすモール	スーパー	平成 20 年 5 月	8,163
ケーズデンキ鷹巣店	専門店	平成 23 年 12 月	2,020

資料：北秋田市商工観光課資料より



資料：北秋田市商工観光課資料より

図 1-2-29 中心市街地周辺の大型小売店舗(1,000m²以上)

(3) 地域住民ニーズに関する把握・分析

北秋田市中心市街地活性化ビジョンを策定するにあたって、より多くの市民の声を反映すべく一般市民、商店主、北秋田市の将来を担う高校生を対象としたアンケート調査を実施した。調査時期は、平成23年9月～10月。

表 1-3-1 アンケート調査の配布回収状況

種別	対象者	配布数	回収数	回収率
A	一般市民向け（北秋田市内の住民）	1,700 票	640 票	38%
B	商店主向け （駅前・銀座通商店街の商店主）	92 票	92 票	100%
C	高校生向け（秋田北鷹高校1・2年生）	537 票	493 票	92%

表 1-3-2 回答者属性

対象者	年齢層（学年）	性別	その他の属性
一般市民向け （北秋田市内の住民）			
商店主向け （駅前・銀座通商店街の商店主）			
高校生向け （秋田北鷹高校1・2年生）			

①買い物動向

食料品、医薬品など最寄品の9割程度及び、衣料品、アクセサリなどの買回品の5割程度が市内の商店街や郊外大型店となっており、全体的に北秋田市内における購買率が高い傾向を示している。

年齢層別では、若年層は北秋田市内外の郊外大型店へ行く傾向が高く、高齢になるに従い中心市街地で買い物をする傾向にある。交通手段は自動車が圧倒的に多く、高齢になるに従い徒歩や自転車が増加している。

自動車を運転できるうちは郊外の大型店へ買い物に行き、高齢で運転が出来なくなるに従い歩いて近所の商店街へ買い物に行っている状況がうかがえる。このことから、今は若くて自動車を運転して遠くへ買い物に出かけられるが、「運転断念者」になった時、歩いて買い物ができる環境が必要で、商店街がその役割を担っていると言える。

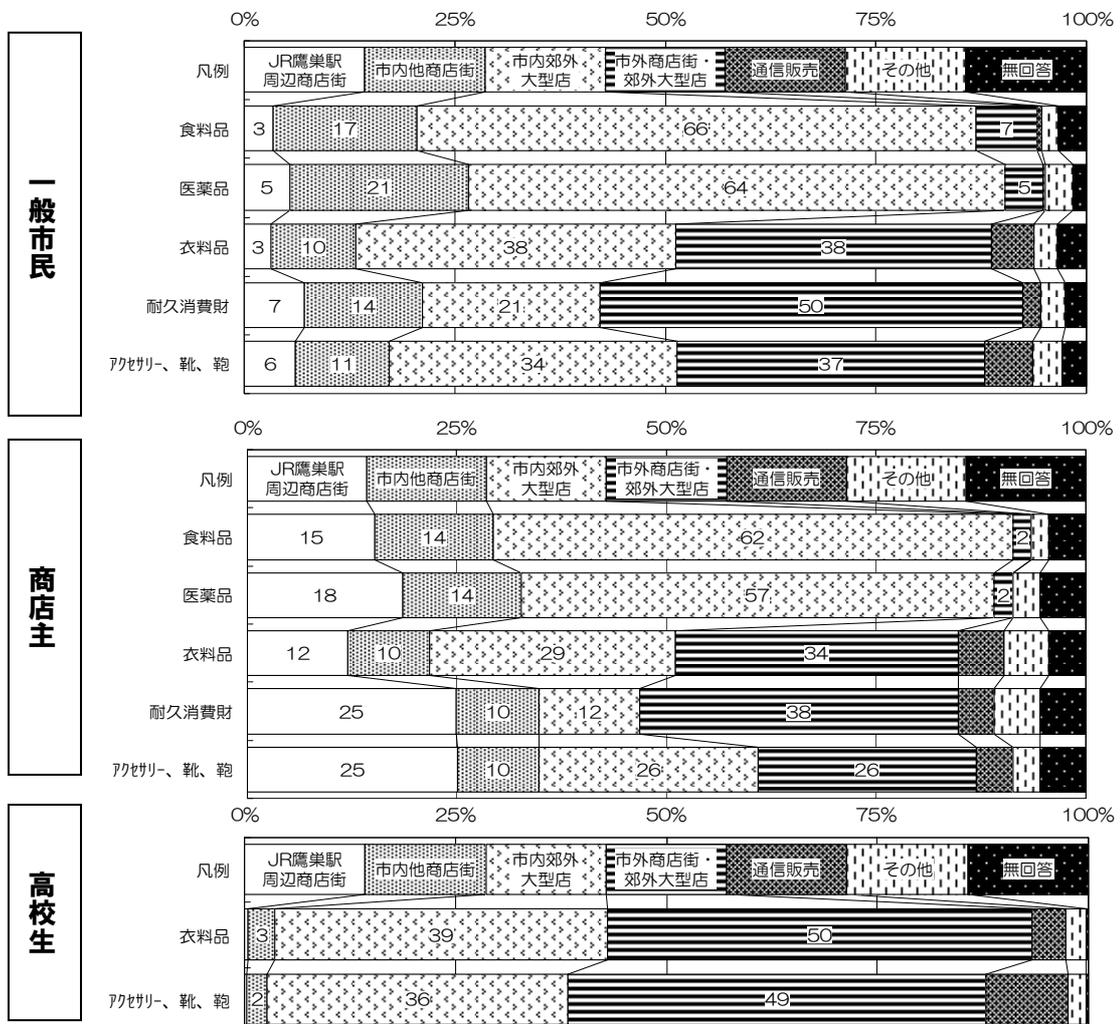


図 1-3-1 品目別の買い物先

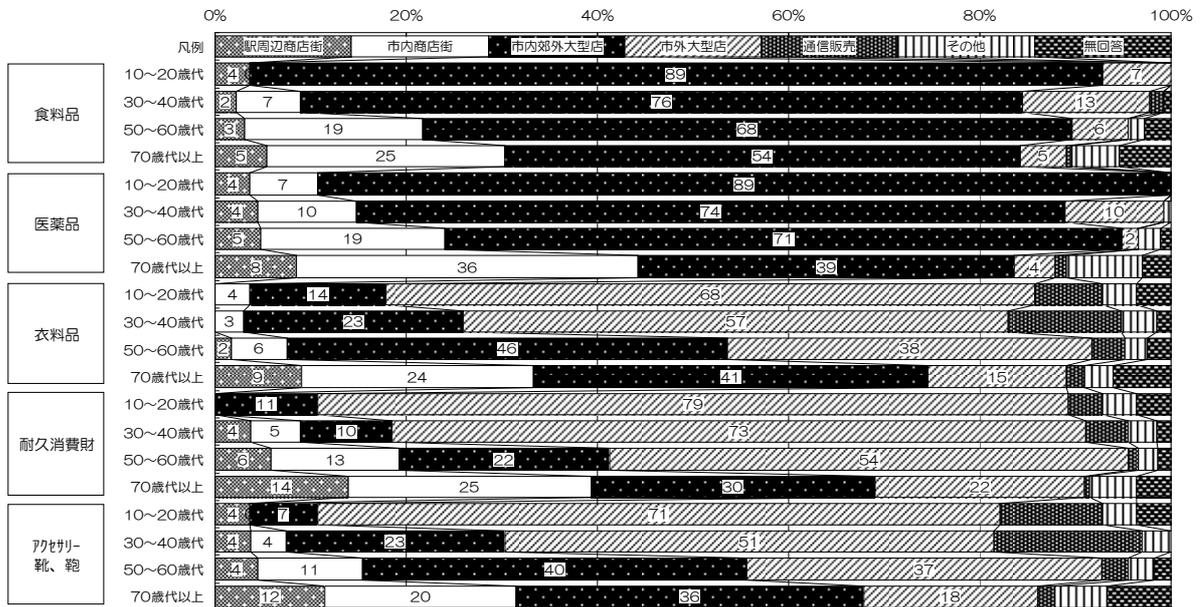


図 1-3-2 年齢層別買い物動向(一般市民)



図 1-3-3 年齢層別買い物動向(商店主)

・買い物先を選ぶ理由

一般市民・商店主・高校生ともに、「商品の豊富さ」や「価格の安さ」のほか、「駐車場が広い」、「家から近い」などが買い物先を選ぶ理由として挙げられている。

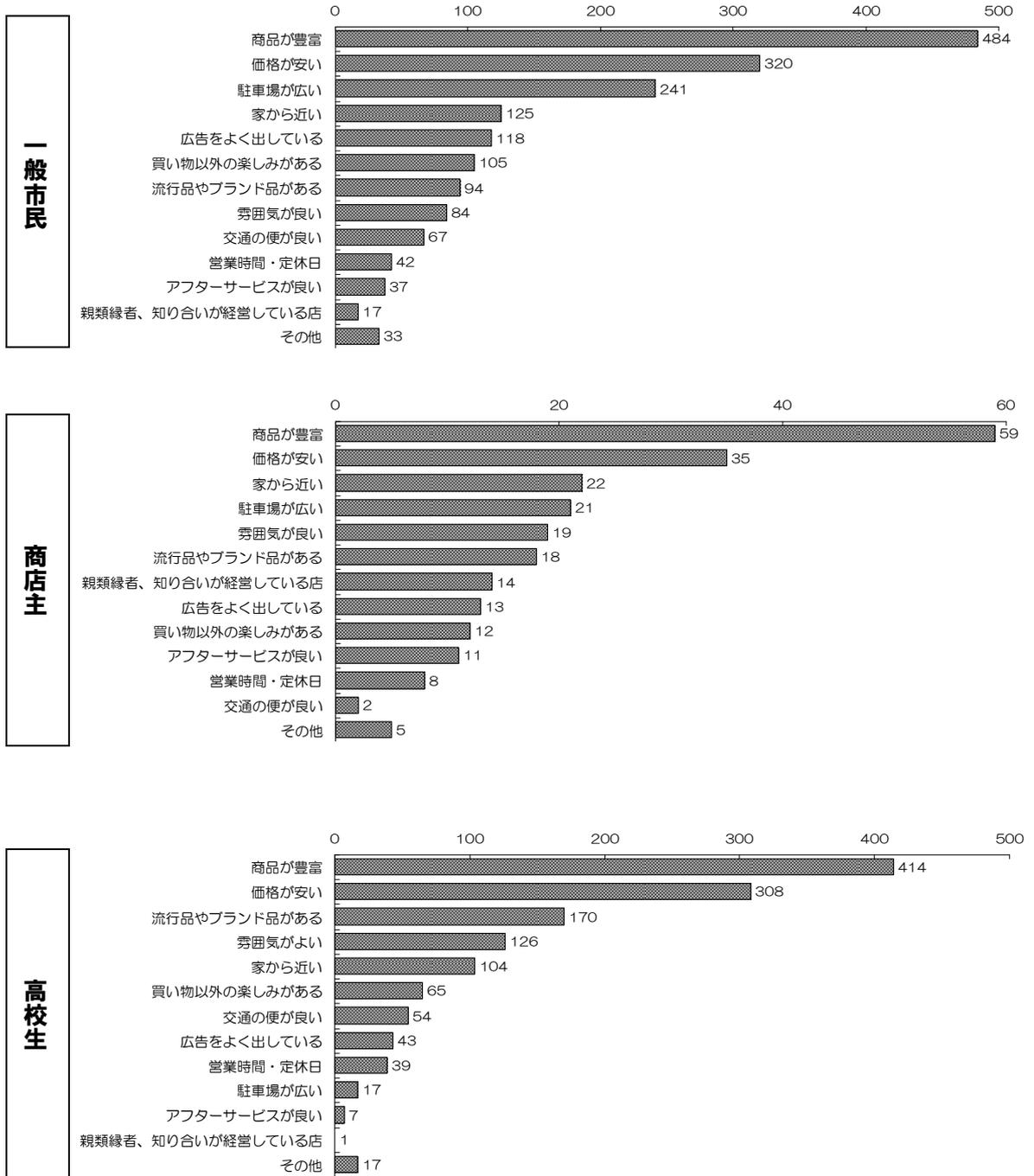


図 1-3-4 買い物先を選ぶ理由

・買い物に行く場所の街並みや店等のイメージ

「近代的、都会的なイメージ」が求められており、これを創出する環境づくりが必要である。

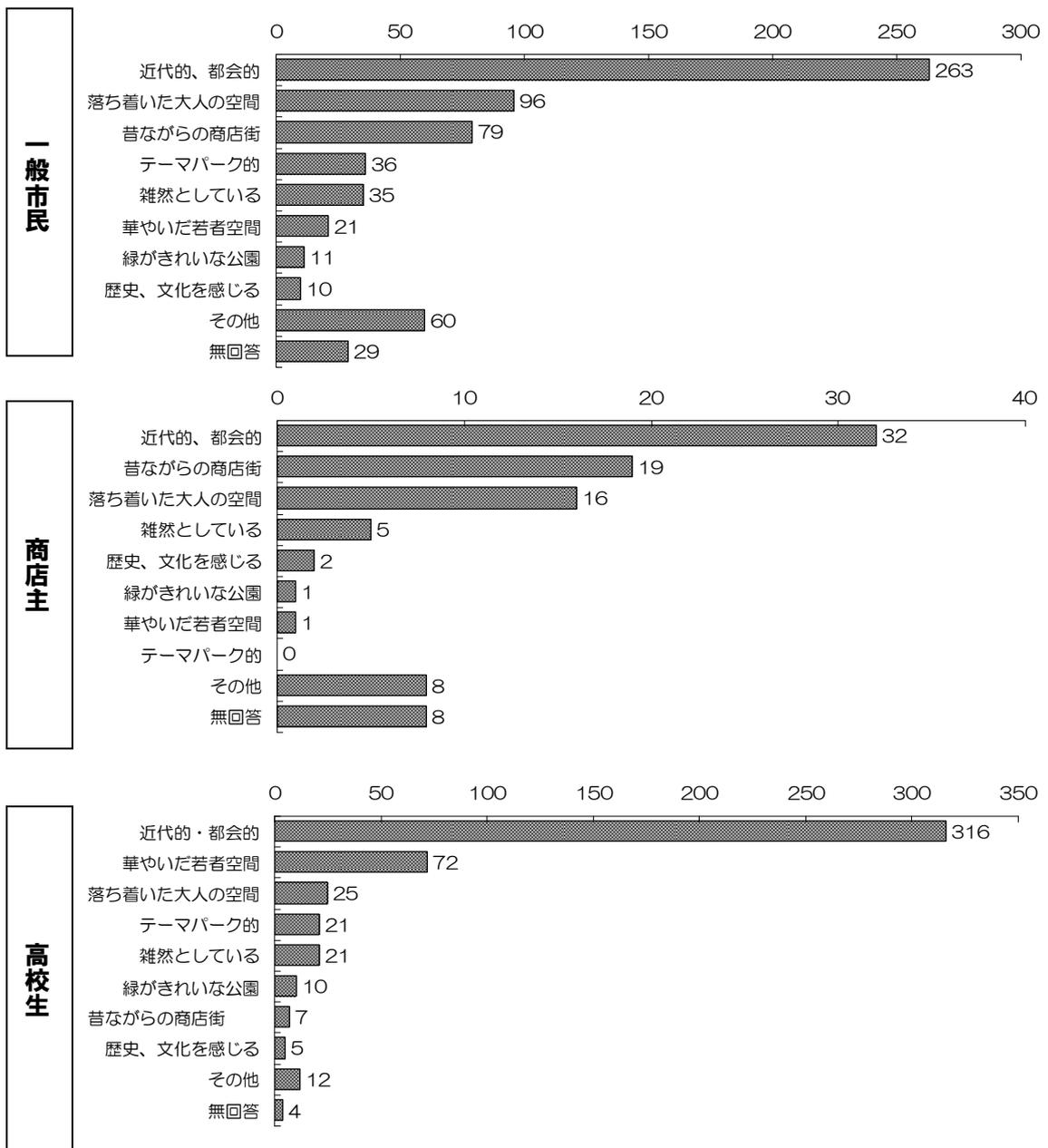


図 1-3-5 買い物に行く先のイメージ

②中心市街地の現状

・中心市街地を訪れる目的

一般市民・商店主・高校生ともに「買い物」が最も多く、次いで「役所等の公共施設の利用」が多くなっている。中心市街地の来訪目的として、買い物以外にも役所等の公共施設の利用等が多く、公共公益施設との共存状況がうかがえる。

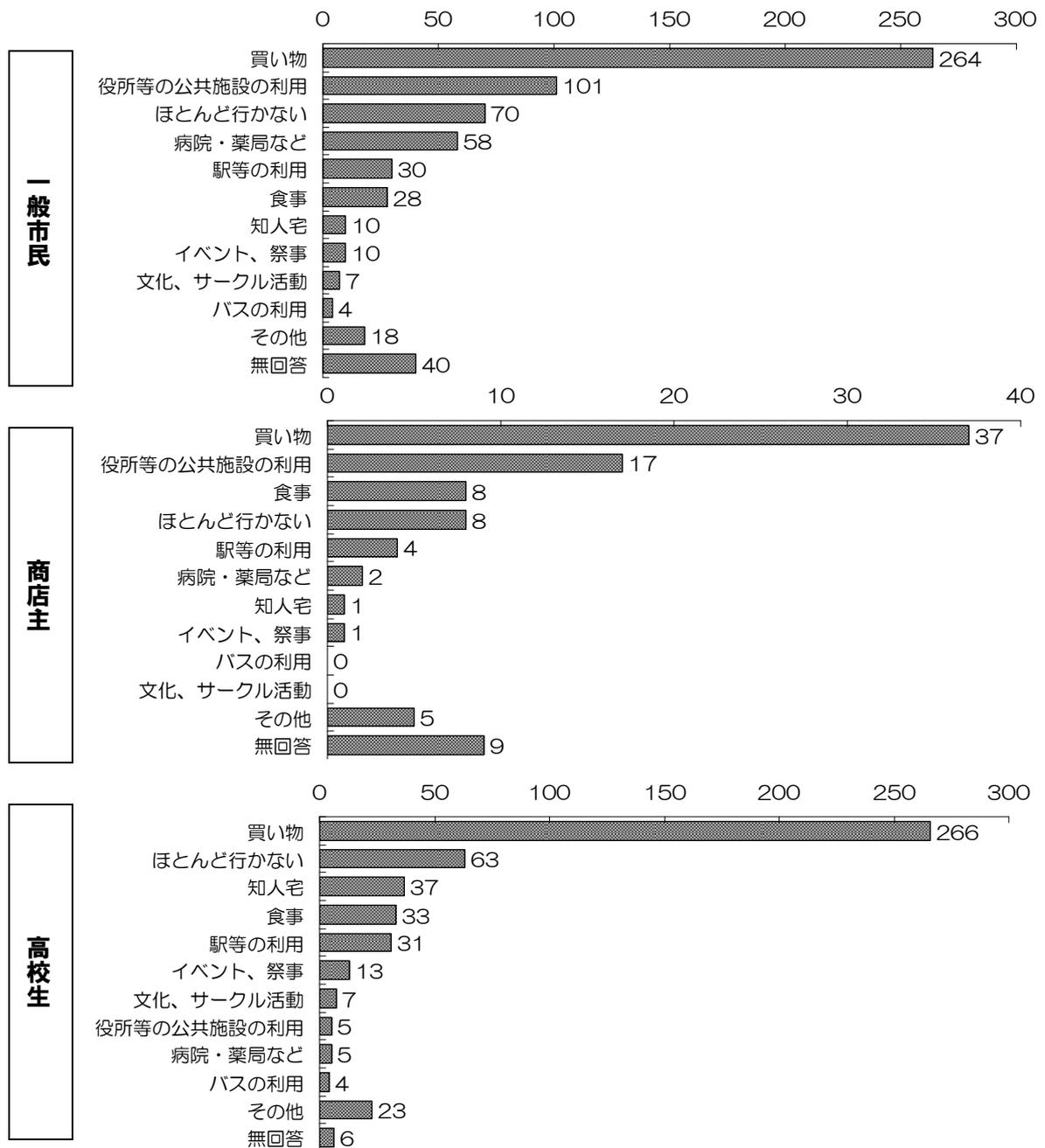


図 1-3-6 中心市街地を訪れる目的

・現在の中心市街地の魅力

「色々な店がある」「庶民的」「商店の質が良い」「アーケードがあり天候を気にせず買い物ができる」等の魅力が挙げられ、この魅力を維持し、強みとして活用していくことが必要である。

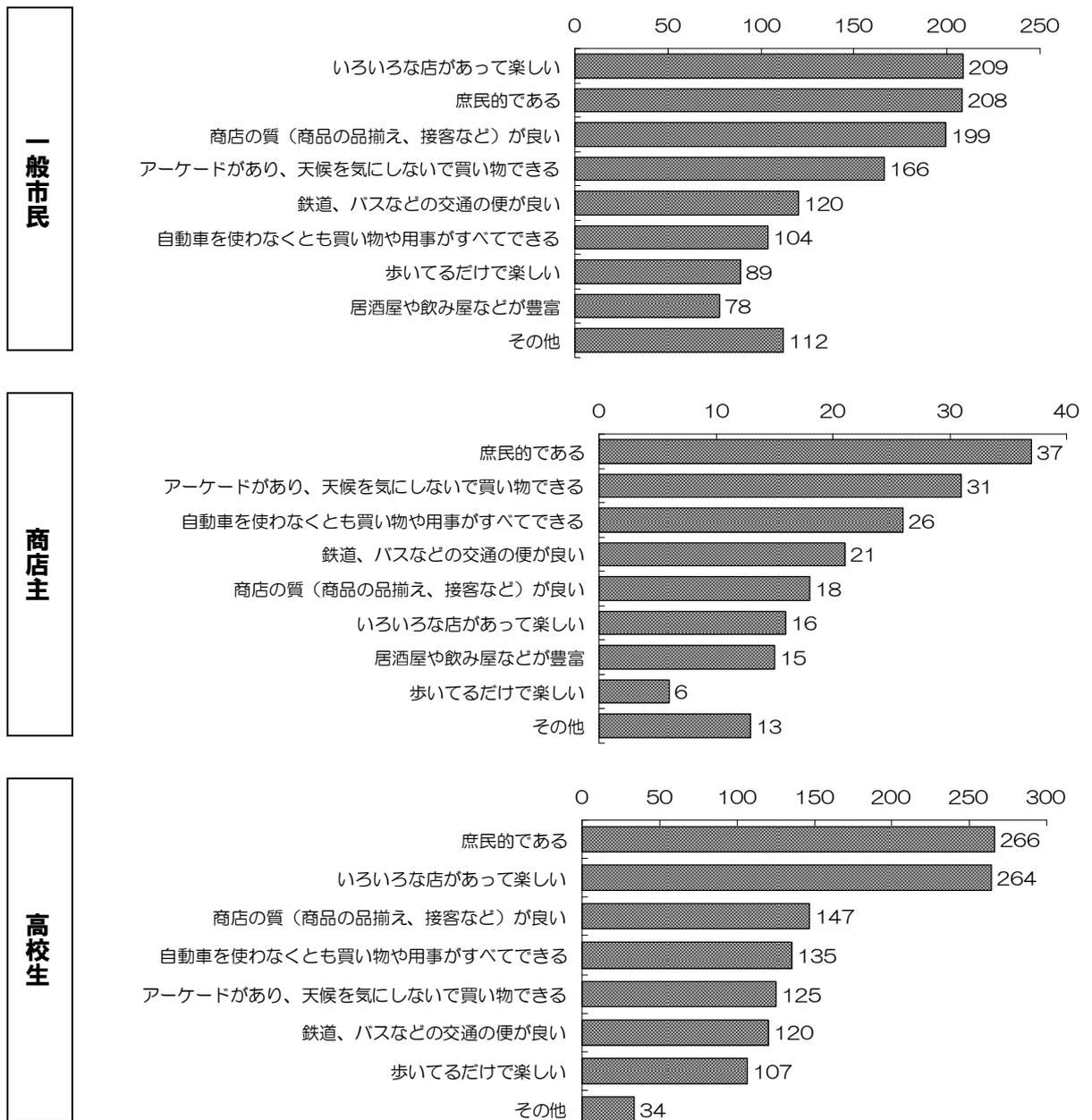


図 1-3-7 中心市街地を訪れる目的

・ 中心市街地の問題点

「駐車場が少ない」「若者が楽しめる場所が少ない」「休息できる場所がない」等が挙げられた。自動車交通が主流の現在では、駐車場の確保は欠かすことのできない要素である。さらに高校生をはじめとする若者のニーズの把握、まちなかで休息できる空間の整備を如何に図るかが課題となる。

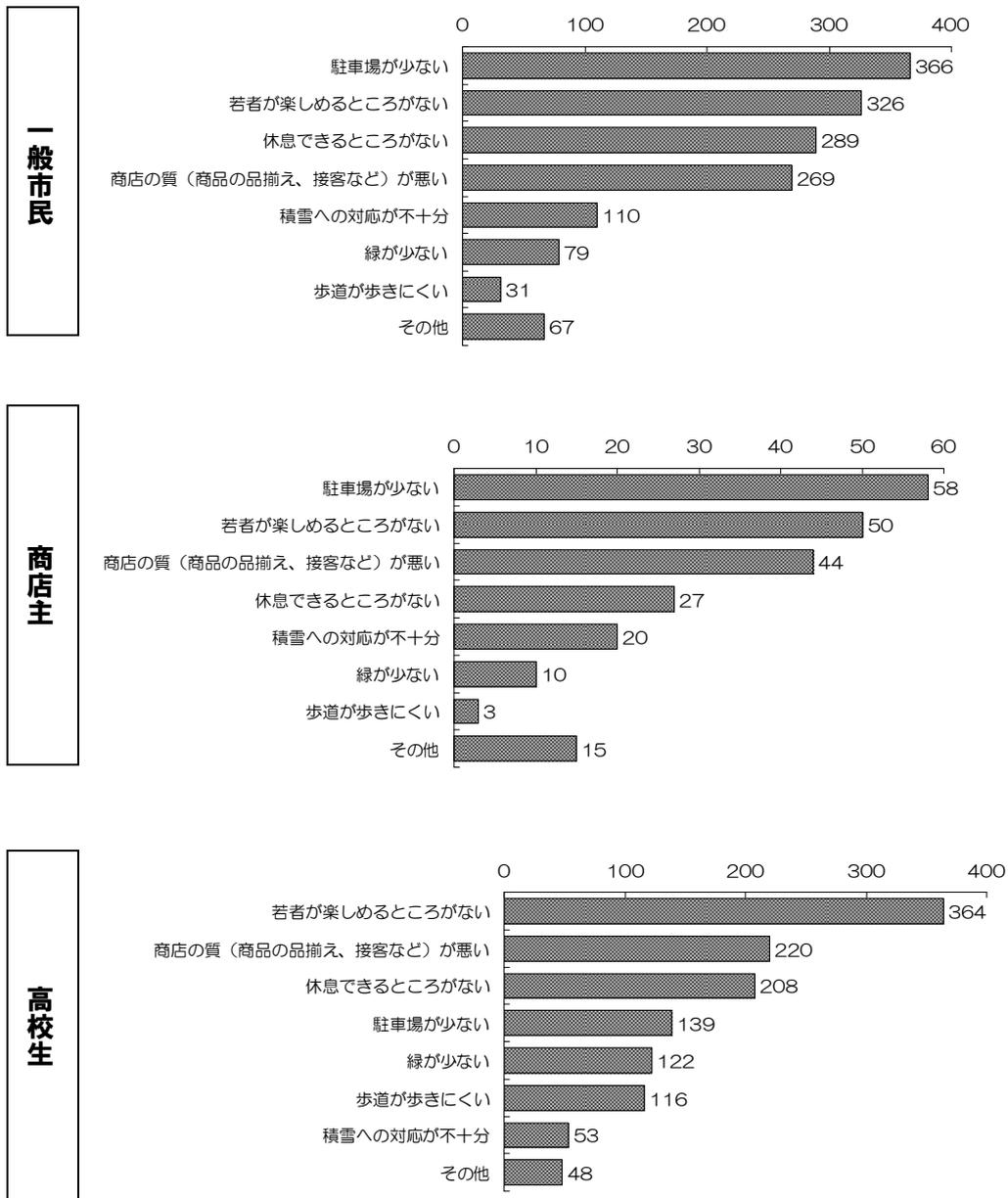
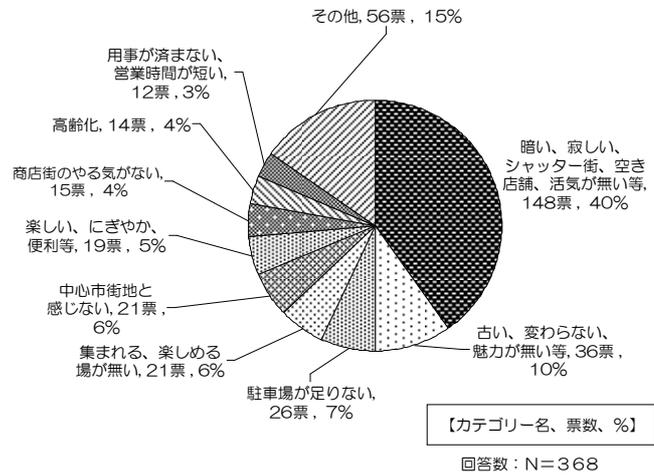


図 1-3-8 中心市街地の問題点

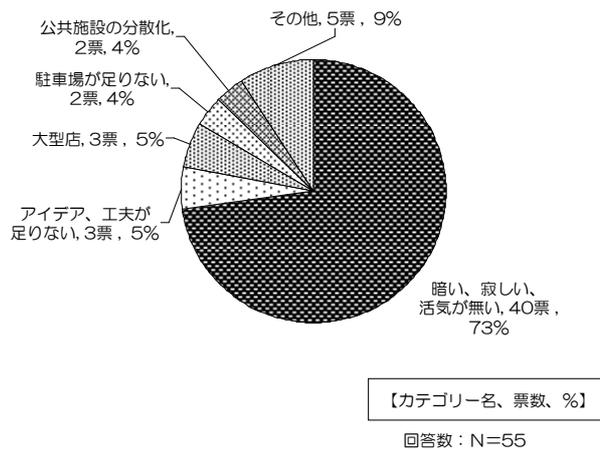
・現在の中心市街地のイメージ

「暗い」「寂しい」「シャッター街」「空き店舗」「活気が無い」等のイメージが多い。

一般市民



商店主



高校生

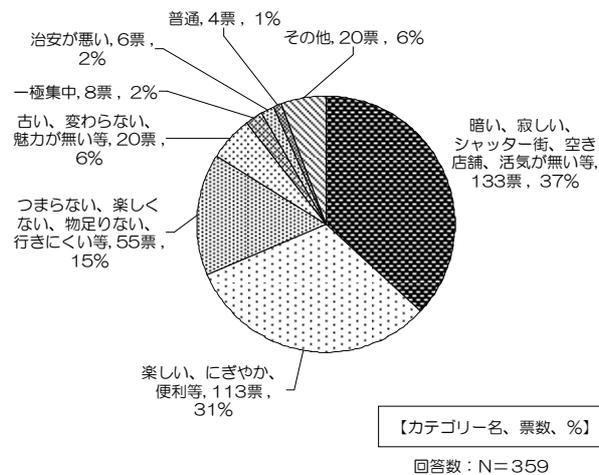


図 1-3-9 中心市街地のイメージ

③今後の中心市街地について

・中心市街地に望む将来像

一般市民・商店主・高校生ともに、「歩いて用事を済ませられる、車が無くても暮らせるまち」としての将来像を望む回答が多い。高校生では、「近代的で都会的なまち」を将来像とする回答が多いのが特徴である。また、一般市民において「災害に強い安心なまち」が上位にあがっており、洪水や地震が発生した際の防災拠点整備なども考慮する必要がある。

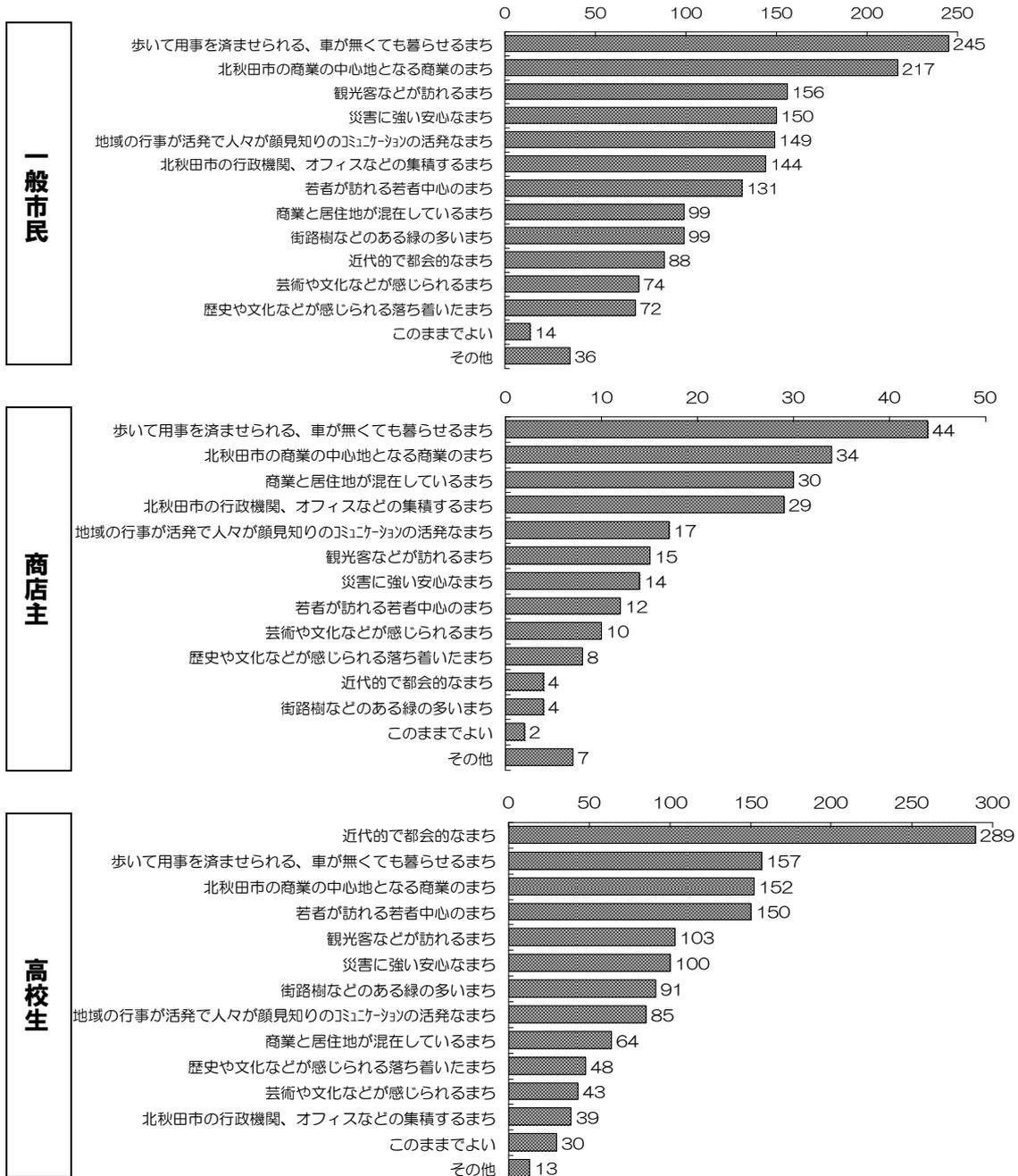


図 1-3-10 中心市街地のイメージ

・ 中心市街地の活性化に向けて必要な整備

「駐車場整備」「店前の路上駐車場整備」「病院跡地の利活用」等車社会に対応した整備や跡地を活用した整備が望まれている。

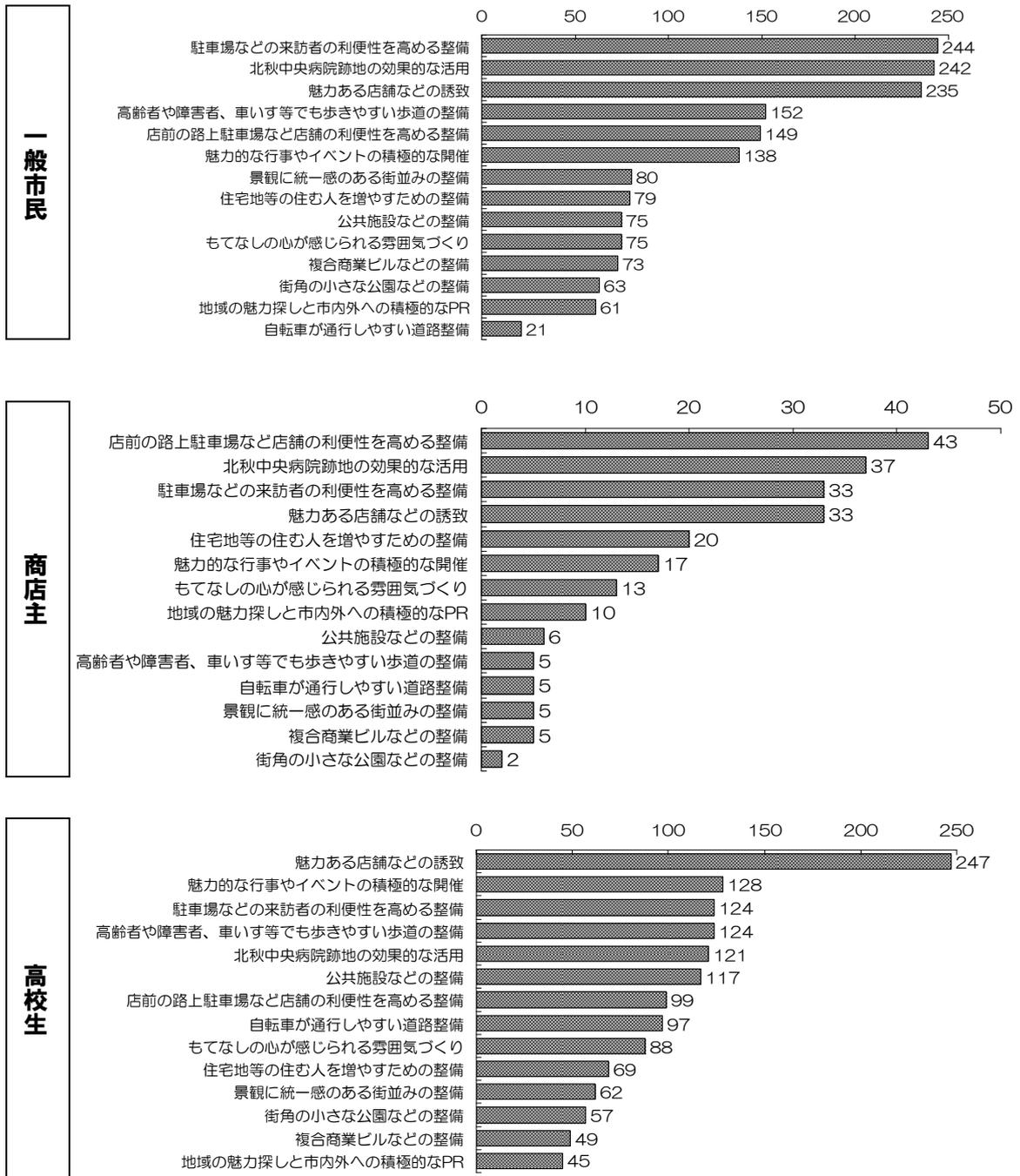


図 1-3-11 中心市街地の活性化に向けて必要な整備

- ・ 中心市街地活性化のため優先的に行う必要のある取り組み

観光スポットや特産品のPR、映画館のようなレジャー施設により市外から人が集まる環境づくりが求められる一方で、企業や学校の誘致により若者がまちに定住する対策も課題として挙げられる。

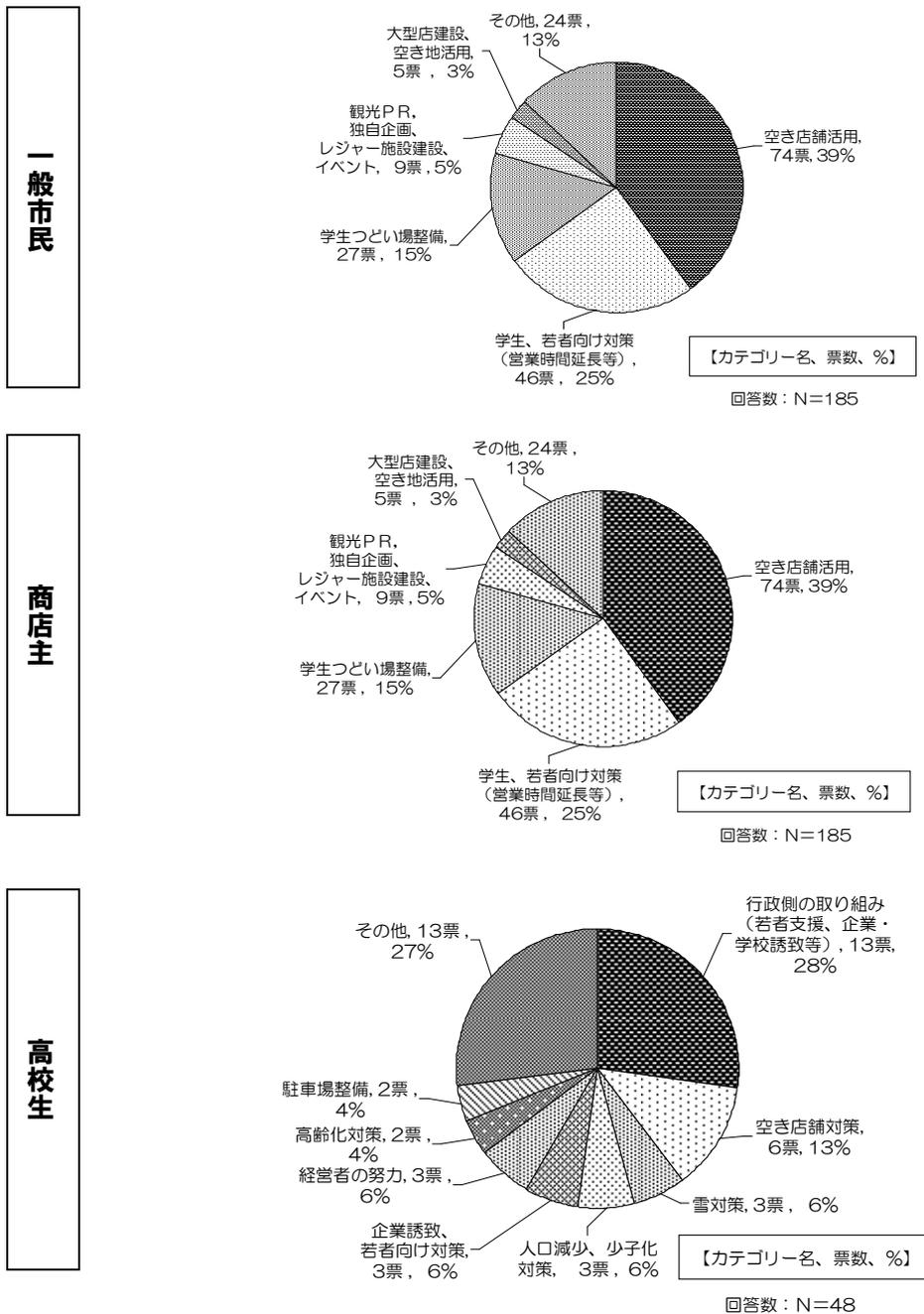


図 1-3-12 中心市街地活性化のために優先的に行う必要がある取り組み

④今後の中心市街地活性化への協力について

何らかのイベントや行事に参加したい人が多数おり、参加意識は高いものといえる。このため、今後のイベント等の開催にあたっては市民が参加できる仕組みづくりなどが有効的である。

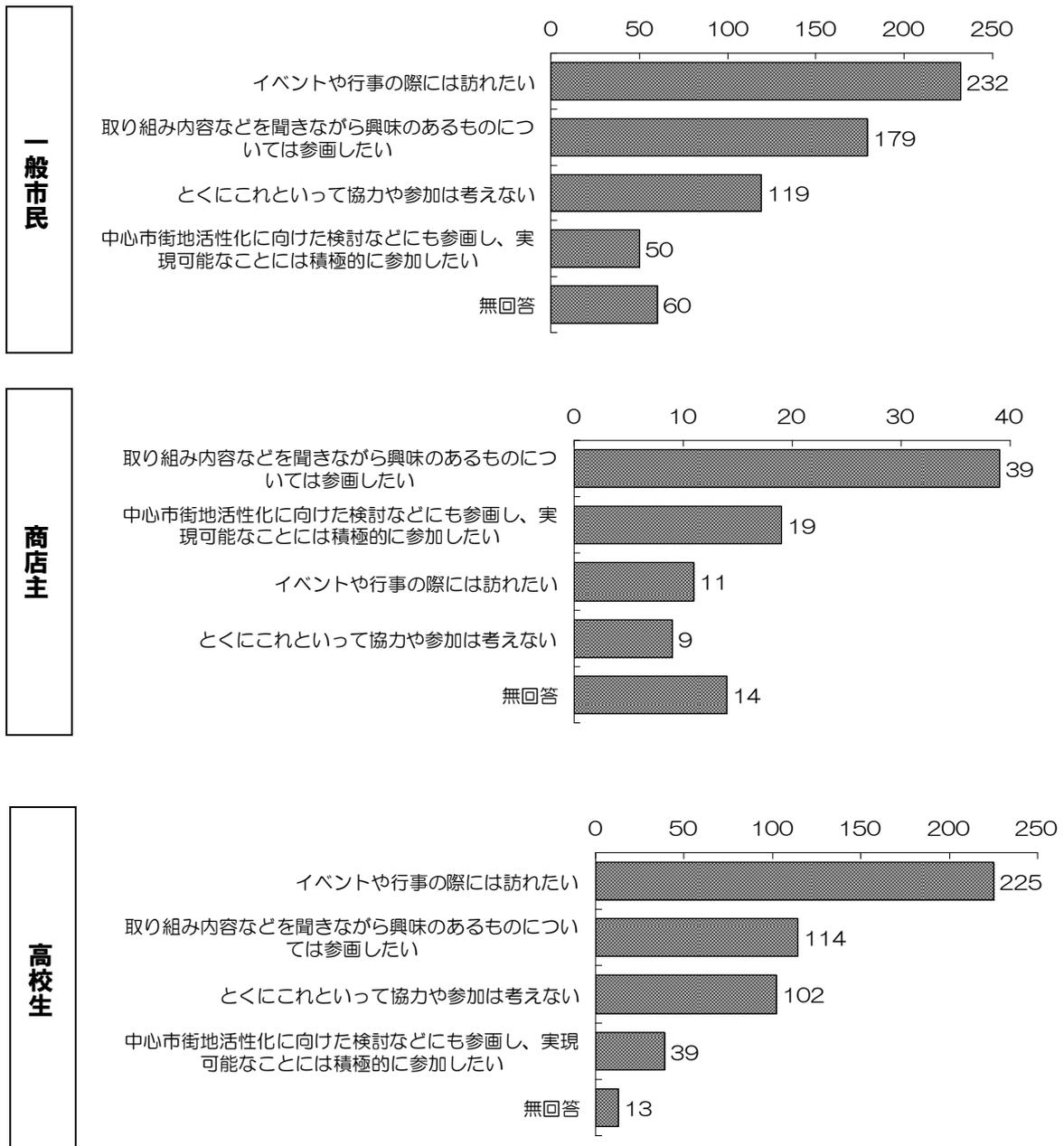


図 1-3-13 中心市街地活性化への協力

⑤北秋中央病院跡地の利活用方法

「商業施設」「イベント会場」「駐車場」が多く、様々な店舗が入ったショッピングモールを建て、シャッター街で寂しい商店街に、昔のような賑わいを持たせたいという気持ちがうかがえる。また現在行われているイベントを病院跡地で行い、中心部に人を集め、イベント以外の時は駐車場や災害時の避難場所として、多目的スペースにしてほしいという考えも多くみられる。

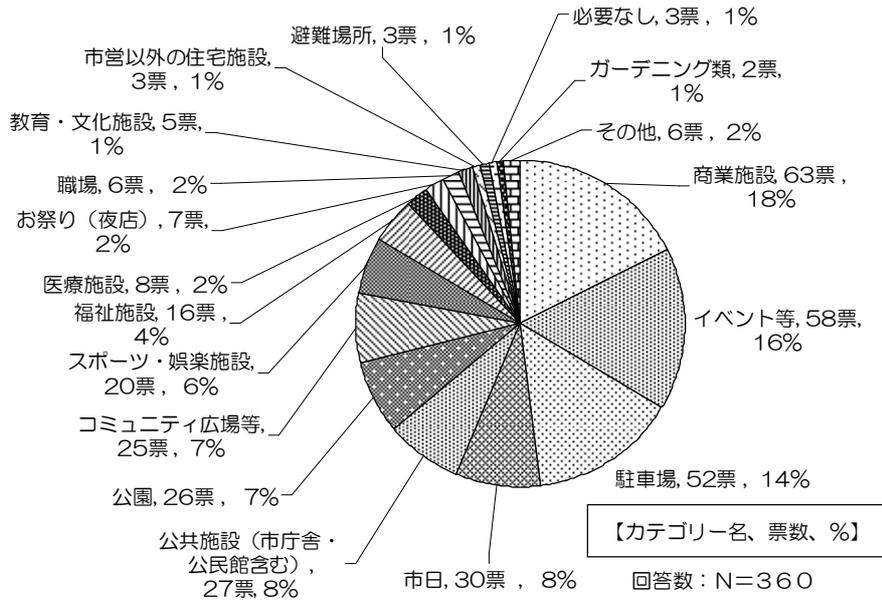


図 1-3-14 中央病院跡地の利活用方法(一般市民)

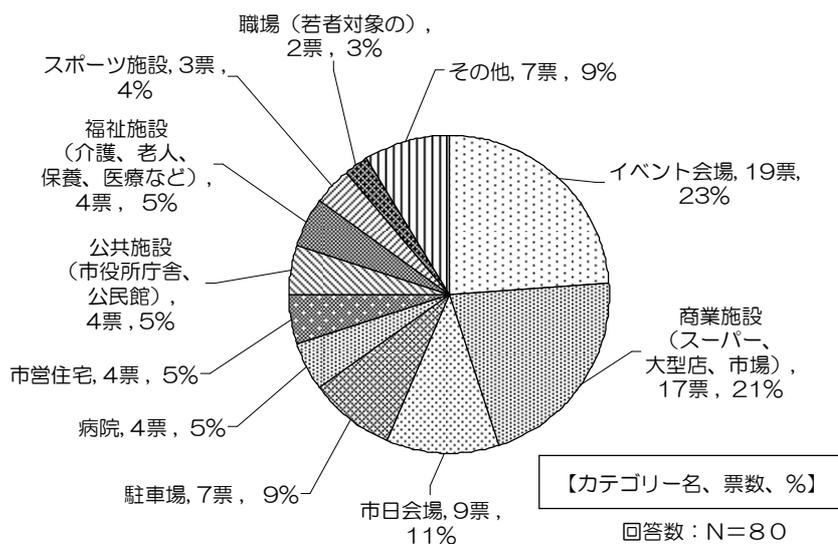


図 1-3-15 中央病院跡地の利活用方法(商店主)

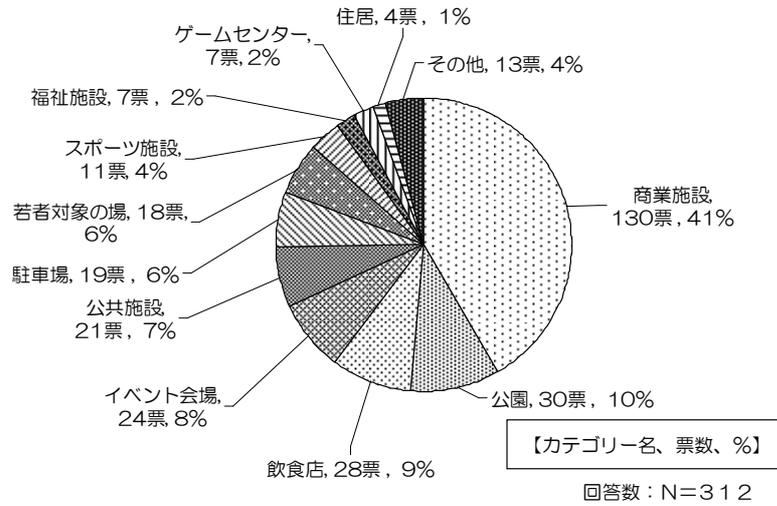


図 1-3-16 中央病院跡地の利活用方法(高校生)

⑥ 高校生登下校時間

・ 登校時間

内陸線やJRを利用する生徒が秋田北鷹高校1・2年生の半数弱(221人)と多く、駅前を歩いてもらうことで活性化につなげるため、中心市街地では登校時間を考慮した営業形態が望まれる。最も利用者が多い7時半～8時半の時間帯に営業することが効果的と思われる。

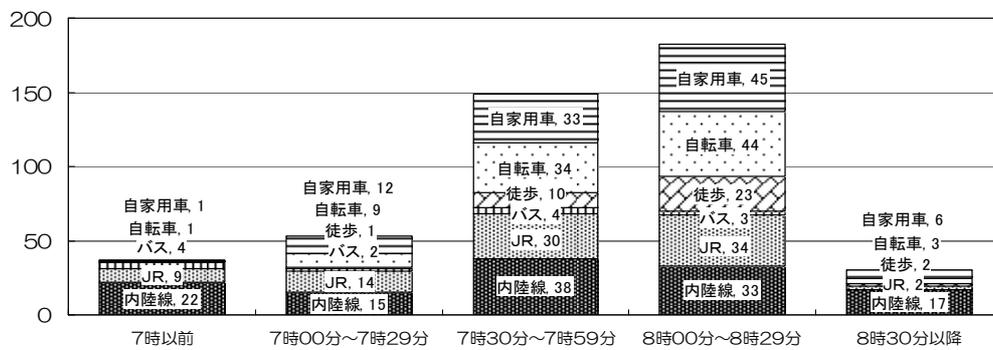


図 1-3-17 交通手段別登校時間(春夏)

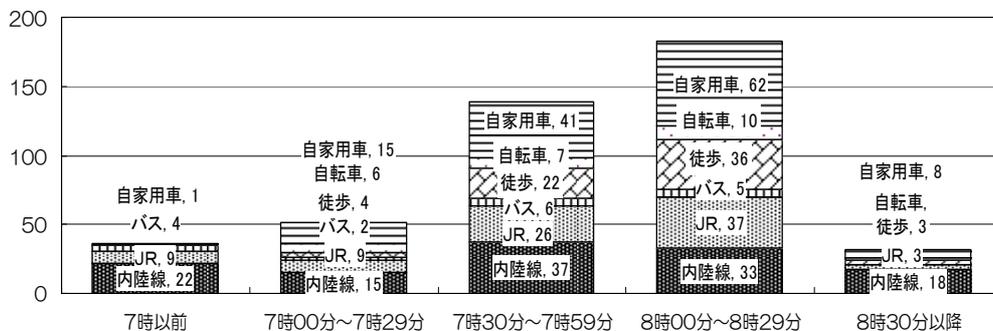


図 1-3-18 交通手段別登校時間(秋冬)

・ 下校時間

部活動等が休みの場合は16時～16時半が最も多く、部活動等を終えてからの下校時間は20時以降が最も多い。下校時においても中心市街地では下校時間を考慮した営業形態が望まれる。

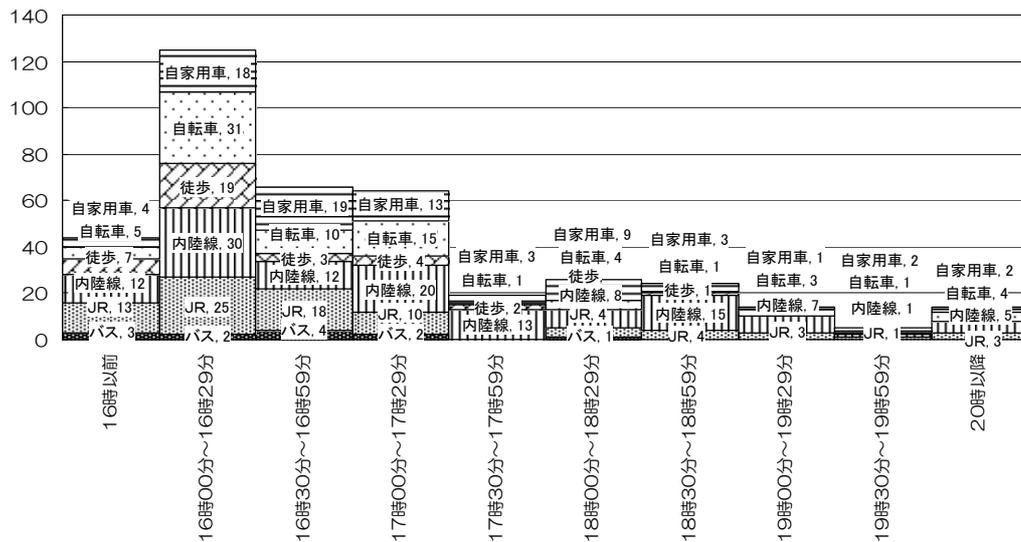


図 1-3-19 交通手段別登校時間(部活なし春夏)

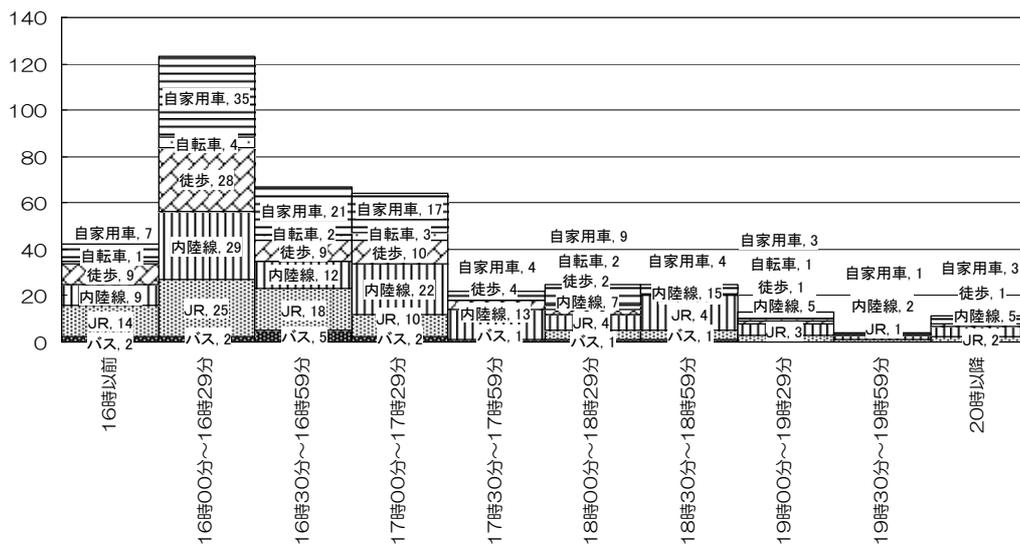


図 1-3-20 交通手段別登校時間(部活なし春夏)

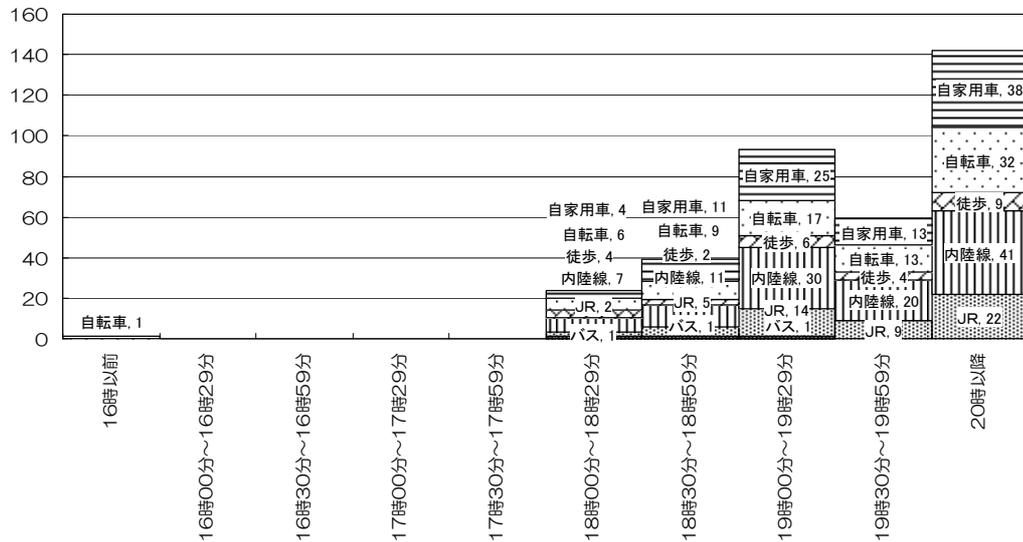


図 1-3-21 交通手段別下校時間(部活有り春夏)

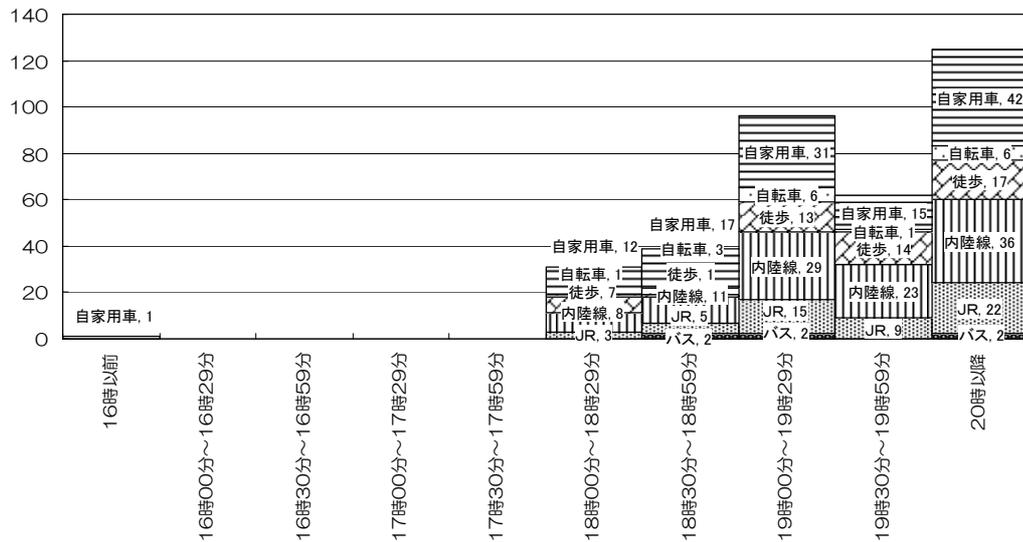


図 1-3-22 交通手段別下校時間(部活あり春夏)

(5) まちづくりの上位計画・関連計画

1) 北秋田市総合計画(平成 18 年3月策定 計画期間平成 18~27 年度)

北秋田市総合計画では、将来都市像として『「自然」「ひと」が調和し、活気とぬくもりのある交流都市～美しい自然が響きあい、交流とふれあいの創出により、未来を拓く～』とし、地域の実情を捉えた施策を展開する観点から、「豊かな自然環境に育まれる都市」「活気あふれる交流都市」「ふれあいとぬくもりの交流都市」の実現を目指している。

北秋田市総合計画 基本構想

将来都市像	「自然」「ひと」が調和し、活気とぬくもりのある交流都市 ～美しい自然が響きあい、交流とふれあいの創出により、未来を拓く～ 1. 豊かな自然環境に育まれる都市 2. 活気あふれる交流都市 3. ふれあいとぬくもりの交流都市
基本方針	1. 活気ある農林水産業の育成 2. 自然と共生するまちづくり 3. 安心・安全・快適に暮らせるまちづくり 4. 人が集まるにぎわいのあるまちづくり 5. 働く場と若者定住を創造するまちづくり 6. まちづくりのしきみを整える 7. みんなで支え合うぬくもりのあるまちづくり 8. 地域を支える人材の育成

基本方針である「3. 安心・安全・快適にくらせるまちづくり」では、道路、公共交通、情報通信網、住環境等の都市基盤の充実を図るとともに、多様化するライフスタイルに対応した住宅供給などによる定住化を促進するとしている。また、「4. 人が集まるにぎわいのあるまちづくり」では、消費者にとって魅力ある商業環境を形成するために、既存商店街の支援、商業集積の促進をはかるとともに、商店街の近代化、各種イベントの実施などによる魅力ある商店街づくりを支援し、中心市街地の活性を目指していくとしている。

2) 北秋田市都市計画マスタープラン(平成19年3月策定 目標年次平成38年)

北秋田市都市計画マスタープランでは、「にぎわいが舞い込む 交流とぬくもりあるまちづくり」を基本理念とし、まちづくりについては、にぎわいと交流による「まちのつくり方」と北秋田市への誇りともてなしの心による「まちの育て方」を基本に実現していくものとしている。

まちづくりの目標としては、「にぎわいのある北秋田市としていくための基礎づくり」「安全、安心でゆったりとした気持ちで生活できるよう、人の顔が見える環境づくり」「北秋田市内と各地域を結ぶ広域交通や地域同士を結ぶ都市内交通により、生き活きた交流を支える骨格を創る」「住むことに誇りを持てるまちづくりと人づくりをともに進める」の4つを掲げており、にぎわいの拠点として中心市街地において、中心部としてのアクセス性を高め、北秋田市の中心的な機能を集積・活用し、歩いて暮らせる機能を整えるものとしている。

とくに、商業業務系の土地利用については、鷹ノ巣駅から南に広がる中心市街地を中心商業地区として位置づけ、人にやさしいまちづくりの取り組みと合わせた歩行空間の整備等を行い、歩いて楽しい商業空間の形成を図ると共に、商業施設や公共施設の集積を高め、にぎわいの拠点を形成するものとしている。

北秋田市総合計画 基本構想

基本理念 にぎわいが舞い込む 交流とぬくもりあるまちづくり

まちづくりの目標

1. にぎわいのある北秋田市としていくための基礎を創ります。
 - ・にぎわい拠点／産業を育成する拠点／自然や歴史、いやしの拠点
2. 安全、安心でゆったりとした気持ちで生活できるよう、人の顔が見える環境づくりを進めます。
 - ・歩いて暮らせる暮らしづくり／コンパクトな暮らしづくり／個性豊かな地域づくり
3. 北秋田市と各地域を結ぶ広域交通や、地域同士を結ぶ都市内交通により、生き活きた交流を支える骨格を創ります。
 - ・広域圏や地域を結ぶ骨格づくり／歩く生活を支える交通の骨格／水と緑のネットワーク
4. 住むことに誇りの持てるまちづくりを人づくりとともに進めます。
 - ・まちづくりにおける人づくり／暖かいもてなしの心の醸成

○ 土地利用の基本方針

土地利用計画にあたっては、まちににぎわいをもたらすことを念頭にしながら、北秋田市の資源を十分に活用した計画的な土地利用を推進していくものとする。

本市の人口減少を勘案して、将来における土地利用は、市街地（用途地域）や都市計画区域の中で、コンパクトに人の顔が見えるまちづくりを原則とし、都市計画区域外において、既存の集落やにぎわいがあり、独自の風土や文化を形成している地域においては、小さなにぎわい拠点として今後とも維持改善を図り、良好な集落環境を守っていきます。

方針1 古くから続くまちの特性や資源を活かし、にぎわいを形成します。

方針2 求心力や魅力ある拠点づくりを行います。

方針3 実情に応じて新たな北秋田市ルールを設定します。

<住宅系土地利用>

- 都市居住ゾーン：中心部住宅地、周辺部住宅地、新規開発住宅地
- ゆったり集落ゾーン：田園部の集落地区、山間部の集落地区

<商業業務系土地利用>

- 顔となる商業業務ゾーン：中心商業地区、新商業地
- 生活商業業務ゾーン

○ 地域別構想（鷹巣地区）

【住む】職と住が共存する色々な世代が住み続けられるまち

- ・ 鷹巣地区に安心して住み続けられるまちづくり
- ・ 快適に暮らせる住環境の整備

【働く】地場産業や新産業を育む場づくり

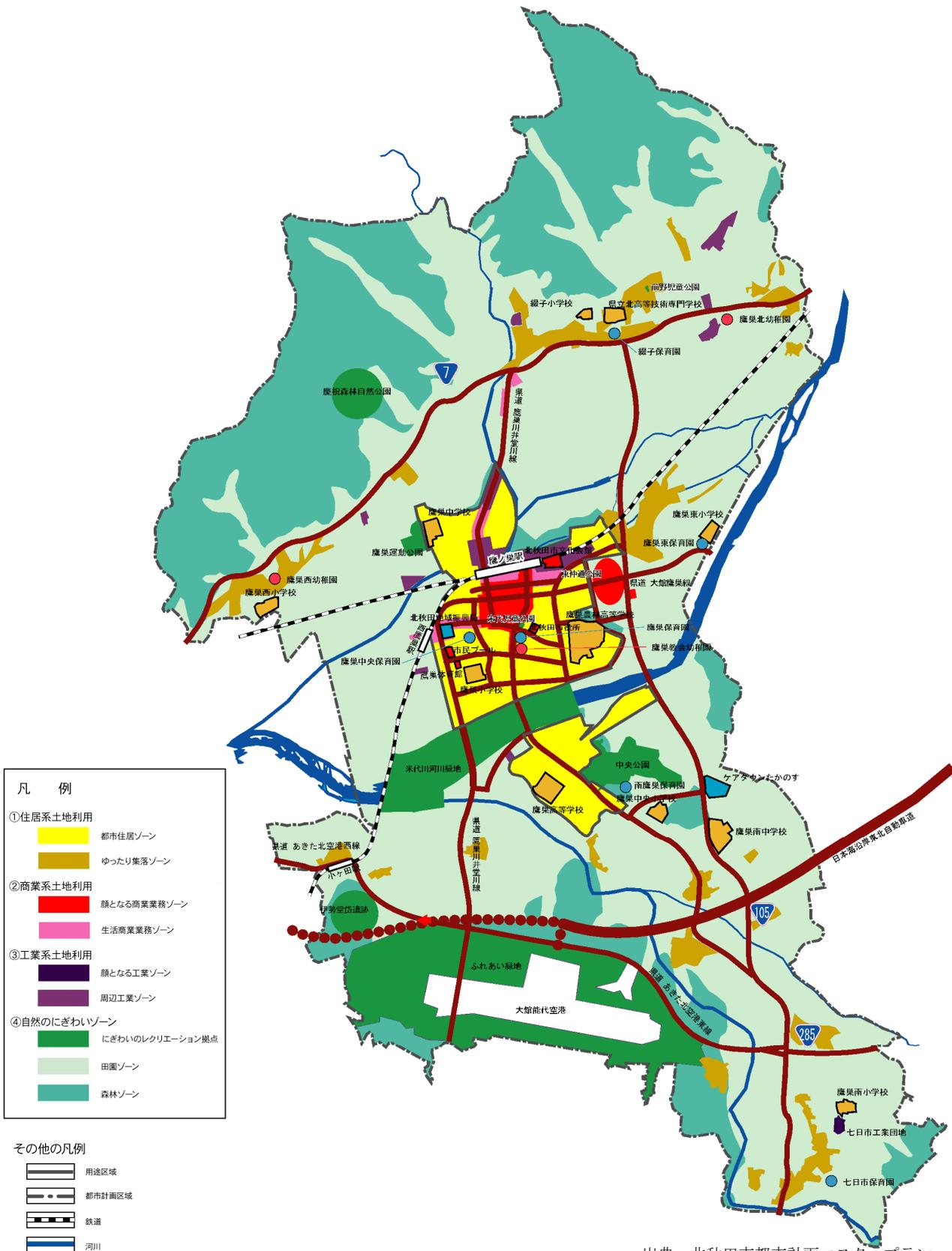
- ・ 皆で盛り上げるにぎわいの中心市街地の形成
- ・ 職住近接の働く場づくり

【いやし、にぎわい】地域の歴史、自然を活かしたにぎわいをつくる

- ・ 地域の良さを伝えることのできる人づくり・拠点づくり
- ・ 地域が誇りとなるまちづくり
- ・ 豊かな自然を活かしたにぎわいづくり

【移動】暮らしが息づいて歩いて楽しい魅力的なまちづくり

- ・ 広域交通体系（鉄道、空港、高速道路）を活かしたまちづくり
- ・ 人の顔が見えるスローに移動できるまちづくり



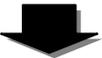
出典：北秋田市都市計画マスタープラン

図 1-4-1 土地利用方針図

(5) 中心市街地活性化の課題の整理

①北秋田市及び中心市街地の現状からの課題

項目	現状からの課題
人口	<p>●中心市街地において定住人口が減少、少子高齢化も著しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北秋田市全体の人口減少は著しく、5年間で約9%減少している。さらに、少子高齢化も進んでおり、高齢化率は30%を超えている。 ・住居表示区域内の人口は、平成23年現在4,101人であり、平成17年から平成22年までの減少率は9.7%と北秋田市全体の減少率9.1%に比べても大きくなっている。年齢3区分人口構成は概ね北秋田市全体と同様の傾向を示しており、平成23年において老年人口が36%となっている。 ・DID地区面積の大きな増減はないものの、人口が年々減少しており、低密度化が進行している。 <p style="text-align: center;"></p> <p>・人口減少・少子高齢化に対応したまちづくりや消費者ニーズの変化に対応した商業環境づくりが求められている。</p> <p>・定住化対策、高齢者等の買い物環境づくり、バリアフリーに配慮された社会基盤づくりなどを図っていくことが求められる。</p>
交通状況	<p>●自動車の依存度が高く、鉄道・バスの利用が低迷している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北秋田市の北部に位置する鷹巣地区は、東西にJR奥羽本線、南に秋田内陸縦貫鉄道が縦貫している。JR・秋田内陸縦貫鉄道ともに、一日平均乗降者数は減少傾向を示している。 ・鷹巣地区を走行する一般乗合バスは14系統あり、大館能代空港へのリムジンバス、鷹巣一東京間を結ぶ高速バスも運行されている。輸送人員は平成13年には100万人以上あったものが、平成23年には約37.6万人まで減少している。 ・自動車保有台数からも自動車依存度の高さは伺え、自動車でのアクセス性を確保することが求められる。 <p style="text-align: center;"></p> <p>・自動車への依存度が高い地域である。鉄道・バスの公共交通機関の利用者が減少傾向を示しているものの、高齢化社会のなかで運転断念者の外出を支援するため、公共交通機関の利便性向上を図っていくことが求められる。</p>
歩行者通行状況	<p>●市街地を歩く人が激減している。(15年前の約2割程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日に比べ平日の通行者が多く、日常的な暮らしの中で来訪されている状況がうかがえる。 ・鷹ノ巣駅から南側の商店街通りにおいては、15年前に対し約2割に減少しており、歩行等通行者数が大きく減少している。 <p style="text-align: center;"></p> <p>・中心商店街の賑わいが著しく低下していることがうかがえ、早急な対策が必要である。</p>

項目	現状からの課題
観光	<p>●豊富な観光資源により観光客は多く来訪している。中心市街地でも「ふるさと踊りと餅っこ祭り」をはじめ多様なイベントが開催されている。</p> <p>・北秋田市は、ギネスにも登録されている世界一の大太鼓をはじめ、自然体験が可能で癒しを体感できる森吉山県立自然公園や太平湖まつり、阿仁根子番楽やマタギ、先祖供養の合川万灯火や森吉山麓七夕火まつり等、施設、伝統芸能など固有の文化や、自然公園、温泉施設と優れた観光資源がある。</p> <p>年間観光入込客数は平成22年度で約204万人となっており、「大太鼓の里ぶっさん館」の観光入込客数が約23万人、また観光資源別の観光入込数をみるとほぼ横ばいながら安定的な観光入込数を維持している。</p> <p>・北秋田市中心市街地周辺では、年間を通じてイベント等が開催されている。毎年5000人を超える観光客が訪れる「ふるさと踊りと餅っこまつり」や、「きらきらフェスティバル」「軽トラ市」「大綱引き大会」など中心商店街活性化に向けたイベントも実施され、来訪者拡大及び賑わい創出に効果をもたらしている。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>・今後も継続した行事イベント開催による来訪機会の創出が求められる。</p>
中心市街地の公共公益施設	<p>●公共公益施設が多く集積している。他方で、公共施設の郊外化による未利用地がある。</p> <p>・北秋田市の中心市街地及びその周辺には、北秋田市役所、中央公民館のほか、秋田県や国の出先機関、鷹巣地域福祉センターなどの福祉施設が立地している。</p> <p>・平成22年4月に市内にある3つの公立病院（北秋中央病院・公立米内沢総合病院・北秋田市立阿仁病院）の機能を再編統合し、北秋田市の郊外にある合川地区下杉に北秋田市民病院が開院するなど、公共施設の郊外化も見られる。同時に、中心市街地に広大な跡地が残り、低未利用地の効果的な活用が求められている。</p> <p>●中心市街地に近接して平成23年4月に県立秋田北鷹高等学校が誕生している。</p> <p>・平成23年4月には、市内の4つの高校（県立鷹巣農林高等学校、県立鷹巣高等学校、県立米内沢高等学校、公立合川高等学校）を統合した県立秋田北鷹高等学校が開校されている。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>・継続した公共公益施設を集積が求められる。さらに、低未利用地の活用を図るとともに、県立秋田北鷹高等学校との連携などによる新たな活性化への取り組みが求められる。</p>
地価動向	<p>●中心市街地の地価が大きく下落している。</p> <p>・北秋田市の地価動向は、過去10年間で調査地点すべてが下落、もしくは横ばいになっている。特に中心市街地に位置する材木町は10年間で▲88,000円/㎡と、市内で最も大きな下落となっている。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>・地価の下落が大きく、土地の有効利用がしやすい状況にあり、賑わい創出への取り組みにあわせて、店舗構成の再構築を図るなど商業地としての魅力向上を図っていくことが重要である。</p>

項目	現状からの課題
商業の動向	<p>●市の商店数、年間商品販売額は著しく減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北秋田市の商業は、商店数及び従業員数ともに平成9年以降は減少している。また、年間商品販売額では、平成9年に比べ2分の1以下に落ち込んでいる。 ・商圏の拠点を形成している旧鷹巣町において最寄品、買回品の商店数・年間販売額ともに大きく減少している。他方で、大館市への依存が高いほか、弘前市や秋田市、能代市などと広域的な買い物行動となっている。 <p>●中心市街地にある鷹巣駅前商店街、鷹巣銀座通商店街は、個店が連なる商店街。総店舗数の減少、空き店舗の増加が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地には、鷹巣駅前商店街と鷹巣銀座通商店街の2つの商店街がある。中心市街地に核店舗は無く、個店が連なり商店街を形成している。現在総店舗数は67店舗であり、平成元年度から比べて19店舗減少し、空き店舗が増加している。 <p>●中心市街地に近接して大型ショッピングセンターが建設されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年に中心市街地近郊の栄地区（国道105号、一般県道大館鷹巣線交差点）に、イオンタウンたかのすショッピングセンター（売り場面積14,133m²）、いとく鷹巣ショッピングセンターたかのすモール（売り場面積8,163m²）、ケーズデンキ鷹巣店（売り場面積2,020m²）が立地し、商業環境が大きく変化している。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>●JR 鷹ノ巣駅前に位置する商店街では空き店舗が目立っている一方で、近隣に大規模小売店舗が立地し、商業行動の大きな変化が起きている。商店街の早急な活性化への取り組みが求められる。</p>

②アンケート調査結果からの課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ●買い物の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車による郊外大型店への買い物が多い ・高齢者は歩いて駅前・銀座通商店街へ買い物に行く ●中心市街地を訪れる目的 <ul style="list-style-type: none"> ・買い物や公的施設利用が多い ●中心市街地の魅力 <ul style="list-style-type: none"> ・庶民的 ・色々な店がある ・アーケードがあり天候を気にせず買い物ができる ●中心市街地の問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が少ない ・若者が楽しめるところが少ない ・休息出来るところが少ない ●中心市街地のイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・暗い、寂しい、シャッター街、空き店舗、活気がない ●高校生の登下校時間 <ul style="list-style-type: none"> ・登校時間は7時半～8時半が多い ・下校時間は16時～19時以降が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して歩いて買い物が出る環境づくりが必要である。 ・中心市街地の魅力を維持することが必要である。 ・中心市街地の問題点である、駐車場の確保、若者が楽しめる場、休息できる場づくりを進め、問題を解消することが必要である。 ・高校生や若者の利用しやすい中心市街地とすることが必要である。



今後の方向性	
今後の中心市街地	<ul style="list-style-type: none"> ①中心市街地に望む将来像 <ul style="list-style-type: none"> ・歩いて用事を済ませられる、車が無くても暮らせるまち ・北秋田市の商業の中心地となる商業のまち ②活性化に向けて必要な整備 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の整備、魅力ある店舗の誘致、歩きやすい歩道整備、イベント開催、住宅整備 ③中心市街地活性化のため優先的に行う必要のある取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・観光PR、レジャー（遊戯）施設、企業誘致、空き店舗活用
今後の中心市街地への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや行事の際は訪れたい ・取り組み内容などを聞きながら興味のあるものについては参画したい
病院跡地の利活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設 ・イベント会場、駐車場、公園、避難場所 ・市営住宅の移転
中心市街地活性化について	<ul style="list-style-type: none"> ・商業環境の改善 ・行政の支援 ・イベントの開催

アンケート調査結果による中心市街地活性化の方向性	
歩いて暮らせるまち	商業の中心となるまち
<p>●住む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住む環境を良くする <ul style="list-style-type: none"> ・商業施設整備(住む人にとっての買い物) ・公園整備 ・避難場所整備 ○新しく住む人を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅の移転 ・働く場、公的施設、店舗誘致 <p>●歩く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩く環境を良くする <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や車いすに配慮した歩道整備 ・アーケード整備 ・休息施設整備 ○新しく歩く人を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅の移転 ・イベント開催 ・働く場、公的施設、店舗誘致 ・商業施設整備(高校生や公的施設利用者対象) 	<p>●買う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買う環境を良くする <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場整備 ○新しく買う人を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時間に配慮した商店営業 ・商業施設整備(中高年齢層以外の方が対象) ・働く場、公的施設、店舗誘致 <p>●訪れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪れる環境を良くする <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場整備 ○新しく訪れる人を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催 ・イベント会場整備 ・観光PR ・レジャー(遊戯)施設整備
<p>市民による中心市街地活性化への協力推進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にイベントや行事を行い、中心市街地へ集客する活動を進める ・活性化への取り組み案を広く募集や公表を行い、市民に積極的に参画してもらう 	

③上位関連計画での方向性

上位関連計画での中心市街地にかかわる方向性

・北秋田市総合計画における基本方針において、「人が集まるにぎわいあるまちづくり」の実現に向けて、消費者にとって魅力ある商業環境を形成するために、既存商店街の支援、商業集積の促進をはかるとともに、商店街の近代化、各種イベントの実施などによる魅力ある商店街づくりを支援し、中心市街地の活性を目指していくとしている。さらに、「安心・安全・快適にらせるまちづくり」に向けて、道路、公共交通、情報通信網、住環境等の都市基盤の充実を図るとともに、多様化するライフスタイルに対応した住宅供給などによる定住化を促進するとしている。住宅供給の一つとして、街なか居住の推進が掲げられている。

・北秋田市都市計画マスタープランにおいては、にぎわいの拠点として中心市街地を中心部としてのアクセス性を高め、北秋田市の中心的な機能を集積、活用し、歩いて暮らせる機能を整えるものとしている。とくに、鷹ノ巣駅から南に広がる中心市街地を中心商業地区として位置づけ、人にやさしいまちづくりの取り組みと合わせた歩行空間の整備等を行い、歩いて楽しい商業空間の形成を図ると共に、商業施設や公共施設の集積を高め、にぎわいの拠点を形成するものとしている。



中心市街地は、にぎわいの拠点であり、歩いて暮らせる機能を有する場所であると位置づける。

このため、既存商店街を魅力ある商業環境とするための商店街近代化や各種イベントの実施などソフトとハードの両面からの取り組みを進める。

さらに、商業施設や公共施設の集積を図り、道路や公共交通機関等の移動基盤の充実を図っていくものとしている。

2. 北秋田市の中心市街地活性化の基本方針

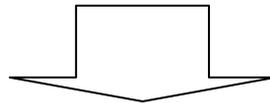
(1) 北秋田市中心市街地の将来像

北秋田市の中心市街地は商業、行政、業務の中心地として、また、多くの市民が住まう場所として機能してきた。今後も進む少子高齢化のなかで、この区域が子供から高齢者までが住み続けられ、賑わいのあるまちコンパクトなまちとなるために「歩いて用事を済ませられる、車が無くても暮らせるまち」、「北秋田市の商業の中心地となるまち」の2つを目指すべきまちの将来像とする。

この実現により、まちづくりの目標を「住む、歩く、訪れたいなるまち」とする。

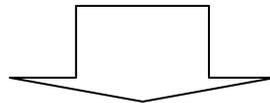
<目指すべきまちの姿>

- ・ 歩いて用事を済ませられる、車が無くても暮らせるまち
- ・ 北秋田市の商業の中心地となるまち



<まちづくりの目標>

住む、歩く、訪れたいなるまち



<中心市街地活性化の目標>

- ① まちなかに住む人を増やす
- ② まちなかを歩く人を増やす
- ③ 空き店舗を少なくする

(2) 中心市街地の位置及び区域

北秋田市鷹巣地区は、北秋田市において県、市の行政機関や企業等の事業所が集積する地域であり、古くから北秋田郡の中心地の役割を果たしてきた。

J R鷹ノ巣駅周辺地域は、鷹巣地区においてJ R、秋田内陸縦貫鉄道、バスなど公共交通機関の利便性が高く、商店が建ち並ぶ商店街や市役所をはじめとする公共公益施設が集積する中心市街地である。

この歴史的に北秋田市の中心地として、商業、行政、業務、都市施設が集積するJ R鷹ノ巣駅の駅前及び銀座通商店街を含む一体的な地域（概ね 23ha）を、北秋田市の中心市街地とする。

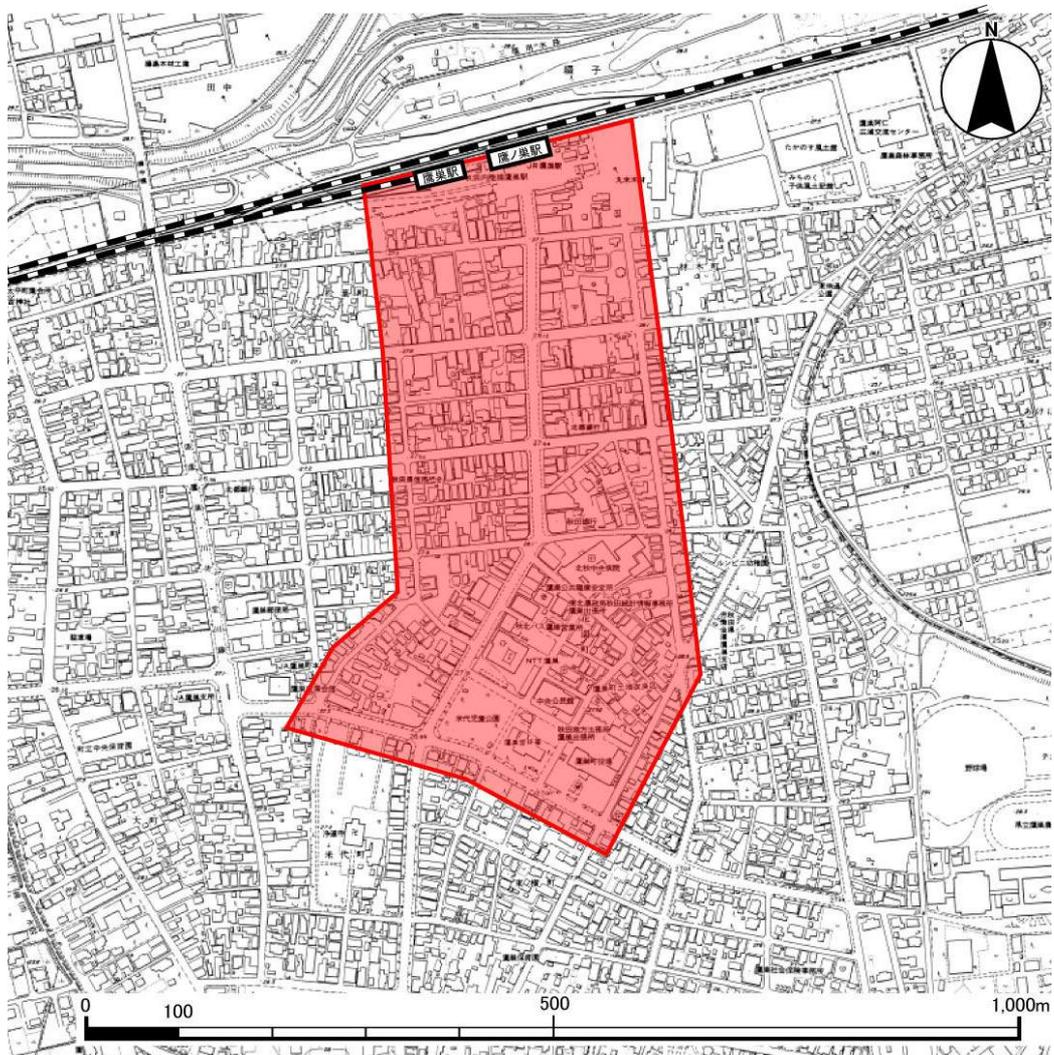


図 2-1 中心市街地の位置と範囲

(3) 中心市街地活性化の効果を図る指標

中心市街地活性化のための取り組みによる活性化効果を図るために、以下の指標を設定します。

表 2-1 指標項目案

項目	指標	現状	推計 (H28)	目標 (H28)
①まちなかに住む人を増やす	①居住人口	平成 23 年度 4,101 人	平成 28 年度 3,717 人	平成 28 年度 4,000 人
②まちなかを歩く人を増やす	②歩行者	平成 23 年度 ナリタヤ前 平日 570 人 休日 468 人 佐々木電気前 平日 1,212 人 休日 570 人	平成 28 年度 ナリタヤ前 平日 287 人 休日 73 人 佐々木電気前 平日 435 人 休日 84 人	平成 28 年度 ナリタヤ前 平日 800 人 休日 700 人 佐々木電気前 平日 1,400 人 休日 800 人
③空き店舗を少なくする	③新規出店舗数	平成 23 年 空き店舗数 15 店舗	-	平成 28 年度まで 新規出店舗数 10 店舗

① 居住人口の推計と目標

住居表示区域の居住人口について、平成17年と平成23年の6年間の推移を元に、その増減率により平成28年を推計すると3,717人となる。

人口減少下のなかで、現在の居住人口を維持することとして、目標居住人口を4,000人とする。

住居表示区域：元町、大町、米代町、住吉町、松葉町、材木町、花園町、東横町、宮前町、旭町、伊勢町

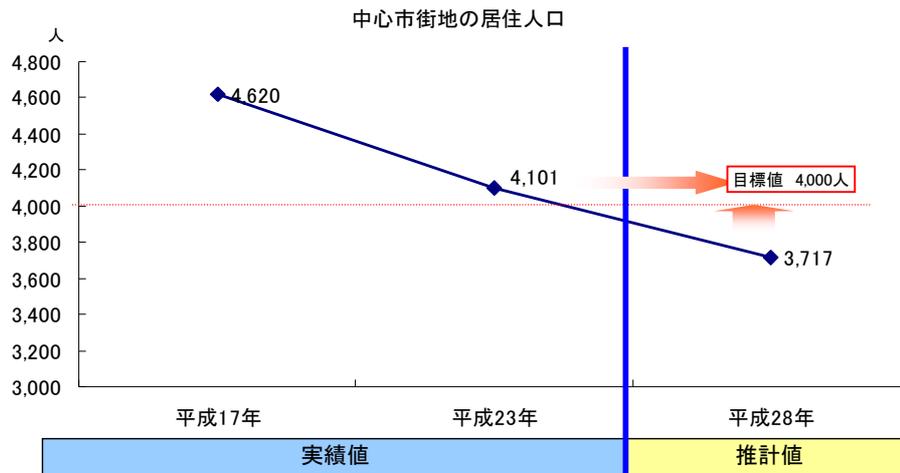


図 2-2 中心市街地居住人口の推移と推計

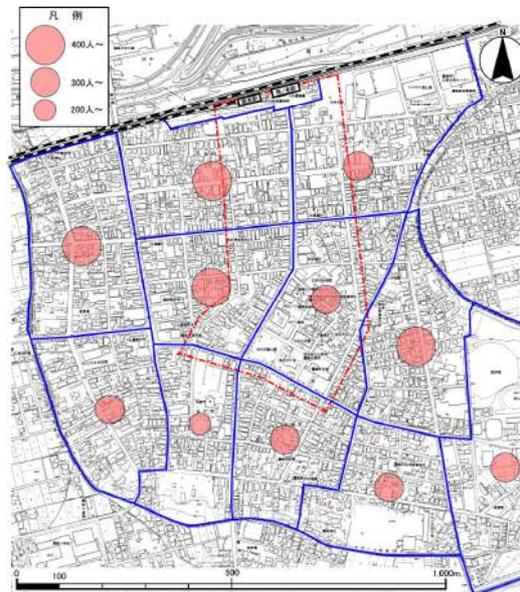


図 2-3 中心市街地の人口分布

② 歩行者数の推計と目標

歩行者数の推計は、平成22年と平成23年の実測値を元に、同様の増減をしていくものとして推計した。著しい減少が推計されるなかで、秋田北鷹高校生などが新たに中心市街地を「歩く」ための施策を通じて、鉄道を利用する学生などから概ね200人が増加することを目標として、ナリタヤ前は、平日800人、休日700人、佐々木電気前は平日1500人、休日800人を目標とする。

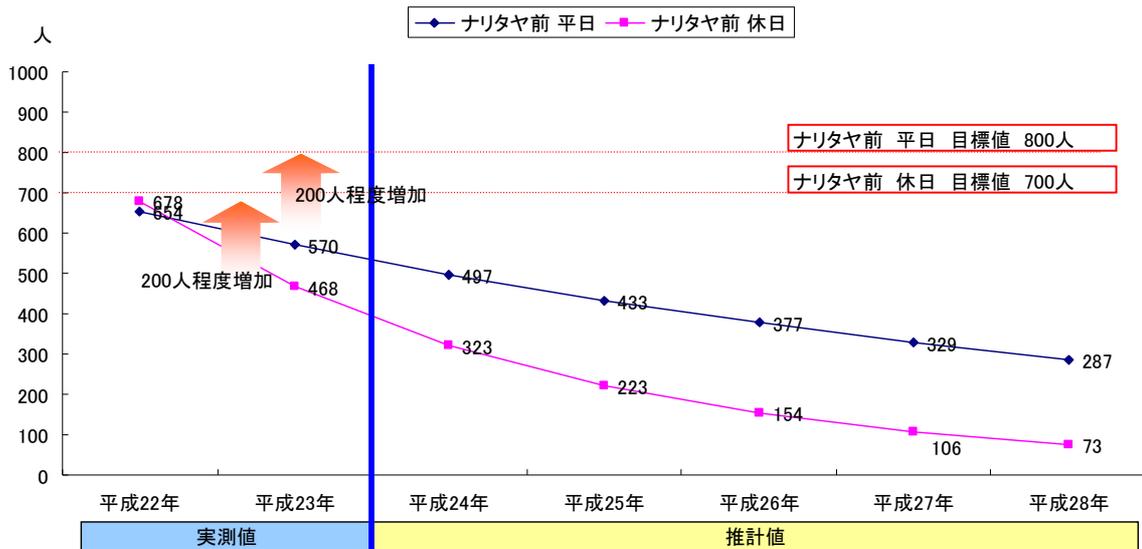


図 2-4 歩行者数の推計と目標値(ナリタヤ前)

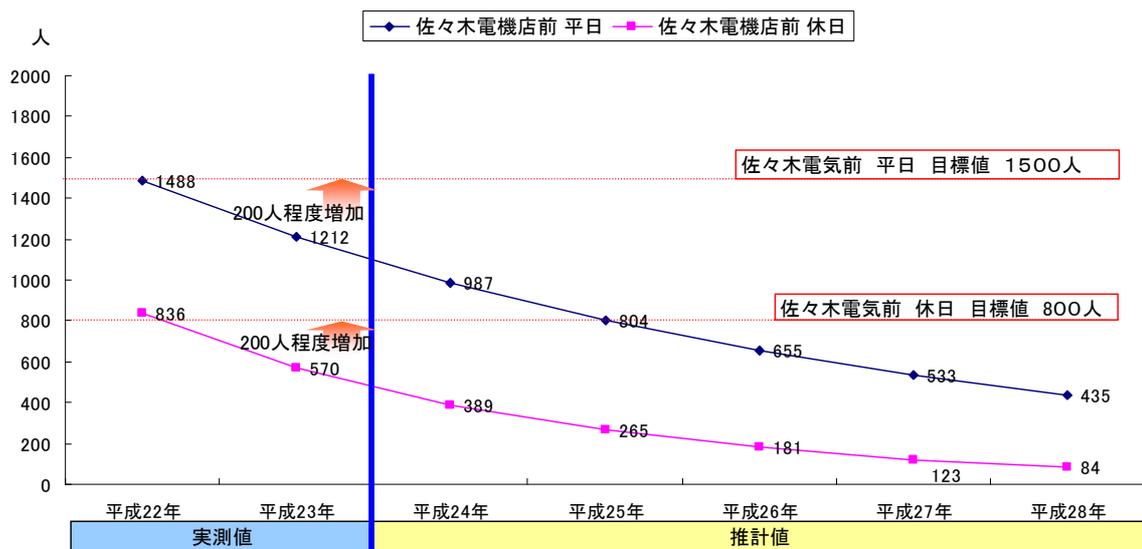


図 2-5 歩行者数の推計と目標値(佐々木電気前)

③ 空き店舗数の目標

鷹巣駅前・銀座通商店街の空き店舗数は、平成 23 年現在で 15 店舗見られる。平成 24 年度より毎年 2 店舗の新規出店者を継続することで、平成 28 年までには 10 店舗の新規店舗出店を目指す。

(4)中心市街地活性化に向けた各主体の役割分担

本ビジョンでは、「中心市街地に賑わいを呼び戻すため、商店会がやれること、市がやれること、市民と一緒にやっていくべきことを協議し中心市街地の将来像を描き、その実現に向けて取り組むべきことを明らかにする。」としている。

このため、各主体の役割分担を次のとおりとする。

① 商業者

消費者ニーズの変化を捉え、創意工夫により消費者から信頼・支持される魅力ある個店づくりに取り組む。さらに、北秋田市の中心地における商業環境づくりに関わる一員として、快適な買い物環境づくりに向けた取り組みを積極的に進める。

② 商業関係団体(商店会、商業者グループ 等)

様々な個店が集い、市民及び観光その他の来街者が快適に買い物できる商店街を形成するように努める。さらに、店舗の経営改善、後継者の育成、情報の収集及び提供など、商店街の振興を図るために必要な活動を行うよう努める。

また、各機関との連携の中で個店の魅力向上に向けた支援、経済活性化のための施策を展開する。

③ まちづくりや観光に関する団体(中心市街地において活動を行うまちづくり団体 等)

北秋田市の中心地として、来街者に感動、出会い、おもてなしの演出を図り、地域おこしや観光振興のための取り組みを積極的に展開する。

④ 市民(地域住民、消費者、法人・事業者)

北秋田市の中心地に対する誇りと愛着を持って、積極的に訪れ、賑わいをもたらすことに努める。

また、市内での買い物(地産地消)に心がけるとともに、中心市街地における市民活動やイベントに参画するなど、商店街その他市民活動団体等と連携して活性化に向けた取り組みを推進する。

⑤ 各機関

商業振興、観光振興、交通環境整備、都市計画など中心市街地活性化に関する施策を実施及び推進するとともに、市民等に対し、中心市街地活性化に関する共通認識を持てるように情報提供を行い、必要な支援や国・県及び関係機関との総合調整を行う。

3. 北秋田市の中心市街地活性化の方策

(1) 活性化施策の基本方針

2つの将来像を基本方針として、活性のための施策の方向をそれぞれ、以下のとおりとする。

基本方針 1 歩いて用事を済ませられる、車が無くても暮らせるまち

施策の方向 1-1 住む環境を良くする

住むための環境改善を図り、自動車運転等を断念した高齢者・運転免許を持たない人などの交通弱者が、買い物や用事を済ませられ、他の地域へ出かけられるとともに、安心して子育てができる環境づくりを行う。さらに、災害や雪にも強いまちづくりを進め、住む環境の改善を図る。

施策の方向 1-2 新しく住む人を増やす

住まう環境の改善を図るとともに、公営住宅などの整備、働く場の創造により住職近接型のまちづくりを進め、居住人口の拡大を図る。

施策の方向 1-3 誰もが歩きやすい環境をつくる

天候を気にせず、子供から高齢者まで誰もがまちなかで快適に歩くことができるとともに、休み・語れる場の創造やまちなみ景観の演出により、歩きたくなる道づくりを図る。

施策の方向 1-4 新しく歩く人を増やす

秋田北鷹高等学校の誕生により、多くの生徒が秋田内陸縦貫鉄道を利用していることから、登下校時に歩きたくなる道づくり、歩きたくなるまちの拠点（店舗、待ち合わせ場所など）づくりを図る。

さらに、働く場・公共施設の立地、駐車場の適正配置により、新しく歩く人を増やす環境づくりを図る。

基本方針2 北秋田市の商業の中心地となるまち

施策の方向2-1 訪れる環境を良くする

自動車社会のなかで、駐車場の確保は重要な来訪環境の一つである。このため、商店街またはその周辺に駐車可能な場所を確保し、来訪環境を改善する。

施策の方向2-2 新しく訪れる機会をつくる

中心市街地に新たな来訪目的となる公的施設、職場の立地や秋田内陸縦貫鉄道沿線地域との連携により、中心市街地に訪れる機会を創造する。

また、イベントや祭りなどは、交流の機会となるとともに、まちの新たな発見にもつながり、継続的な来訪のきっかけづくりとなることから、商店主・市民等の協働により、継続あるいは新たなイベントづくりを行い、新しく訪れる機会を創造する。

施策の方向2-3 買い物環境を良くする

買い物環境の一つとして、駐車場の確保は重要であることから、買い物客にとって利便性の高い駐車場の整備を図り、買い物環境の改善を図る。

施策の方向2-4 新しく買う人を増やす

まちなかの人の流れや消費者ニーズの把握を積極的に行い、各個店の魅力向上や空き店舗等を活用した新たな店舗の誘致などにより、商店街全体として新しい購買層の開拓を図る。

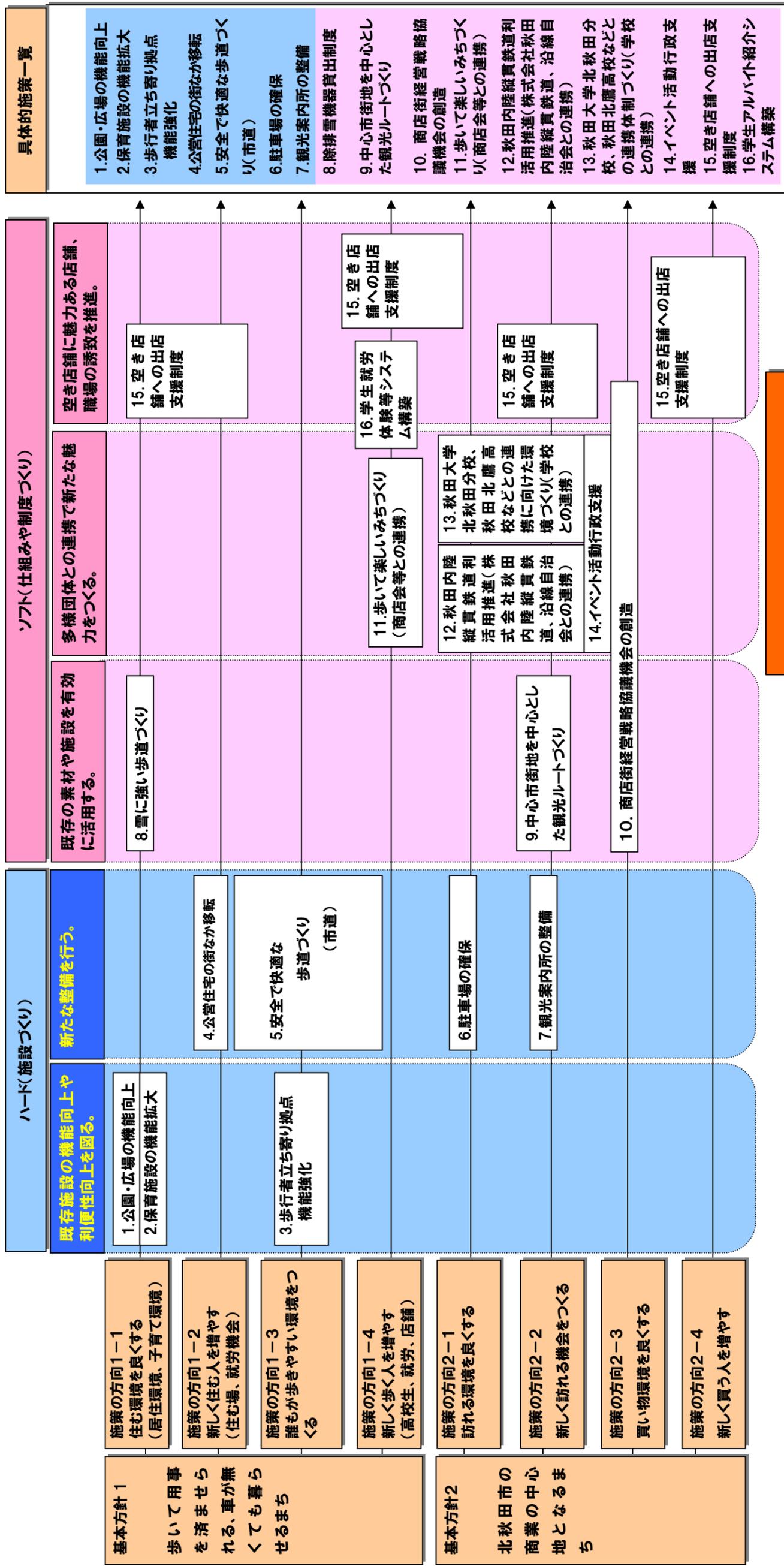
(2) 中心市街地活性化の施策

施策の方向に基づき、中心市街地活性化のための具体的な施策について、施設づくりとなるハードと仕組みや制度づくりとなるソフトの観点から以下に体系を整理する。

基本方針

施策の方向

具体的施策



秋田大学北秋田分校、秋田北鷹高校、商工会、観光協会などまちづくりにかかわる様々な団体との協議体を形成します。

(3) 施策の内容

各施策について概要を以下に示す。

表 2-2 具体的施策一覧

NO	施策名
1	公園・広場の機能向上
2	保育施設の機能拡大
3	歩行者立ち寄り拠点の機能強化
4	公営住宅の街なか移転
5	安全で快適な歩道づくり
6	駐車場の確保
7	観光案内所の整備
8	雪に強い歩道づくり
9	中心市街地を中心として観光ルートづくり
10	商店街経営戦略協議会会の創造
11	歩いて楽しいみちづくり
12	秋田内陸縦貫鉄道利活用推進
13	秋田大学北秋田分校、秋田北鷹高校などとの連携に向けた環境づくり
14	イベント活動行政支援
15	空き店舗への出店支援制度
16	学生就労体験等システム構築

NO	施策名
1	公園・広場の機能向上

中心市街地内には、米代児童公園（0.4ha）のほか鷹巣駅前広場が整備されている。これらの公園・広場の維持管理の徹底やリニューアルを図り、子供の遊び場として、また地域の交流の場としての機能向上を図る。

また、北秋中央病院跡地を当面の間ベンチや水飲み場などのある休憩拠点、多目的広場として整備する。

NO	施策名
2	保育施設の機能拡大

中心市街地には、一時預かりや病児・病後時保育を行う「子育てサポートハウスわんぱあく」があり多くの方々に利用されている。一方で、部屋の狭さなどの問題も抱えていることから、隣接する市所有施設への拡大を図る。

併せて、民間活力による中心市街地への保育・一時預かり機能設置を目指す。

NO	施策名
3	歩行者立ち寄り拠点の機能強化

子どもからお年寄りまで誰もが気軽に利用でき、交流ができる場として、空き店舗を活用して整備されたげんきワールドは、多くの市民に利用される無料休憩施設となっている。また、北秋田市交流センター、北秋田市文化会館（ファルコン）など公共施設があり、歩行者の休憩拠点や、学生が集う場としての機能を有していることから、市民への周知を図り、歩行者立ち寄り拠点としての強化を図る。

NO	施策名
4	公営住宅の街なか移転

市営住宅については、老朽化に伴い順次建て替え・改善を計画している。基本的には現地建て替えだが、改築の用地確保のため一部を中心市街地周辺に移転し、街なか居住の促進を図る。

NO	施策名
5	安全で快適な歩道づくり

中心市街地及び周辺市道は、これまでもバリアフリー歩道の整備を進めてきた。継続して歩道新設や側溝改良に合わせた歩道の整備を行う。アーケードは買い物環境として必要であることから、撤去・再整備等の事業化が可能な制度の調査検討を行い、支援していく。

NO	施策名
6	駐車場の確保

中心市街地から来訪者や買い物客のための駐車場が無くなってしまった。
このため、来訪環境の向上のために、市所有地の一部を駐車場として整備する。

NO	施策名
7	観光案内所の整備

J R鷹ノ巣駅前には観光資源や店舗等を案内・紹介する場無く、観光客や来訪者へのPR不足や不案内が否めない状況にある。

このため、観光客や来訪者に対して観光情報や店舗情報、イベント情報などを紹介する観光案内所を整備する。

NO	施策名
8	雪に強い歩道づくり

空き店舗前などにおいて適切な排雪が行われていない箇所が見られる。

このため、積雪期における快適な歩行空間の確保を目指し、自治会や商店会の自主的活動はもとより、除雪ボランティアの強化、小型除排雪機器の貸出等を図り、雪に強い歩道づくりを進める。

NO	施策名
9	中心市街地を中心とした観光ルートづくり

中心市街地近郊には、国指定史跡伊勢堂岱遺跡、胡桃館遺跡などの史跡や羽州街道の史跡、歴史的建造物などが点在している。中心市街地を起点あるいは終点としたこれらを通るまち歩き観光コースづくりを進め、新たな来訪機会を創造する。

NO	施策名
10	商店街経営戦略協議機会の創造

秋田北鷹高校の開校に伴い、登下校時の生徒・送迎する家族などにより中心市街地における人の流れや来訪者のニーズが変化している。

このなかで、消費者ニーズやまちなかの人の流れなどについて、独自の調査や新たな営業戦略を検討・実践するため、商業者等による戦略会議の場づくりを推進する。

NO	施策名
11	歩いて楽しいみちづくり

鷹巣駅前・鷹巣銀座通商店街通りにあるアーケードのもとでは、売り出しに合わせた幟の配置やイベント等に合わせた飾りが施されている。

今後も商店会や個店の協働により、イルミネーションを施すなど季節感を味わいながら、歩いて楽しいみちづくりを推進する。

NO	施策名
12	秋田内陸縦貫鉄道利活用推進

秋田内陸縦貫鉄道の利用者数が低迷しており、秋田内陸縦貫鉄道の活性のためには、沿線の駅周辺の魅力向上や新たな来訪のための目的づくり、自動車から鉄道に転換させる工夫も重要である。

駅を利用する人が増えることは、自ずと中心市街地を訪れる人の増加につながることから、秋田内陸地域公共交通総合連携計画との連携を図るものとする。

NO	施策名
13	秋田大学北秋田分校、秋田北鷹高校などとの連携に向けた環境づくり

北秋田市には秋田大学北秋田分校があり地域資源の開発やまちづくりにおいて大学や大学生との協働体制がある。また、秋田北鷹高校では、学校農園で収穫した材料を使用した「栗入りどら焼き」や「リンゴロールケーキ」などの商品づくりが行われているほか、中心市街地を会場として行われる大綱引き大会など、高校の協力によるイベントも開催されている。

今後は、一般市民をはじめ大学生や高校生などの次世代を担う若者の力を活かした、商品開発、イベント企画運営などができる環境づくりを進めていくものとする。

NO	施策名
14	イベント活動支援

イベントには、賑わい創出・顧客との交流・新たな発見など様々な波及効果がある。中心市街地では「ふるさと踊りと餅っこまつり」「市民盆踊り」「大綱引き大会」「きらきらフェスティバル」が開催されている。市では、今後も継続して行政支援を行うとともに、開催しやすい環境づくりを行う。

NO	施策名
15	空き店舗への出店支援制度

平成 11 年度から空き店舗等利活用事業を行っているが、依然として空き店舗は増加傾向にある。

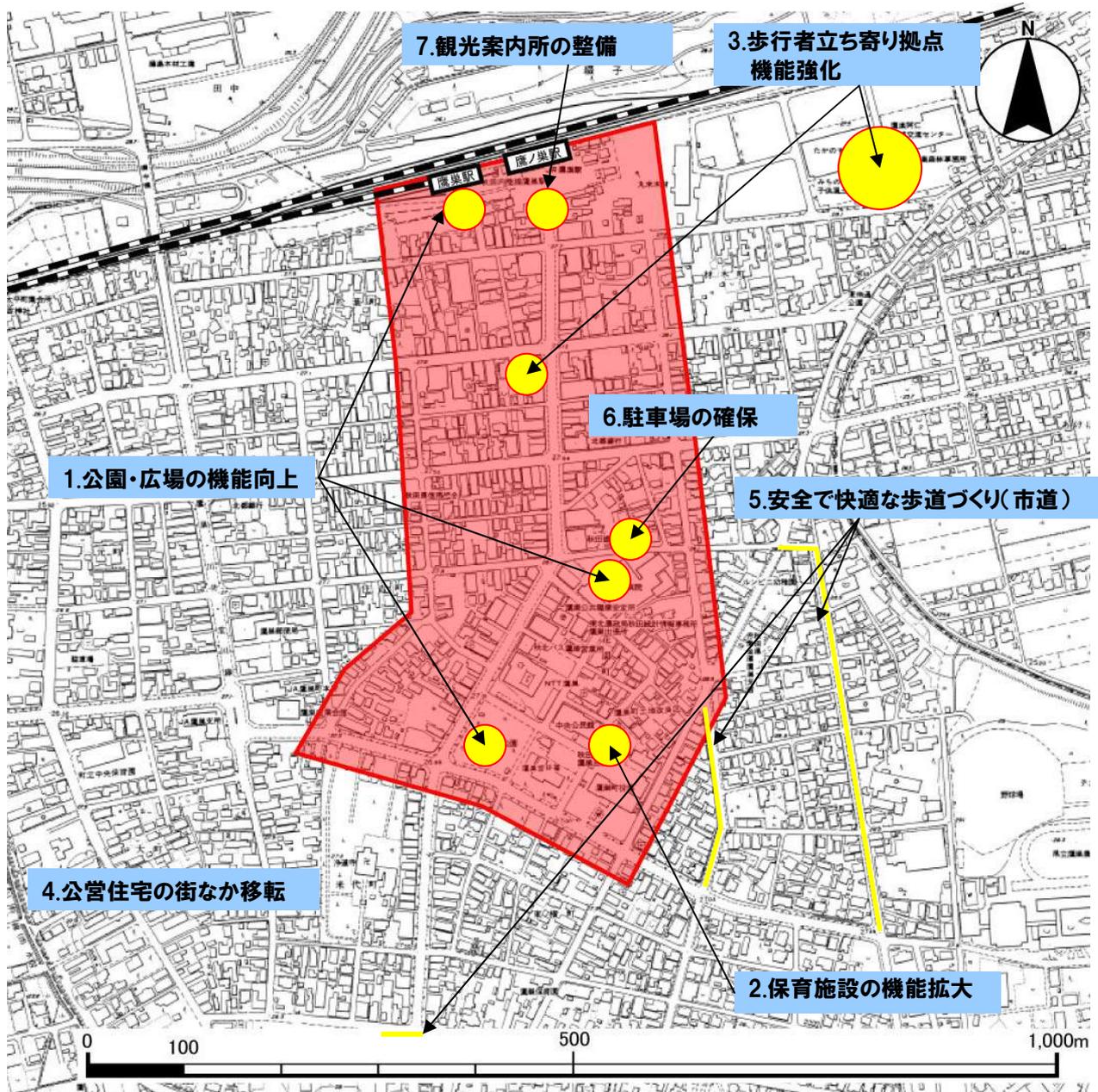
このため、今後は空き店舗への出店希望者の勧誘、マッチング、家賃補助などの支援のほか、空き店舗等データベースの作成や出店に向けた助言、アドバイザー制度など、出店支援の充実を図る。

NO	施策名
16	学生就労体験等システム構築

若者が街なかを訪れるきっかけの一つとして、「働く場の創造」が挙げられる。特に、長期休業期間は高校生などの往来が少なくなるなかで、新たに来訪する目的を創造することが求められる。

このため、長期休業期間などに、中心市街地の店舗や事業所での就労体験やアルバイトできる環境づくりを進め、若者がまちなかを訪れる機会を創造する。

(4) 施策の位置図



8. 雪に強い歩道づくり

9. 中心市街地を中心とした観光ルートづくり

10. 商店街経営戦略協議機会の創造

11. 歩いて楽しいみちづくり

12. 秋田内陸縦貫鉄道活用推進

13. 秋田大学北秋田分校、秋田北鷹高校などとの連携に向けた環境づくり

14. イベント活動支援

15. 空き店舗への出店支援制度

16. 学生就労体験等システム構築

図 2-7 施策の位置図

4. 中心市街地活性化の実現に向けて

当ビジョンで掲げた将来像の実現のために、各主体が役割を担い実践するとともに、総合的・一体となって取り組むことで、より大きな効果を生み出すことが期待される。

このため、中心市街地活性化に関わる各主体等の参画により、中心市街地活性化に向けて総合的・一体的に推進できる体制づくりを行う。

さらに、実践後の活性化の評価・点検を進め、課題を解決しながら、次なる取り組みへと展開するものとする。

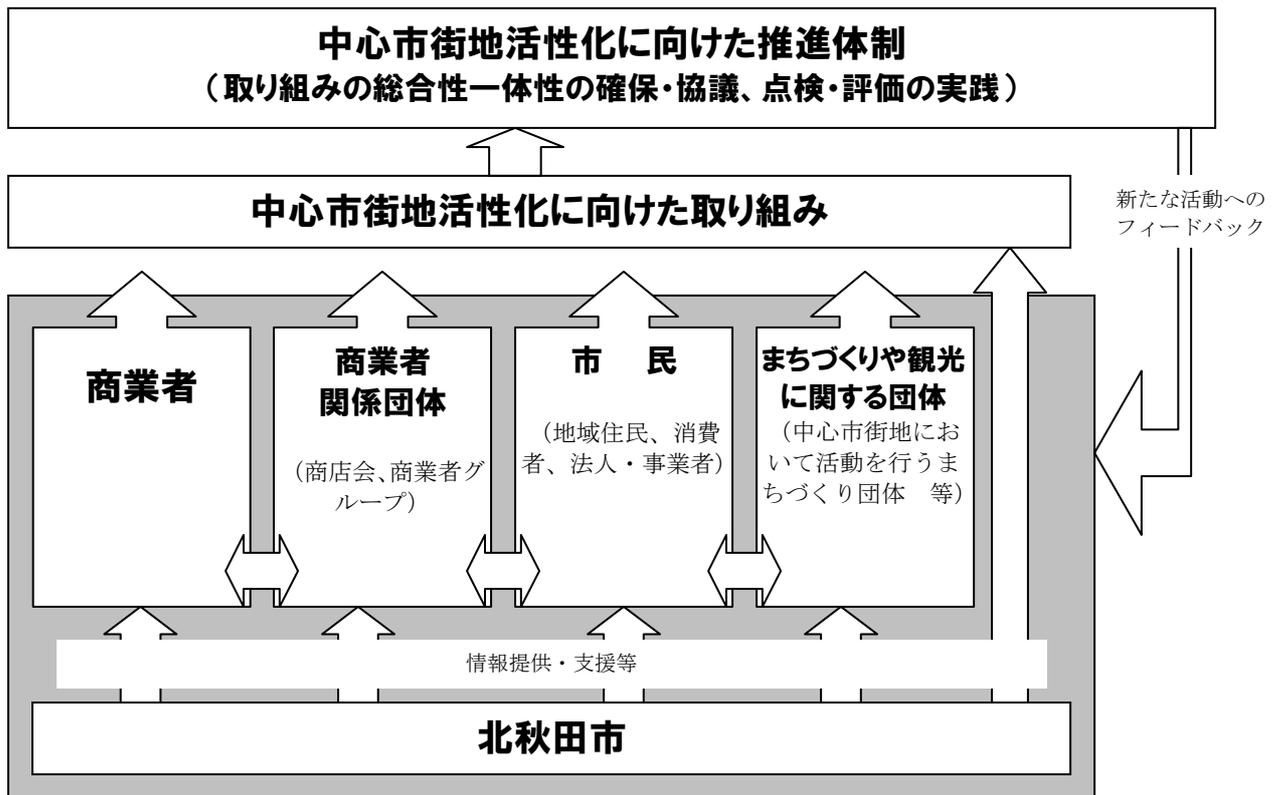


図 2-8 中心市街地活性化のための推進体制のイメージ

北秋田市中心市街地活性化ビジョン（素案）に対する 市民意見（パブリックコメント）について

「北秋田市中心市街地活性化ビジョン（素案）」に対する意見募集を実施しましたところ、6名の方から13件のご意見をいただきました。意見の概要とこれに対する市の考え方は、下記のとおりです。

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 意見募集期間 平成24年2月21日（火）～同年2月28日（火）
- (2) 意見縦覧方法 市産業部商工観光課・市総務部総合政策課・各総合窓口センター及び市ホームページ
- (3) 意見募集方法 郵送、ファックス、電子メール 等
- (4) 意見提出者（件数） 6名（13件）内訳：FAX3名、電子メール2名、持参1名

2 意見の概要と市の考え方

No,	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>○商業者の意識改革 客との会話や前向きな姿勢、客が再び訪れたくなるような態度など、商業者の意識改革が必要 (素案 P61,(4)役割分担,①商業者)</p>	<p>商業者や地域住民がもてなしの心を持って対応することは、非常に重要なことと考えます。</p> <p>北秋田市商工会女性部の「おもてなし心得5箇条」を全市の取組みとして商業者・事業者に浸透するよう様々な場において広めてまいります。</p> <p>北秋田市商工会女性部 「おもてなし心得5箇条」</p> <p>一、私達は、出会いの瞬間を大切にします。 一、私達は、お客様との会話に心を響かせます。 一、私達は、常に相手の立場に立って対応します。 一、私達は、お客様に謙虚な気持ちで接します。 一、私達は、出会えた喜びを感謝で伝えます。</p>

2	<p>○生き残りをかけ創意工夫を 大手スーパーでも生き残りをかけ、様々な事業を展開している。個々の商店でも創意工夫を。単独でできないこともあると思うので、商店街内で話し合いをし、ベクトルを同じ方向に向け、魅力ある商店街にしてほしい。</p> <p>(素案 P61,(4)役割分担,①商業者) (素案 P61,(4)役割分担,②商業関係団体)</p>	<p>中心市街地活性化は、商業者や商店会、だけでできるものではなく、商業者・市民、行政が一体となって推進していくものと認識しております。</p> <p>このため、本ビジョンにおける将来像の浸透を図るとともに、施策の一つである「商店街経営戦略機会の創造」を実現化し、各商店や商店街が一体となってどのような工夫が必要で、どのように取組むべきかを検討します。</p> <p>また、ビジョンにおいてそれぞれの役割を明記しており、その役割を担うべく努めてまいります。</p> <p>※商店街経営戦略機会とは：商業者ニーズやまちなかの人の流れなどについて、独自の調査や新たな営業戦略を検討・実践するための、商業者等による戦略会議の場</p>
3	<p>○駐車場確保の前に、客が来る商店街・商店に 駐車場がないことが問題視されているが、その前に人が来る環境を改善する必要がある。商業者の「なんとかしなければ」という危機感がないように感じられる。「お年寄りに優しい街」も大事ですが、「若者を寄せ付ける街」、「若者の目をひく店づくり」に努めてほしい。</p> <p>(素案 P61,(4)役割分担,①商業者) (素案 P61,(4)役割分担,②商業関係団体)</p>	<p>ご意見のとおり、街の賑わいづくりには若い力が必要です。しかし、若い年代ほど市内大型店、市外大型店に出かけております。消費者は飽きやすく、常に魅力あるものを求めており、大型店でも生き残りをかけ、様々な事業や工夫をしております。</p> <p>本ビジョンの役割分担にありますとおり、商業者には消費者ニーズの変化を捉え、支持される魅力ある個店づくり、商店街には来場者が快適に買い物できる商店街形成を働きかけます。</p> <p>また、「具体的施策」の一つであります「秋田大学北秋田分校や秋田北鷹高校などとの連携に向けた環境づくり」を実施することで、若い方達の意見を取り入れながら、若者にとって魅力ある街への取り組みを進めてまいります。</p>
4	<p>○市施設のPR 歩行者たまり拠点（歩行者や買い物客がちょっと休憩する場所）の機能強化とあるが、商店街にある『げんきワールド』は他市町村の方々にうらやましがられているが</p>	<p>「げんきワールド」は介護予防の拠点施設として建設されました。現在は、2Fで介護予防講座を月2回開催しております。また、市内のサークルの打合せや、学生の勉強の場としての利用のほか、高齢者をはじ</p>

	<p>PR不足を感じる。もっとPRをしたらよい。 (素案 P66,NO3 歩行者たまり拠点)</p>	<p>め、広い年代の方々に、市のイベント時等に休憩所として利用されております。中には節度のない利用者もあり、管理面で苦慮しております。</p> <p>利便性向上のため、今後は花や農産物の販売体験等高校の生徒会と施設活用の検討をしてみたいと考えております。</p> <p>また、地域ボランティア団体等の打ち合わせの場としての活用も図り、発表会や展示会としても活用を推進してまいります。</p> <p>さらには、買い物やバス・駅の利用者のための「待合・ほっとステーション」とし気軽に休憩できる施設でありたいと考えております。</p> <p>文化会館、交流センターPRについて 各種行事は市広報や市ホームページに掲載しております。各種行事に限らず、お気軽にお立ち寄りいただけるよう開放しておりますのでご利用願います。</p>
5	<p>○各主体にリーダーが必要 P 6 1に（４）中心市街地活性化に向けた各主体の役割分担とある。他地区の活性化成功例を見ても、率先するリーダーがいる。各主体の責任者もしくはリーダーが必要不可欠と思う。 (素案 P61,(4)役割分担,①～⑤)</p>	<p>市としてもリーダーの必要性は感じており、各団体等に呼びかけるなど、積極的に発掘、育成に取り組んでまいります。また、必要に応じ講座・研修会等を開催してまいります。</p>
6	<p>○『観光案内』の役割 具体的施策に『観光案内所整備』とあるが、鷹巣駅前にある会社が『観光案内』の役割を果たすはずでなかったか。 (素案 P67,NO7 観光案内所の整備)</p>	<p>ご指摘の観光案内所には、これまで市内の各種パンフレット配置及び観光案内に努めてまいりました。併せて市特産品の展示・販売、紹介をしてみまいりました。この度事業期間満了に伴い移転するため、同機能が駅前からなくなります。</p> <p>J R鷹ノ巣駅・秋田内陸縦貫鉄道鷹巣駅周辺は市への玄関口・観光の重要な拠点であることから、早急に観光案内所の設置に取り組みます。</p>

7	<p>○参加型イベントの推進</p> <p>地域の方々がその気になる参加型イベントを目指し次のような内容はどうか。</p> <p>①ナイトバザール：市日・軽トラ市・フリーマーケットを夜に開催する。ライトアップでお祭り効果の演出となる。ステージを設け、市民の演出により賑わいが生まれる。</p> <p>②パワーアップまつり：健康をテーマに開催。からだの健康として、地元の唄と踊り、健康体操を行う。こころの健康としてシニア～ジュニアの交流により遊びや生活の知恵を伝承する。食の健康としてシェフ×シェフ（主婦）野菜料理対決</p> <p>上記のため、メイン会場となる公園にステージを設け、トイレ・照明・水道を整備し花と緑でイメージアップを図る。</p> <p>また、伝統風習行事を発掘し継承していく場とする。</p> <p>（素案 P69,NO14 イベント活動支援）</p>	<p>今後のイベント検討の参考にさせていただくとともに、自主的に開催する団体等を育成・支援し、賑わい創出に取り組んでまいります。</p>
8	<p>○おらほのアウトレットぱーく開店</p> <p>規格外農産物や加工品、型くずれ食料品を販売する。併せて手作りアイデア商品（昔ながらの良いものを今風にアレンジしたものや工夫展覧作品）を販売する。</p> <p>（素案 P69,NO15 空き店舗出店支援）</p>	<p>商店街は様々な個店が集合して形成されており、一つのショッピングモールとも考えられます。ご提案のアウトレット店が出来ることにより、来街者の選択が広がることから、今後も新たな出店者を育成・支援してまいります。</p>
9	<p>○景観作り</p> <p>北秋田市の魅力である自然・緑を全面に出した景観づくり、テーマを持った統一感ある景観を形成してはどうか。</p> <p>①アジサイ（市の花）をメインにした緑あふれる街</p> <p>②アーケードからモールへの転換として、並木やベンチを配置し、遊歩道風にする。</p> <p>③空き地を利用し、見せる休む緑地を設ける。</p> <p>④地元特産の珪藻土でコンテナを作成し、花や緑を植えコンテストを行う。これをインターネットで配信する。</p> <p>（素案 P68,NO11歩いて楽しいみちづくり）</p>	<p>北秋田市にある資源を活かし、景観行政団体登録をして、景観条例制定に向けた調査・検討を進めます。</p>

1 0	<p>○縄文大通り</p> <p>現在、市は伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録を目指している。この活動に併せ商店街や市民・観光客が縄文文化を強く意識できるよう、鷹巣駅前商店街・鷹巣銀座通商店街を『縄文大通り』と名付ける。市内遺跡群からはユニークな土偶類が多数出土しているため『縄文大通り』に展示場所、併せて焼物作りコーナーを設けてはどうか。また、商店街で使用できる貨幣（地域通貨）を発行してはどうか。貨幣は焼物にし、記念品（お土産）にもできるものにする。</p> <p>（素案 P68,NO11歩いて楽しいみちづくり）</p>	<p>「商店街経営戦略協議機会の創造」の中で、テーマとして協議してまいります。</p> <p>「縄文大通り」の命名は各商店街が総会等で決定して表明すれば可能と考えます。土偶や土器の本物は展示できませんが、パネル展示は可能です。</p> <p>貨幣（地域通貨）の焼物はユニークなアイデアであり、実施主体となる団体等と協議してまいります。</p>
1 1	<p>○ミニFM放送局開設</p> <p>ミニFM（コミュニティ放送）放送局を開局し、地域の情報はもとより地域の音楽・新しい音楽の紹介、商店街歩行者に呼び掛けるなどの工夫はどうか。DJは高校生にも参加してもらおうなど新しい工夫で街を変えたい。</p> <p>（素案 P69,NO15 空き店舗出店支援）</p>	<p>類似した事業として昨年12月、市空き店舗事業を活用して、インターネット回線を活用した生放送が実施され、好評を得ております。</p> <p>今後も、ご提案の事業を行う事業者を育成・支援してまいります。</p>
1 2	<p>○雪かきロボット特区</p> <p>未来に向け先行投資で『雪かきロボット特区』申請はどうか。秋田県産業技術センターと地域の2次産業者で共同研究・開発する。失敗しても何らかの成果物があるのでそれを特許や実用新案として地域の財産にする。</p> <p>（素案 P67,NO8 雪に強い歩道づくり）</p>	<p>高齢化社会を迎える中で、除排雪、雪下ろし等は、大変な重労働であり、毎年死傷者が出ています。高齢の方々でも安全・簡単に操作できるようなロボットが出来れば、雪対策に大きな貢献が期待出来ます。研究・開発の可能性も含め、関係機関と検討してまいります。</p>
1 3	<p>○公園・広場の活用</p> <p>の『無煙還元電気炉』を設置し、有料で陶器作成体験をしてはどうか。併せて珪藻土の新商品研究開発の場として提供してはどうか。</p> <p>（素案 P66,NO1 公園・広場の機能向上）</p>	<p>公園・広場への陶器作成『無煙還元電気炉』設置については、様々な課題が予想されることから実現可能か検討してまいります。</p> <p>珪藻土については、秋田大学・秋田県立大学・秋田県立大学木材高度加工研究所・秋田公立美術工芸短期大学、民間、県、市などによる北秋田市珪藻土等地域資源利活用検討会が開催され、商品開発に向け取り組みがされております。</p>